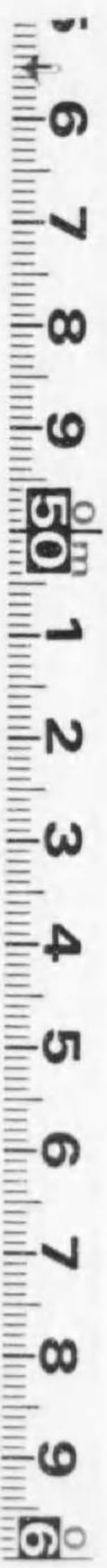


熊南縣案內

特111

938



始



特114
938

熊本縣案內目次

口 繪 阿蘇、水前寺、熊本市街、熊本縣名所圖繪、熊本市街地圖
序 文 高橋共進會長、紫藤協賛會長

熊本縣 一
熊本市 三
熊本市三大事業 一
熊本市營電車 一
熊本市上水道 一八

步兵第廿三聯隊移轉 二四
熊本市信用組合 二八
熊本市公設運動場 三二
熊本市都市計畫 三三
熊本市遊覽地 三三

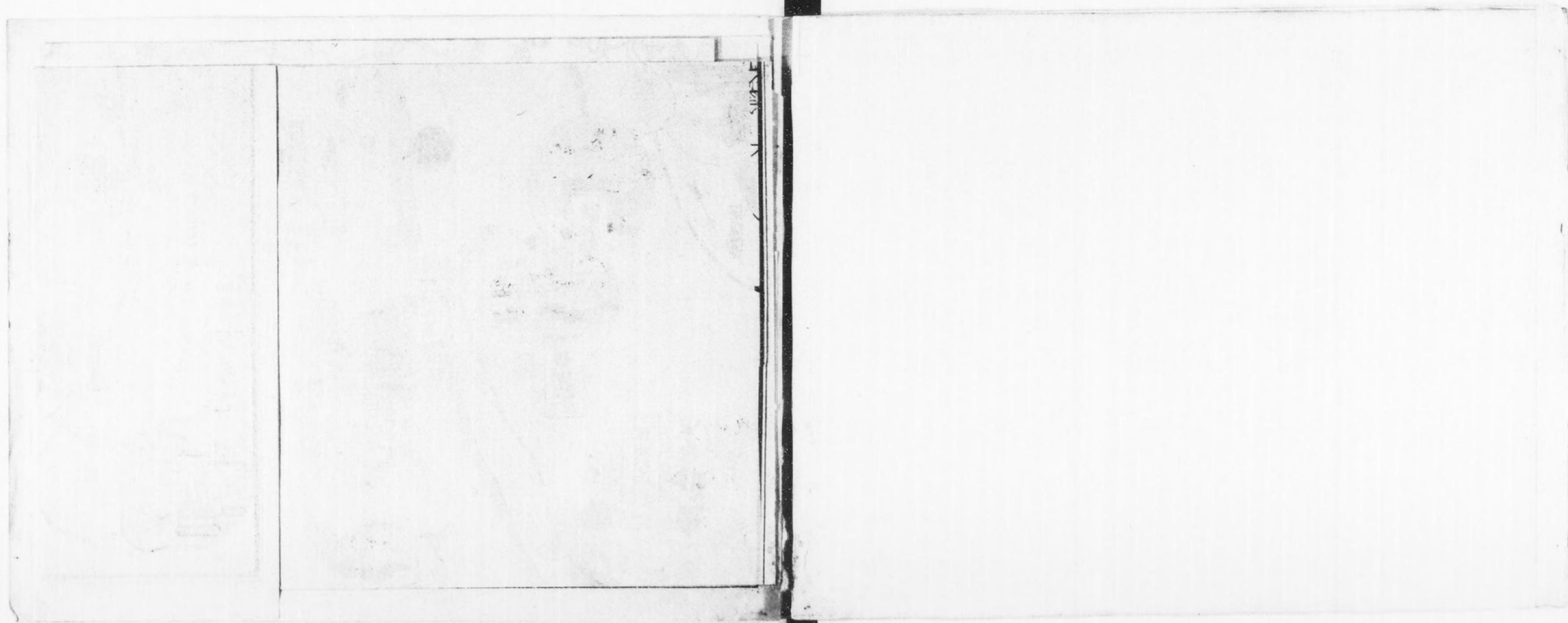


熊本市 五
鹿本 五九
阿蘇郡 六〇
上城郡 六三
下城郡 六五
八代郡 六七
葦北郡 七〇
球磨郡 七三
天草郡 七六

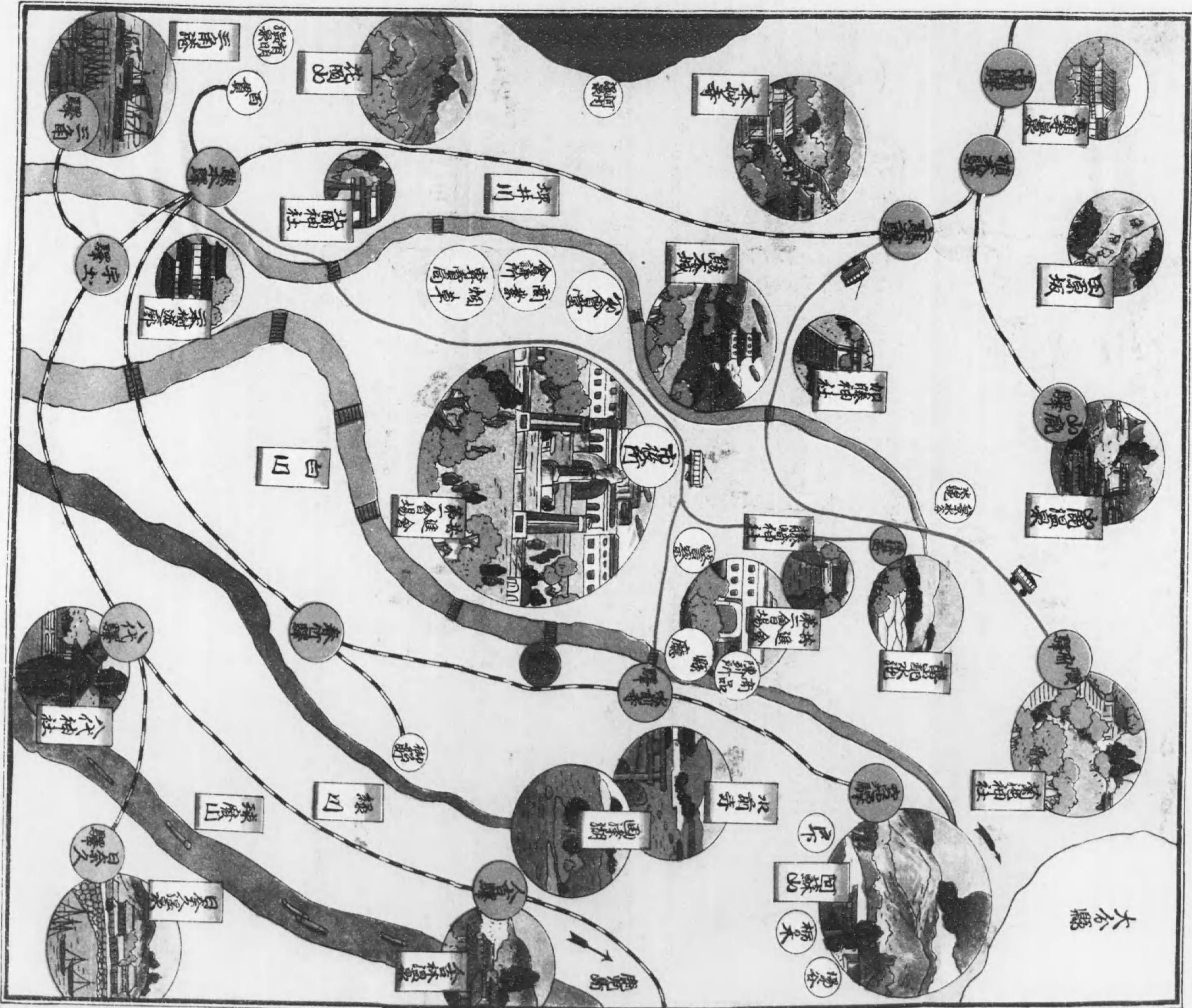
大正
14. 4. 8
肉不



(下) 熊木市街の一部 (中) 水前寺公園 (上) 阿蘇山



SIDE



岐阜県

高松市

五福島

五福寺

つじ神社

五福島

五福島

つじ神社

五福島

つじ神社

つじ神社

つじ神社

つじ神社

つじ神社

つじ神社

つじ神社

つじ神社

つじ神社

つじ神社

つじ神社

つじ神社

つじ神社

つじ神社

つじ神社

つじ神社

つじ神社

つじ神社

つじ神社

つじ神社

つじ神社

つじ神社

つじ神社

つじ神社

つじ神社

つじ神社

つじ神社

つじ神社

つじ神社

つじ神社

つじ神社

つじ神社

つじ神社

つじ神社

つじ神社

つじ神社

つじ神社

つじ神社

つじ神社

つじ神社

つじ神社

つじ神社

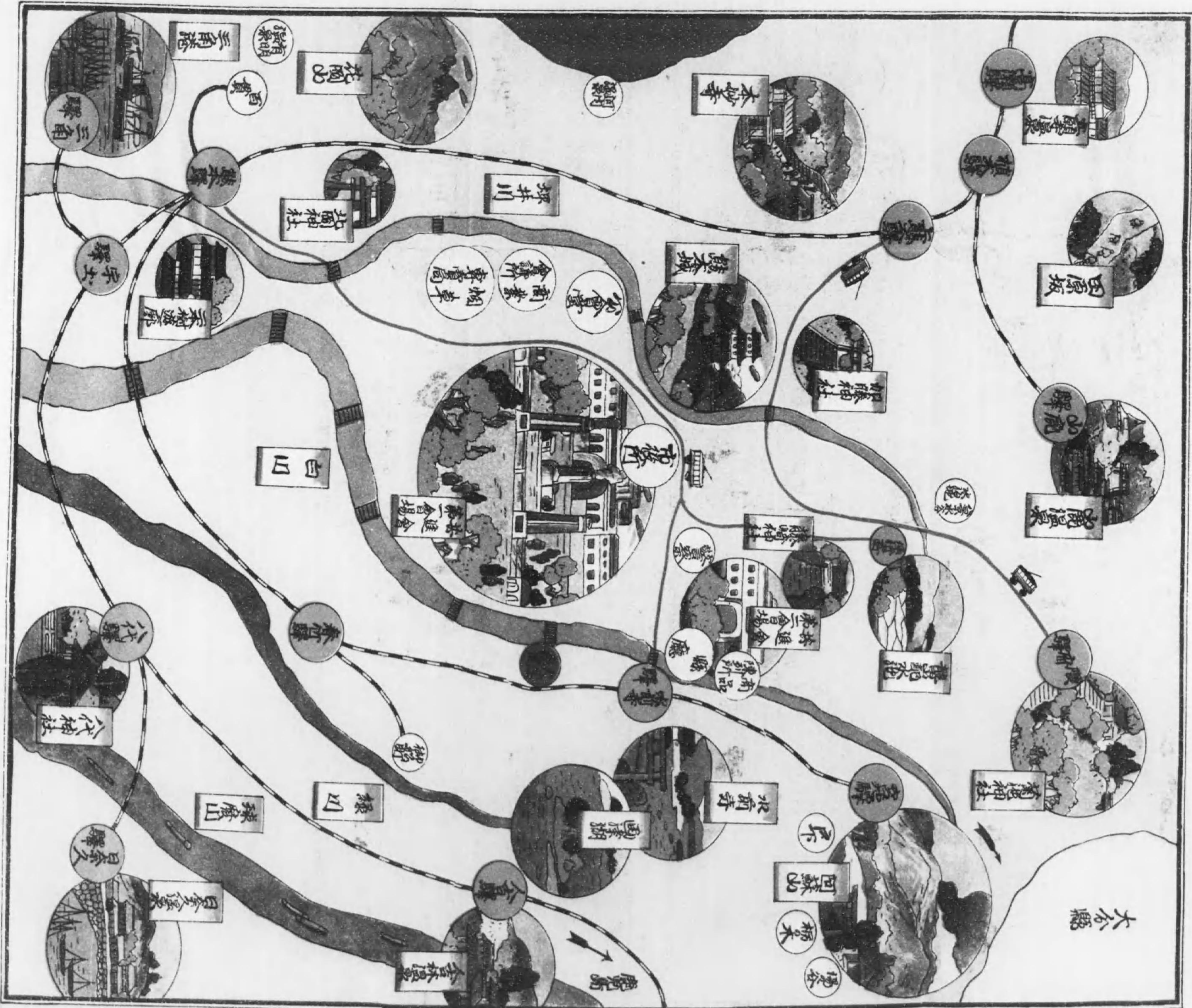
つじ神社

つじ神社

つじ神社

つじ神社

滋賀県



熊本市案內圖

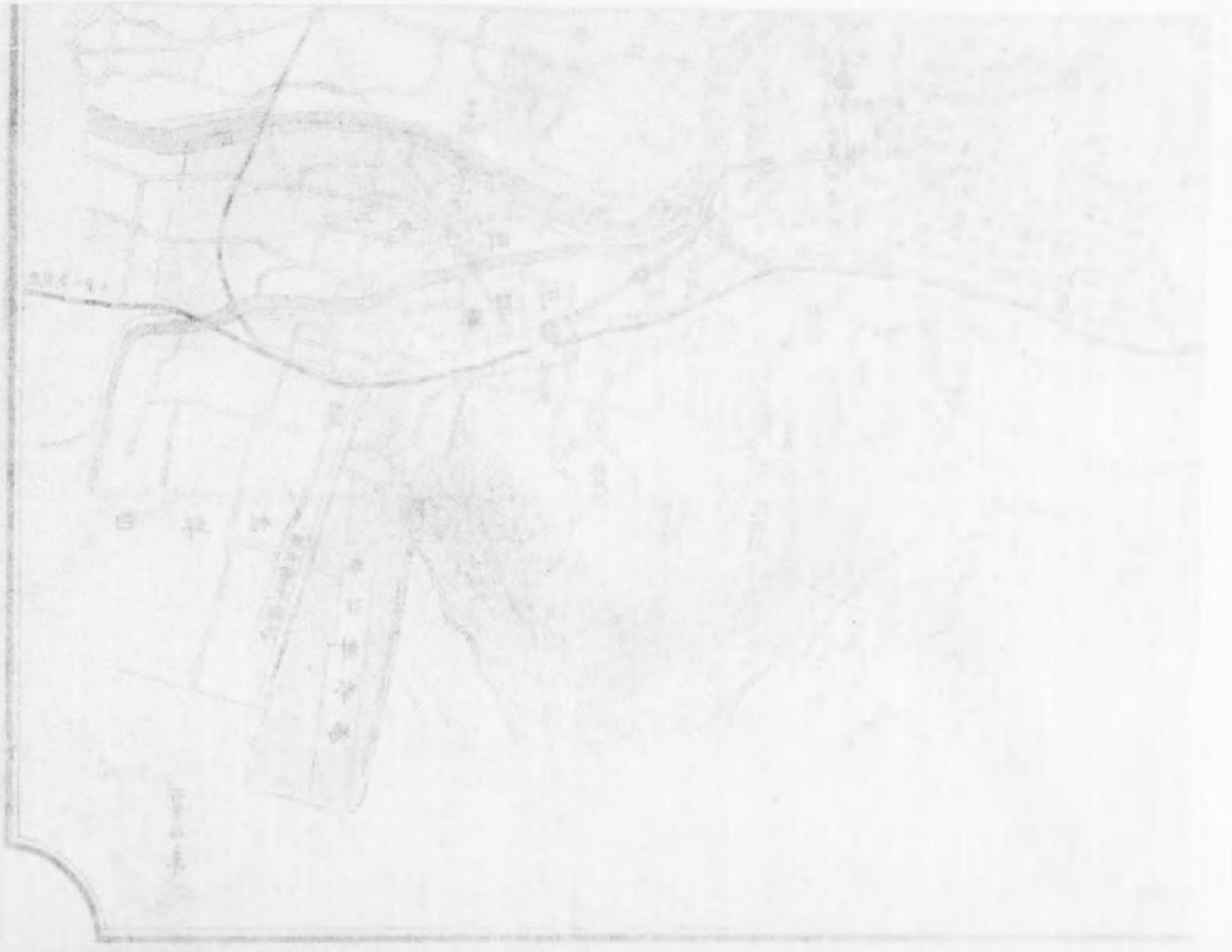
縮尺二萬分之一



凡例

道路	市街	町界	市界	川及池	山脈
			電車線	市電線	鐵道

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25



序

本市宿年の問題たりし、電車、水道、並に二十三聯隊兵舎移轉、此三大事業が時を同うして成就したるは、畢竟するに人の和、天の時、地の利を得たる結果である。

これを記念し、且つ本縣市の殖産工業を振興、發達せしむる一策として各府縣の特産の品を集め、各地の特産が必ずしも天恵にのみ據らず、人為努力の結晶であるといふことを確實にし而うしてこれを機會に殖産工業發達の一時期を劃する考へて今次熊本市三大事業記念國産共進會を開催したのである。

時恰も不景氣の時代なるにも拘らず植民地を始め各府縣競ふて出品し、三府の地を除いては到底企及し能はざる大共進會を開き得たる事は感謝に堪へぬ。然りと雖も多くの人を集め、見て貰はなければ共進會として何等効果を奏するものでない。茲に於て一面、人をして樂しませる設備を要すると同時に單に低級なる歡樂に非ずして文化の進運に伴ひ精神作興に寄與するものでなければならぬ。市民一致の力、言論、機關、並に宗教團體の聲援、各出品者の熱意が遺憾なく此點を發揮されたる蓋し共進會としてその例に乏しき一大特質なりと謂はねばならぬ。

これを要するに縣市民の大なる自覺により今次本市の共進會がその目的を達成することを確信する。

本縣案内記は市政擔當の操縦者諸君により編纂されたるもの本縣市産業の實勢及び史實を究めて正當明確を極む。けだし本縣市の宣傳これによつて究しと謂ふを得べし。

熊本市三大事業記念國産共進會長

熊本市長 高橋守雄

序

我熊本縣は箕雲の大海を抱き、沃野數十里、農林、水陸、商工の産、敢て他に一籌を輸するものでない、若しそれ熊本市の中央に曾立する銀杏城は造樑天工を奪ひ、阿蘇の五岳、繪圖の双湖、球磨の急流に至つては蓋し天下の奇勝たるを失はぬ。

今次熊本市三大事業記念國産共進會開催の事あり、もとその目的とする所、電車、水道、二十三聯隊兵舎移轉事業の成就を視するに在りと雖もその出品は殆ど全國各府縣を網羅せるのみならず、遠く鮮、滿、臺灣、南洋等に及び、規模の雄大、設備の壯麗、本市未曾有の事に屬す。即ち本協賛會に於ては此好機會を利用し、本縣市宣傳の手段として本縣案内記を編纂する事に決定し、これが實務を擧げて市政擔當の操縦者諸君に託した。

今の梓成り、就て見るに、其職能により、類を賦はす、勞を惰ます、名所古蹟の由来を討ね、農工商の一斑を明かにし、材料的確、記述簡約なるを得たり。木冊子の世に出づるの蓋し本會の微意を達したりと謂ふべきである。

熊本市三大事業記念
國産共進會協賛會長

紫 藤 章

熊本縣

肥後米の良質と、阿蘇の大噴煙と、而して球磨川の激流と、此三つのものによつて著聞せる我が熊本縣は近時、交通の發達と共に、産業大に振興し、日本に於ける農産地としての地位は何等變らないが、今や日本に於ける商工業地としても亦屈指のものとなつた。我が熊本縣は九州の中央に位し、肥後一國より成る、北は福岡縣及び大分縣(筑後、豊後)に界し、東は大分縣及び宮崎縣(豊後、日向)に接し、南は宮崎縣及び鹿児島縣(日向、薩摩)に隣す、西方一帯は有明海及び不知火海に瀕す、萬里船舶の詩で知られてゐる天草群島は不知火海の西に琴竈嶺のごとく、而してその北方は早崎海峡を隔て、長崎縣と相對し、西は渺茫たる天草洋である。廣きは東西三十六里、南北三十二里であつて、面積四百八十一方里餘一市十二郡(熊本市、飽託、玉名、鹿本、菊池、阿蘇、上益城、下益城、宇土、八代、球磨、葦北、天草)に分轄す現在戸數(大正十二年度調べ)二十三萬千八百八十七戸、同人口百三十四萬四千二百七十三人を包容し、一方里の現住戸數四百八十一戸、同人口二千七百九十人であつて、一町村平均現住戸數六百六十四戸、同人口三千八百五十二人、一戸平均の人口は五人八分に當る。

東南北の縣境地方は山岳重疊してゐるが西北の沿海地方は概して平坦である、熊本市の東方より南方に亘る一帯を熊本平野と言ひ、此の面積約四十八方里にして本縣面積の約十分一を占めてゐる。球磨川、緑川、白川、菊池川の諸川あり、何れも東より西に流れ、灌漑の便を助けて地味至つて豊沃である。良質肥後米は實にこれ等諸川の灌漑によりて造られる、而して延長百九十一里餘に亘る海岸線はすべてこれ遠淺にして良港に乏しく、僅かに三角港のあるありて海の方面に於ける熊本縣を代表するのみ、八代、百貫石、牛深、富岡、長洲等の諸港あるもその貿易額に於て、交通の要衝たる點に於て未だ以て誇りとするに足らぬ。然し乍ら近く大連、仁川、釜山、長崎、三角間の連番定期郵路が開始せらるる曉に於ては單に三角港の地位が向上するにとまらずそれは直に我熊本縣の地位を高め同

時に一層その産業を發達せしめるや勿論である。既に縣に於ては三百五十萬圓を以て三角の港灣的設備に着手し、百貫石を亦將來熊本市の支脚たるに至るべく、都市計畫施行範圍に編入されんとしてゐる。

氣候は地方により寒暖の差烈しいが、朝霧瀧谷にして最低温度攝氏零度下八度四を示したのが過去十年間のレコードである。更に交通に就ていへば、國有鐵道九州本線は縣の西部を南北に貫通し、天下の絶勝、矢岳の峻険を越えて鹿兒島に達す、支線は熊本驛より分岐して大分縣に通ずる所謂九州横斷線たる豊肥線が阿蘇郡宮地町まで開通せるものと、宇土驛より分れて同郡三角港に到るもの、及び八代驛より分岐して日奈久に到る肥薩海岸線と大津驛より分岐して湯前驛に到る日肥線の四支線を數へる。亦私設鐵道は熊本驛より鹿本郡山鹿町に達する鹿本鐵道、春竹驛より上谷城郡甲佐町に到る御船鐵道、上熊本驛より菊池郡隈府町に到る菊池電車、鹿託郡白坪村より同郡百貫石に至る熊本電氣軌道があり熊本市營電車は熊本驛を起點として水前寺に達するものと水道町より分れて淨行寺町に到る幹支線(何れも第一期線)が走つてゐる。

農産を始め、蠶絲、林産、畜産、礦産、水産、工業等各生産業は冒頭記する如く近時大に振興し眞に見るべきものがあるが、大正十二年度に於ける調査に従へば生産總額は實に二億一千六百十三萬餘圓に上つてゐる。而してこれを各種別にすれば農産は流石に本縣生産の大宗だけに九千七百四十四萬圓に達し、生産總額の四割五分を占め蠶絲は一千二百萬圓林産は千四百四十五萬圓、畜産は三百九十萬圓、礦産は六百四十萬圓、水産は五百十萬圓、工業は八千四百萬圓である。

熊本市

熊本市といへば世人は往々「政爭激甚の土地なり」といひ、その外には熊本城と朝鮮館とのみ、何等見るべき殖産工業なしといふ、而もこれ等の半面をのみ見たる説にして眞の熊本市を解せざるものといはねばならぬ。舊時の熊本市はいさ知らず、現時の我が熊本市は成る程世人のいふがごとく政爭も可成り猛烈であるが産業の發達、文化的施設、市勢の隆盛、これ等は亦以て大に誇るべきものがある。電車の開通、上水道の敷設、新市街の建設(共進會場三萬餘坪に理想的美觀街を建設するもの)これ等の大事業は時をおなじうして遂行したる熊本市は面目全く一新、グレイド熊本市の完成に向つてその歩を進め北は清水村八景水谷水源地より東は水前寺瀧津湖をとり入れ南は白坪村より百貫石港まで包含する都市計畫の大本を樹立した。今後に於ける熊本市の發達は既に面目して見るべきものがある。而して我熊本市は縣の中央、舊託摩原の平野に在り、阿蘇の火山下より發したる白川は市の東を流れ、清水村にその源を發する坪井川は市の中間を貫く、東南は十里の沃野開け、南北に通ずる國道第二號線(福岡方面—鹿兒島)入津、宮地を経て大分に達する縣道熊本大分線、御船瀨町を経て宮崎に至る縣道熊本宮崎線等の諸路線は來り合してゐる。更に國有鐵道は鹿兒島本線福岡方面より南下して市を貫き八代、人吉、吉松を経て鹿兒島に達す。然して所謂九州横斷鐵道なる豊肥線にして開通せんか、我が熊本市は四通八達、その交通的地位は實に九州第一中央都市たるに至るであらう。熊本市の廣きは東西二里六丁、南北一里二十六丁にして大小百四十の街衢より成る、便宜上これを大別して古町方面、坪井、黒髪方面、高田原方面、新市街方面、新屋敷、大江方面、京町、池田、花園方面、新町、島崎、横手方面、二本木方面、木山、迎町方面、春井、本莊方面とすることが出来る。古町方面は本市目録の場所であり商業上の中心地點である、唐人町のごときは商家軒を並べ商況活潑、行人常に雜關す、従つて銀行會社等金融機關は多く此方面に集中してゐる、商業地としては此の外坪井方面を代表するものにも上通町があり

商業及び遊樂地として新市街がある、更に新町があり二本木がある。二本木は亦遊興地にして四時遊客充ちて繁華である。他は學校街、又は住宅街、農業地で本莊町の如きは近年工業地として開拓されつゝある。戸數、萬三千五百八十三戸にして人口十三萬三千四百六十七人を有してゐる。(出水村併合後は人口十四方を越ゆる) 舊藩時代の熊本を記するは事餘りに歴史的になり過ぎることで明治初年以後に於ける熊本市發達のアトを尋ねるに明治六年熊本を分つて南北二區とし、北を第一大區十五小區とし京町、坪井の二組これに屬した、南を第二大區十五小區として手取、吉町の二組これに屬した、町數すべて二百十六個町であつた。下つて明治七年、更に第一大區八十區に編成し當時の戸數九十四百九十九戸、人口四萬四千八百六十六を有した。明治十二年元熊本市第一大區々域の外、飽田郡の内の出町、飽田郡内の新屋敷町及び迎町を編入して更に熊本區を置き、戸長を十七區域に分ち、町數百三十八個町になつた。これが實に現今市區域の基礎となつたものであるがそれより數度の市區改正あり明治十二年四月に至つて市制を布きこれを實施した。かくて市街は年と共に發達し發展を加へたが大正十年六月隣接十一ヶ町村を編入して所謂大熊本を實現するに至り、市の面積及び戸口は今日のごとく増大したのである。而して積極的市民の意氣と熱誠なる努力と相待つて産業大に興り詳々たる熊本市の前途を展開することを得た。

熊南市の三次事業

熊本市營電車

一、沿革

從來の交通機關 九州の雄藩として其名を鳴らした舊藩時代は重もあれ、人口十三萬五千を抱擁して政治經濟の重鎮を爲せる我熊本市は其大に於て都市たるの資格に恥づる所はないが、文化的施設に至りては比較的遅れを取つてゐた、殊に交通機關の不備は其著しきもの、一つであつたことは事實であつた、從來市内の交通機關としては、明治四十年大日本軌道株式會社が經營せる所謂輕便鐵道があり、市内安巳橋から市外水前寺に至る線及び、市内知足寺町から市の南西部新市街、船場町、鹽屋町、新町方面を経て上熊本驛に至る線及び、知足寺町から市の北部水道町、南千反畑町等坪井方面を経て、菊池郡大津町に至る線等があつて、僅に交通の補助を爲すに過ぎなかつた、然も設備の不完全と、運輸能率の不足とは、素より年々劇増する市の交通を緩和するに足らず、利用者も亦次第に減少して同會社は收支償はざるに至り、大正九年七月遂に解散の悲運を見るに至つた。

電車問題の發端 是より先。我熊本市に電車敷設の輿論が勃發したのは十年以前の事に屬す、かくて稍具体的に研究せらるゝに至つたのは大正六年末時の市長佐柳藤太氏の時代からである、當時一般商工界は歐洲戰爭の好譽を享け最も好況時代であつたので、電車敷設の輿論は愈々高潮し、市當局も亦輿論に鑑み之が審議の機關として、縣下の有ゆる有識を網羅せる電車期成同盟會なるものを組織し、市長を會長として種々の審議調査を始めた、之が電車敷設問題の抑もの嚆矢である。

日本軌道との交渉 爾來期成會に於ては翌七年、數名の視察員を選定し九州各都市の電車事業を視察せしめ、次で當時の市會議長山隈康氏外四名を交渉委員に推舉して、翌八年に亘り電車敷設問題に就き屢々日本軌道會社と交渉を重ね

たが、遂に成立を見るに至らずして頓挫した。

熊電との交渉 大正八年市は更に市會議員中より九名の電車委員を推選して、本問題の審議に任し、或は技術者を招聘して實地調査を試むる等、種々畫策するところ多く而して一方に於ては、新に民營會社を創立し日本軌道會社より一切の権利を買収し電車事業を經營せんとするの議論が起つて來た、けれども市當局は當時經濟界の状態に鑑み審議の結果、既設會社にして其動力を有する熊本電氣會社に電車の營業を爲さしむるを以て最も安全の策であるとし、同會社と屢々交渉を重ねた結果、大正九年二月同會社は市に對し假契約を提出した、而して同案は道路擴張費、軌道敷設線路、報償金等其他十五項より成るものであつた。

條件中共骨子とも稱すべき條項は
一、道路の擴張は市に於て之を行ひ會社は定款を改正し軌道を敷設し電氣軌道事業を經營する事

一、道路擴張費を金百六十四萬圓とし市及び會社に於て其半額宛を負擔する事等であつた、交渉は稍々具体的に進捗して來たが、大正九年度に於ける我經濟界の變動は、事業界に一大恐慌を與へた、爲めに本問題は端なくも停頓するの已むを得ざるに至つた。

電車會社の創立 其後無電會社は將來の經營上電氣事業に電車事業を計劃するの必要に基き、別に資本金三百萬圓の會社を組織し専ら電車事業を經營せしむるの希望を以て協商を重ねたが、市は先に締結せる假契約其他の協定事項を、會社成立の上一切之を繼承せしむるの條件を以て無電の提議に同意したる結果、茲に資本金三百萬圓の電車會社が新に創立せらるゝ事となつた、之れ實に大正十年十一月の事であつて電車敷設の輿論が起つて以來五ヶ年の歳月を閲してゐた。

事業穴惚む 爾後電車會社は市との假契約に基き、軌道敷設に關する諸般の調査及び設計路線の實測等に着手し、又市に於ては屢々電車委員會を開き鋭意事業の進行を圖つたが、茲に端なくも一難關に逢着した、即ち特許の附帶條件たる道路の幅員に就て市は會社と共に慎重なる考究を重ね道路の幅員を増大した結

果、會社當初の計畫と齟齬を來し、爲に會社は増資を爲すに非ざれば資金不足を告げ事業の遂行頗る困難なる状態に立至り、而も財界は尙ほ不況にして到底増資の見立たないのみならず、經費の増大は營利會社として收支相償はざる結果に陥り、遽かに其計畫を實行し難き状態に立ち至つた、かくて電車敷設問題は再び茲に行悩むの止むを得ざる状態となつた。

市營を決定 大正十年十一月を以て佐柳市長の任期満了す、以來佐々木助役當面の事務を處理したが、翌十一年一月十九日現高橋市長新に任に就き、二月一日を以て來任す、尋で同年五月松尾助役の赴任を見、市政の有ゆる方面に亘り更



始一新の實を擧げんことを期し、善處努力す、當時電車問題は全く行詰り、多年市民の嚮望も達せらるゝ時機絶えたるの觀あり、即ち市民の輿論は愈々糾糾し電車敷設の急を懇ふるの聲滔天のごときもの交があつた、高橋市長は就任早又早本問題の解決に奔走し、電車會社と屢々折衝を重ねた結果、市營を斷行して市民の期待に副ふの外なきことを決意し、同年六月十九日に關する變書を作製して同會社に提出し其同意を得たので、七月二十四日特別電車委員會を開き同會社の事業引受に關する契約書案を審議し翌二十五日

委員總會を開き同案を附議して異議なく決定した、同日三十一日更に同案を市會に附議したが市會も亦之に異議なく可決した、一方同會社に於ても亦株主總會を開き議決の決議を爲したので、同年八月一日電車會社と右契約書を手交し同會社が計畫せる一切の事業及び利権を引受け財産を買収して愈々市營で本事業を遂行する事になつたのである、かくして茲に本市多年の懸案は全く解決し、市營電車實現の曙光を認むるに至つた、顧ふに電車敷設問題が發議せられてから年を閲すること約六年の久しきに亘り、電車委員會を開くこと前後三十五回に及んだのである、此間波瀾あり曲折あり、時に或は經濟界の變動等あり、眞に幾多の難關を経て市營電車の實現を見るに至つたことは、我市民の感謝と共に忘るゝことのない事蹟である。

二、第一期線の敷設

電車部の新設 大正十一年八月五日市は新に電車部を設け松尾助役即ち部長の任に就き、従來の電車會社より社員及び技術員を市に移し、又新に吏員及び技術員を任用して總務、軌道、電氣の三係に分ち各係長をおき電氣軌道敷設に關する事務を分擔し、線路の實測工事の設計及び事業經營に關する財政計畫を樹て以て實施の準備に著手し、次で同十二年三月二十六日軌道敷設特許權讓受の許可を得、同月三十一日電氣事業讓受の認可を得た、而して四月十三日に至り電車會社との契約に係る事業引受に關する一切の引續を完了した、尙ほ運輸開始に伴ふ事務擴張の結果現在に於ては總務、運輸、工務、電氣の四課に分つてゐる

持許線 大正十一年十一月十四日、元電車會社が敷設特許を得た電氣軌道線路は左の如くである

- 一、熊本市春日町熊本驛前を起點とし紙圍橋を渡り細工町一丁目右折して唐人町、鍛冶屋町、古川町を經西通町より左折して山崎町、練兵町、幸島町を經花畑町より右折して下通町に至る路線前項終點より仲間町を經知足寺町に至る新設線、同終點より木戸組町、水道町、南千反畑町、妙休寺町を經



- 東坪井(淨行寺町)に至る路線線一哩八
- 二、前項終點より中坪井町、西外坪井町、内坪井町寺原町、京町を經池田町(上熊本驛)に至る路線線一哩三
- 三、下通町より分岐し新鍛冶屋町より白川を渡り春竹町(春竹驛前)に至る路線線一哩九
- 四、安巳橋通町より分岐し安巳橋を渡り大江町を經出水村大字今出水神社前に至る路線線一哩五
- 五、花畑町より分岐し船場町上一丁目より坪井川を渡り壘屋町、新町二丁目、同一丁目を經物屋町に至る路線
- 前項終點より段山町に至る新線軌道敷及び同所より池田町(上熊本驛)に至る路線線一哩九
- 六、東坪井町(舊線終點)より分岐し藥園町小幡町を經重慶町大字坪井に至る路線線一哩九

線單線〇哩五

以上合計八哩九の路線であつたが其後市營實施調査の結果本市の現状並に將來の交通情勢及び地勢の關係、用地買収費、道路擴張費、等の關係につき更に慎重考慮を加へ右特許線の一部を変更することゝした

第一期施設線 上級の橋

如く市は實施調査の結果特許線の一部を変更し、更に現下の交通情勢に鑑み最も緊急敷設の必要ある線路を選び、第

一期施行線として敷設し、他の線路は之を後年に繰り延ぶることとした、其路線は即ち

- 一、市内春日町、熊本驛前を起點とし、祇園橋を渡り細工五丁目より新設道路にて川端町に出で古桶屋町、吳服町(三丁目、二丁目)を經右折して魚屋町(二丁目、一丁目)横道屋町を經、河原町より新設道路にて慶徳堀町に出で左折して慶徳堀町、山崎町、練兵町、幸島町を經花畑町を右折し更に左折して行幸町に入り右折して坪井田畔を經右折して手取本町より水道町に出で左折して南千反畑町、妙休寺町を經東坪井町(淨行寺町)終點に至る幹線 直長二哩九

一、幹線水道町より分岐し四軒町を經て白川を渡り新設道路にて大江町字本に至り府縣道木山線に合し他託部出水村大字今出水神社前(水前寺)に至る支線 直長一哩四

以上四哩三にして現在の營業路線は即ち之である

豫算及財源計畫

第一期線敷設に關する豫算の概要は左の通りである

一金三百八十八萬四千六百八十七圓 事業豫算總額

内 譯

- 一、四七九、六〇五圓 用地買收費
- 五一六、六六二圓 家屋其他移轉料
- 一、六五八、八八四圓 軌道敷設工事費、建物、車輛費、電線路架設置費等
- 一九二、五六九圓 電氣軌道敷設特許權及財產買收費
- 二二、四六七圓 事務費
- 一四、五〇〇圓 運輸準備費

事業費は上記のごとく之に對する財政計畫は市財政の現況に鑑み(一)一般經濟の財政を紊さない程度に於て一部市費の繰入れを爲し(二)不用の土地を賣却し(三)縣費の補助及び寄附金を以て之に充て、尙ほ一面本事業の如きは其性質上之が収益を以て漸次に元資の償却をなすを以て最も妥當の方法であるとし、其不足額三



大江町電車庫

百六十一萬圓を起債に求むる事とした即ち左の通りである

一金三百八十八萬四千

六百八十七圓 財源總額

内 譯

- 三、六一〇、〇〇〇圓 市債總額
- 一八〇、〇〇〇圓 縣費補助金
- 八〇、〇〇〇圓 指定寄附金
- 一四、六八七圓 市費繰入れ

公債條例の設定及公債發兌

叙上の財政計畫に基き市に於ては直に公債條例を制定し大正十一年十一月二十七日附を以て之が許可を主務大臣に申請し、翌十二年三月二十六日附を以て許可せられた其内容は左の通りである

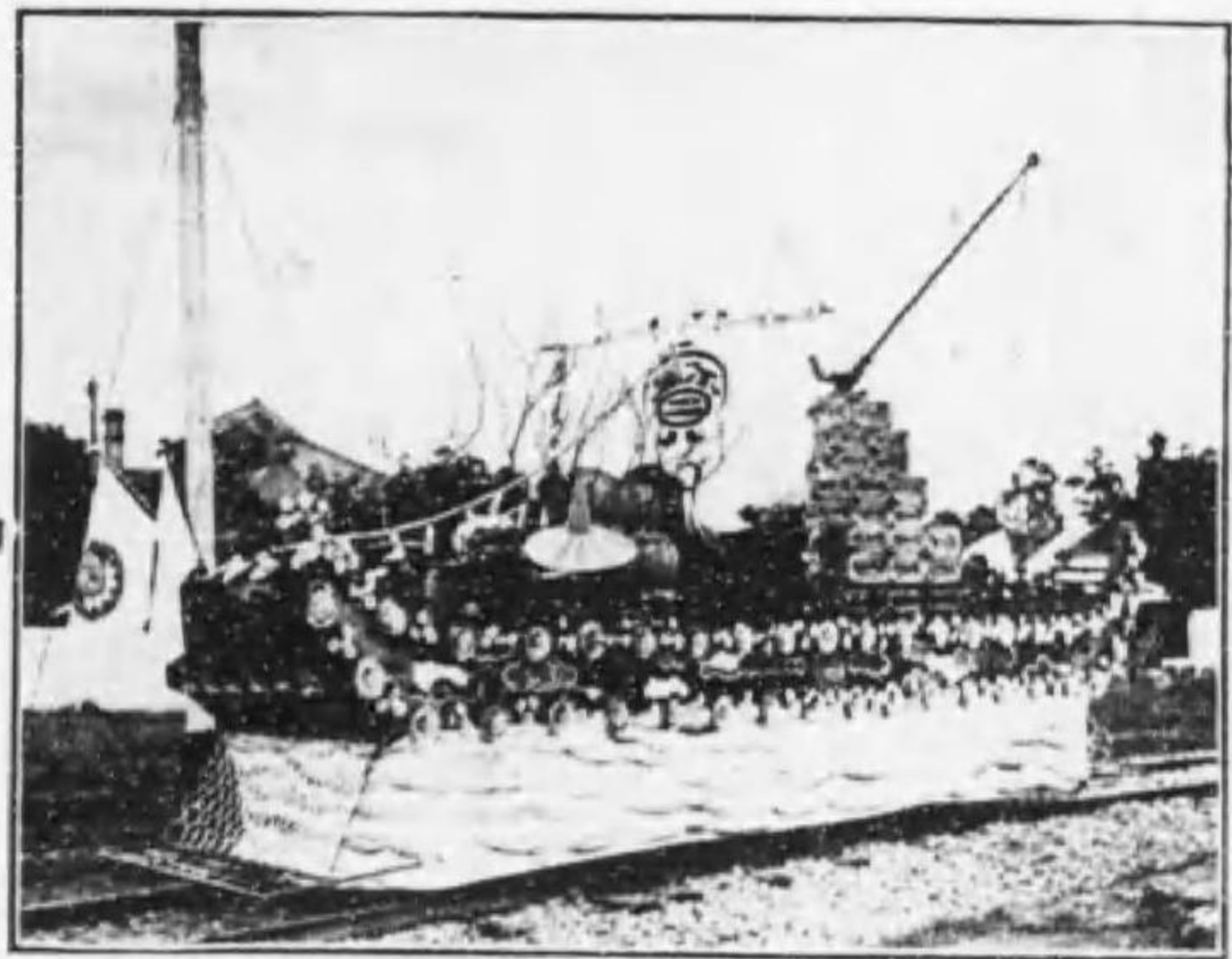
公債の種類

金額及利率

種類	金額	利率
甲種	七五〇、〇〇〇圓	年六分
乙種	八二〇、〇〇〇圓	年七分二厘
丙種	二、〇四〇、〇〇〇圓	年八分以内

右の内丙種公債の年利率八分以内は大正十二年九月關東大震災後金利暴騰の爲め變更の必要を生じ主務大臣に申請の結果大正十二年二月九日(償還年限六ヶ年以内の短期公債又は借入に限り年利八分九厘以内とす)に改正せられた

之は大正十一年、同十二年の二箇年度に於て募集するの豫定であつたが、十一年



度は條例許可延延等の爲め事業亦繰延の止むなきに至り、十二年度十三年度の二箇年續續事業として豫算を更正した結果、十二年度中に於て總額三百二十一萬圓の公債發行及び消費借借を爲し同十三年度に於て四十萬圓の借入れを爲した其引受並に借入先は左のごとくである

車 度 金 額 摘 要

十二年度	七五〇,〇〇〇圓	電車會社の應募分發行
同	八二〇,〇〇〇	右會社との契約に基き發行
同	五〇〇,〇〇〇	日本生命保險株式會社より借入
同	一,〇〇〇,〇〇〇	安田銀行熊本支店外四銀行に發行
同	一四〇,〇〇〇	熊本市信用組合に發行
十二年度計	三,二一〇,〇〇〇	
十三年度	四〇〇,〇〇〇	日本生命保險株式會社より借入
合 計	三,六一〇,〇〇〇	

償還率次及償還財源

- 1、甲種公債 七十五萬圓 年利六分
大正十二年度借入後五ヶ年間据置以降十ヶ年度間に變更
- 2、乙種公債 八十二萬圓 年利七分二厘

大正十二年度借入一ヶ年据置十四年度より十四ヶ年度迄償還

- 3、丙種公債中 百六十四萬圓は大正十二年度借入後五ヶ年度迄据置以降十二年度迄に償還
- 4、丙種公債中 四十萬圓は大正十三年度借入後五ヶ年度迄据置以降十二ヶ年度迄に償還

以上償還に對する財源は第一電車收入を以て之に充て、其不足額は縣費補助及寄附金を除く外毎年度金八萬圓を一般經濟の市費より補充する。

用地の買収

用地の買収は何れの都市に於ても相當困難の事業であるが、本市の如き第一期線たる幹線は熊本驛前を起點とし、商業繁華の中心たる古町地方の重要部分を経て市の中央部を貫通する脊髓線を爲せるので、從來の狹隘なる街路を幅員十間乃至十二間に擴張したるを以て、潰地の面積も多く地價も亦相當多額に上り、又水前寺支線の如きも一部專用線の計畫を變更し幅員十間の併用道路を新設したる等により、全線に亘る潰地の面積および家屋の移轉數等多數に上り、相當多額の買収費を要した、而して大正十二年五月十一日から全線に亘る交渉を開始したのであるが、關係者に於ても大体に於て事業の性質を諒解し、市が査定したる價格を以て交渉回滑に進捗し翌年一月に至り一名の不承諾者を出したのみで極めて良好の成績を以て買収を完結した、而して其總坪數及び地代金額家屋移轉料等は左の通りであつた。

買収地其他家屋移轉料表

地 目 坪 數	全土地代金	家屋其他移轉補償	全上金額	合計金額
宅 地 二,四四三,〇四一	一,二九九,四六八	一,一四七,四五五	二,四四六,九二三	五,三三三,七七八
田 地 七七八,五三三	一九四,七四五	一〇三,七五三	二九八,五〇八	一,一八九,一七〇
買収地(畑) 四,六一九,九八	一〇三,七五三	五六六,九〇	一,六一〇,六五三	一,八九二,三三三
山 地 四〇,九三	五六六,九〇	一,四三三,一五四	二,〇〇〇,〇〇〇	二,〇〇〇,〇〇〇
計 二六,六三三,四八	一,四三三,一五四	一,七二〇,〇〇〇	三,一六六,一五九	六,三三三,三一八
交換地宅 地 四,九三				

寄附地	宅地	三、九、三			
田	八、八、〇				
畑	五、七、六				
收用地	宅地	四、二、〇			
補償地	四、一、〇				
合計	一七、九、六、四六				

線路の擴張及軌道敷設 第一期線を三區に分ち第一區(熊本驛前、花畑町間)第二區(花畑町、淨行寺間)第三區(水道町、水前寺間)とし第二區、第三區は大正十三年十二月下旬から、又第一區は翌年一月下旬から、線路の擴張及軌道敷設工事に着手したが、熊本驛前から祇園橋に至る間(約二百四十六間)は職員を十二間とし、軌道敷設と同時に人車道を區別して、道路の改修を行ひ、其他は坪井川端行幸橋際から市役所前に至る間の幅員八間を除き全部十間幅員の併用道路として軌道を敷設し、大正十三年六月末迄に大休の敷設工事を竣つた、軌道幹線は市街鐵道用として定評ある米國製鋼軌條にして、直線用八七封度、曲線用九九封度を用ひ、水前寺支線は工型六十封度を用ひ、支線の一部〇四哩を除く外總て複線としゲージは廣軌を採用した、軌道の巨長及び延長は

巨長	幹線	二哩九	延長	幹線	五哩八
支線	一哩四	支線	二哩四		

橋梁架設 電車線路に新に架設せる橋梁は、白川に架設せる大甲橋新屋敷町大江方面の分水渠に架せる大江橋、及び大江中橋、大江小橋、車庫橋の大小五橋である、大甲橋は他の四橋と共に大正十三年一月工を起し、同年七月工を竣る此間時日を費やすこと七ヶ月、總工費十萬三千圓餘橋の全長四十間、有効幅員八間、鐵筋混泥土、丁桁式、構造にして堅固壯麗地方稀に見るの巨橋である。

變電所及動力 變電所は市内大江町字九品寺に新設し、同所に於て熊本電氣會社より高壓交流三相三線式にて供給を受け、直流六百ワエルトに變電して全線に送電す變電所内には左の機械器具を裝置してゐる。

- 三〇〇キロワット 同期電動發電機一臺(米國式D製)
- 三〇〇キロワット 同轉式變流機 一臺(同)

三三〇キロワット 同附屬變壓機 一臺(芝浦製)

配電變電用 一、電動機及變電機用各一、發電機用二、饋電用三、電燈用一、變電所建物は間口六間、奥行七間總坪四十二坪の鐵筋コンクリート造り平家建鋼板葺とし地下室を設けて配線の便に供してゐる、電車線は架空單線式にして支持物は鐵柱及木柱を混用し全線開柱式スパンワイヤー吊架設法に依つてゐる、而して全線を三送電區に分ち熊本驛前、花畑町間、花畑町淨行寺町間、水道町水前寺間とし電車線はB、S、三零番相當滿付硬鋼線を用ひレールボンドは極柔軟性に富み装填に便にして耐久力強き特別製のものを用ひた、補助歸線はB、S、零番鋼線を全線に布設歸線の漏電電流を豫防する爲めには春日、變電所間の中央近くより架線歸線を設けた

車輛及車庫 車輛の型式に就ては近時盛んにボギー式を用ふるの傾向あるも、本市の如きは現在の交通状態に鑑み大型車輛を用ふるよりも、寧ろ輕快なる小型車輛を頻繁に運轉するを以て優れるといふので單車式を採用し、現今米國に於て盛に賞揚せられてゐる乘降至便の低床型を模倣して設計の主眼とし、制限の幅員以内に於て可成的車内面積を有効ならしめ乗客の收容量を増大し堅牢にして自重輕く安全を計るに努め、台枠は鐵骨に其他は木造とし、車臺は最近米國ブリスル會社の發明に係る市街電車用として最も乗心地好きD型ボキールベイス八呎車輛直徑二十六吋のものであつて、空氣制動機を備へ、

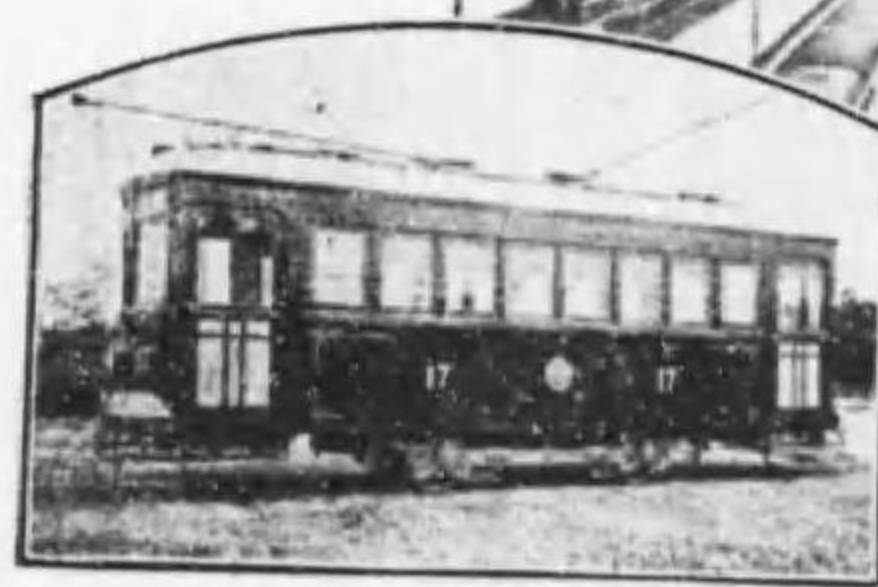


於て盛に賞揚せられてゐる乘降至便の低床型を模倣して設計の主眼とし、制限の幅員以内に於て可成的車内面積を有効ならしめ乗客の收容量を増大し堅牢にして自重輕く安全を計るに努め、台枠は鐵骨に其他は木造とし、車臺は最近米國ブリスル會社の發明に係る市街電車用として最も乗心地好きD型ボキールベイス八呎車輛直徑二十六吋のものであつて、空氣制動機を備へ、

手用制動機を準備として装置してゐる、電動機は各車共三十馬力二個を備へ、制動機は直列及並列式にして電気制動装置を兼備してゐる、又一部の車輛には消費電力計量器を装置してゐる、現今使用してゐる車輛数はすでに二十七台である、車庫は大江町字九品寺變電所と同構内に在り全部鐵筋コンクリート造りにして總坪數三百三十坪にして車輛格納の外修理工場木工場等を所有してゐる。

三、開始後の市電

市電の開通 大正十二年十月地鎮祭及起工式を舉げ、同十二月下旬起工したる軌道敷設工事は、翌十三年七月に至り全く竣工を告げ、運輸開始に關する諸般の手續及準備を完了したので、七月三十一日大江町市電車庫構内で各方面の重なる關係者を招待し竣工報告祭並に大甲橋渡初式を舉げ、同八月一日元歩兵第二十三聯隊跡地に於て盛んなる開通式を舉行し、同日を以て市電の運輸を開始した、回顧すれば市電問題が決定して電車會社から一切の事業を引受け、實施設計調査



電車に着手した大正十一年八月一日より數ふれば、恰かも滿二ケ年、大正十二年十月十七日大江車庫敷地に於て地鎮祭並起工式を舉げてより十一月間に於て、全工事の完成を見るに至つた次第である。

區間及停留場 一、料金を算定したる區間停留場は大体に於て零哩七分を標準とし交通上の便利を考察し左の箇所に設置した

幹線 熊本驛前から

一、奥服町(奥服二丁目)

二、花畑町(專賣局前)

三、水道町

四、淨行寺(終點)

以上 四區

支線

一、味噌天神前

二、水前寺(終點)

以上 二區

二、區間内停留場は電車の運轉系統と交通の狀態とを考察し其間隔を二丁目ち百廿間以上を基準とし特別の場合を限り百間内外の地點に之を定めた

幹線

一、熊本驛前

1、新橋(北岡神社前)

2、祇園橋(細工町筋)

3、古桶屋町

二、奥服町(奥服二丁目)

1、魚屋一丁目(米屋町、雜屋町)

2、河原町(長六橋)

3、古川町(唐人町筋)

4、辛島町(洗馬橋筋)

三、花畑町(專賣局前)

1、公會堂前

2、市役所前

3、手取木町(通町角)

四、水道町

1、草葉町(縣廳警察署前)

2、建町(明午橋筋)

3、廣町(藤崎神社前)

支線
 五、淨行寺(終點)
 四、千反畑町(千味佛前)

乗車料金

- 一、水道町
- 二、大江車庫前
- 三、味増天神前
- 四、水前寺驛前
- 五、水前寺(終點)

普通乗車料金表

熊本驛前	片道 四錢	往復 七錢	一三錢	一三錢	一三錢	一六錢
花畑町	片道 七四	往復 七四	一三七	一三七	一三七	一五三
水道町	片道 七四	往復 七四	一三七	一三七	一三七	一五三
淨行寺町	片道 七四	往復 七四	一三七	一三七	一三七	一五三
味増天神前	片道 七四	往復 七四	一三七	一三七	一三七	一五三
水前寺	片道 七四	往復 七四	一三七	一三七	一三七	一五三

割引往復券料金表 通行税共

一區	五錢	自三月一日至十月三十一日
二區	九錢	午前五時半ヨリ至七時迄
三區	一三錢	自十一月一日至翌年二月末日
四區	一七錢	午前五時半ヨリ至七時半迄
五區	二一錢	右時間内ニ限リ發售ス

通學回数券料金表

二十五回分	二區迄壹圓	壹區ヲ増ス毎ニ金五拾錢ヲ加フ
五十回分	全 貳圓	壹區ヲ増ス毎ニ金壹圓ヲ加フ

運轉時間

午前五時半から翌午前零時半迄とし熊本驛から水道町迄は三分間、水道町から、淨行寺及水前寺終點間は六分間隔とす

運轉系統

一、水道町から熊本驛に至り熊本驛から淨行寺を経て水道町に
 着 此運轉時分五十分間 二、水道町から熊本驛に至り熊本驛から水前寺を経て水道町に着 此運轉時分五十六分間

一日の運轉回数

熊本驛前	淨行寺間	百〇四回乃至百七十三回
熊本驛前	水前寺間	百〇四回乃至百七十四回

自大正十三年八月至十二月各月別乗車人員數

月別	乗車人員總數	一日平均
八月 中	八二〇、七九八	二七、三三三
九月 中	七二七、四九〇	二四、二五〇
十月 中	七〇〇、八九四	二三、〇九〇
十一月 中	六八六、三三五	二二、四四四
十二月 中	六八八、九四五	二二、六六六

自大正十三年八月至十二月各月別乗車料金上高表

月別	區分	車内賣上高	回数券賣上高	計
八月 中	一日平均	一、〇三三、四四三	一、七三三、七四五	二、七六七、一九八
九月 中	一日平均	一、〇〇八、八八八	一、五九八、〇六六	二、六〇六、九五四
十月 中	一日平均	一、〇〇六、六八七	一、五七四、四四五	二、五八一一、一三二
十一月中	一日平均	一、〇〇五、五九八	一、五五九、四四七	二、五六五、〇四五
十二月中	一日平均	一、〇〇五、二〇〇	一、五五九、四四七	二、五六四、六四七
三月中	一日平均	一、〇〇四、四一八	一、五五九、四四七	二、五六三、八六五
計	平均	一、〇〇四、四一八	一、五五九、四四七	二、五六三、八六五

四、市内外の交通機關

鐵道九州本線 明治二十四年の開通に係る九州本線は、市の西北部を貫通

し池田町に上熊本驛、春日町に熊本驛ありて市電熊本驛前停留所と聯合す、又大正三年の開通に係る豊肥線(現在宮地迄開通)は本線熊本驛から分岐して市の南東部を圍繞し、春竹町に春竹驛、市外出水村に水前寺驛がある、水前寺驛は市電水前寺驛前停留所にて聯合す、又現に春竹驛を起點として上益城郡甲佐町に至る私設線御船磯道ありて對外的交通機關となつてゐる。

郊外線 郊外線としては上熊本驛を起點とし、市の北部を貫通して菊池郡隈府町に至る、菊池軌道株式會社が經營せる電気軌道がある、又市外田崎から飽託郡百貫石港に通ずる熊本軌道株式會社が經營せる電気軌道があつて俱に、市外の交通機關として市と聯絡を保つてゐる。

五、第二期線計畫

市電第二期線 熊本市三大事業の一たる市電事業の大体はこれにて叙述を終つた、而して熊本市は第一期線を完成し、今や第二期線の敷設に着手せんとしてゐる、即ち特許線中其餘の未成線は左の如くである

- 1、白川線 延長〇哩六八 延長一哩三六(複線)
 - 2、春竹線 同 一哩〇〇 同 一哩〇〇(單線)
 - 3、上熊本南廻り線 同 一哩八〇 同 一哩八〇(同)
 - 4、同北廻り線 同 一哩二五 同 一哩二五(同)
 - 5、黒髪町 同 〇哩五五 同 〇哩五五(同)
- 計 五哩二八 同 五哩九六

以上は何れも本市財政の關係と第一期線完成後の實況に鑑み、工事施行認可の申請延期を大正十四年十一月十三日迄認可せられてゐる。

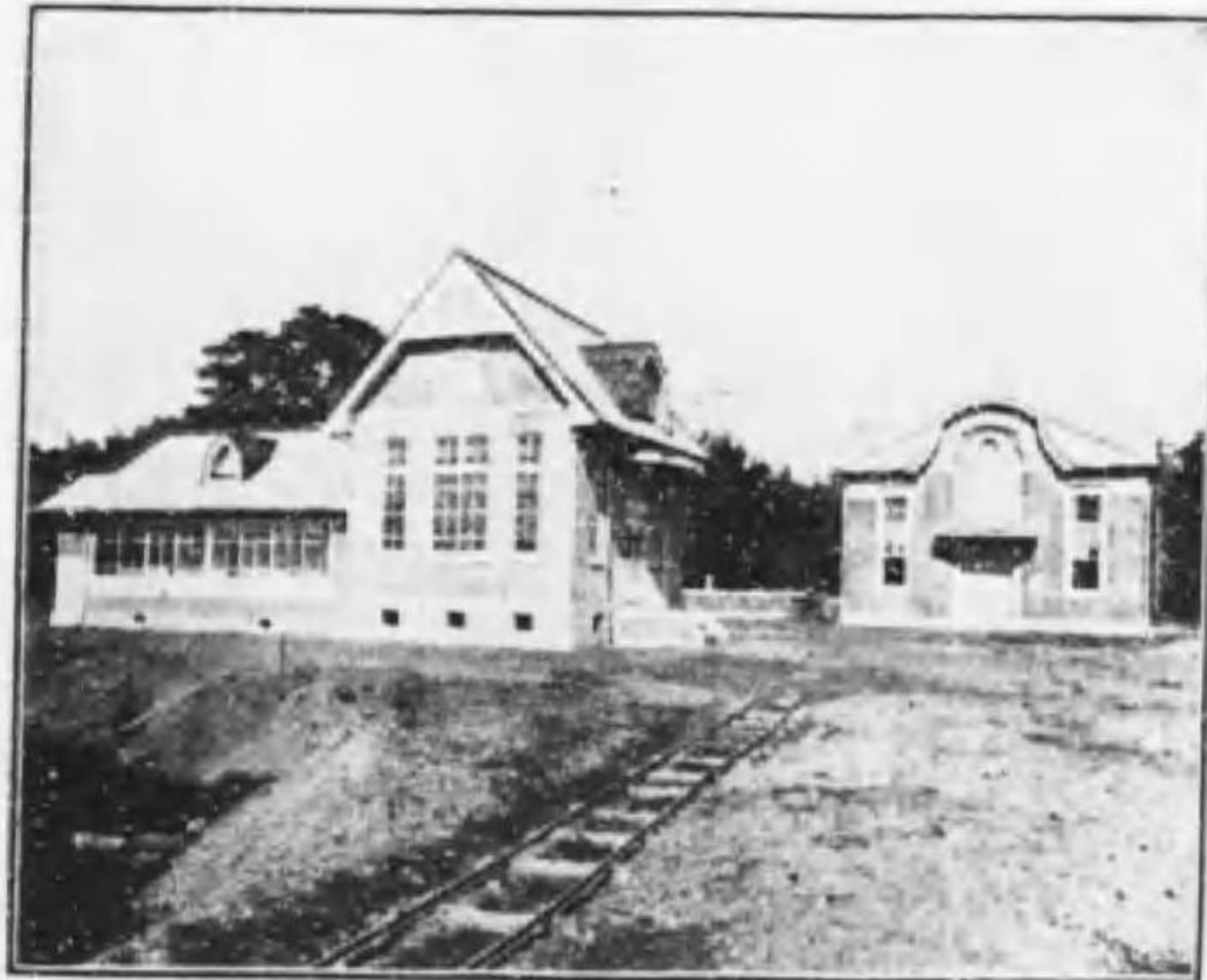
市電網の完成へ 本市に於ける市電網の完成は都市としての使命であつて一日と雖も忽緒に附すべきものではない、然し乍ら現在の市の財政に於ては考慮を要すべき問題である、故に本市は電車網の完成を容易ならしむるべく第一期線と第二期線とに分ち漸く第一期線だけを實現したのである、而して第一期線の成

續と財界の状況に順應し引續き第二期線に着手せんとするものであるが、現在の二期線特許線は白川線を除く他は悉く單線である今後に於ける市の交通網としてはこれを全部複線として計畫を立つべきものである、現在の特許線は市の發展實勢により變更すべきものにして、又市外線との接續聯絡等より見るも變更すべきものであつて、それは實に必然の要求でもある、菊池軌道、百貫軌道並に目下計畫中の川尻線の聯絡等に於て一層の考究を要するは勿論、又都市計畫の見地よりするも本市全体の電車網を複線として完成する必要がある、而も以上すべての問題は擧げて一朝一夕に行はるべき事でない、此處に於て特許を受けたるもの、中特に必要なる線を抽出して、以て當面の急に處するの要あるを認むるもの、然して春竹線、上熊本南廻り線の如き此の兩驛を聯絡して、然も第一期線の中央に交叉する線の如きは最も緊急に敷設すべきもの、上熊本、北廻り線の如き(北坪井、新坂、淨行寺から西に折れる)は既に市の北部を通ずる菊池軌道があつて、市外電車の使命を完ふする場合に於てはや、重複線の嫌ひがある、該軌道の今後に於ける經營方針と相俟つて適當に計畫を構つべきものである、黒髪線は市の東部の發展上相當考慮を加ふべき線路であつて、之亦立田口驛との接續を閉却すべきでない、白川線に至りてはモト電車會社時代選定せられたものであつて、第一期線中花畑町から市廳舎前に變更せられた結果や、重複線となつた嫌ひがあるこれを要するに市當局はこれが緩急要否と財政狀態とに鑑み目下折角調査進行中であつて、近く第二期線が一つく實現するに至るは言ふまでもない、而して以上各線を敷設し第二期線電車の運轉を見るまでは約三百萬圓(凡てを複線として)の巨資を要する(元)

熊本市上水道

一、沿革

上水道の文化施設としての價値は姑らく措き、其保健衛生上及日常生活の各方面に與ふる利便の人たることは今更贅言を要しない、随つて各都市競ふて之が完備を計るに力め、今や大なる都市にして之が敷設を見ない所はない、由來我が熊本は九州中央の一大都市にして、其文化的地位から言ふも之が完備を急務とした明治四十三年時の市長幸島格氏は夙に上水道敷設を計畫し、熊本高等工業學校に水源地の調査方を依頼した、其結果市外清水村字八景水谷を水源地とし立田山を配水地となすの最も適當なりとの決定を得、之に基いて設計を進めた、然るに我が熊本市は文化的革新に直而して逡巡躊躇其間幾多の波瀾を生じ、紛議を繰返して上水道敷設計畫は停頓又停頓した、或る時は水利問題より事態悪化し水源地極



備も愈々整ふたので十二年六月水源地八景水谷に於て盛んなる起正式を舉行した

打ち等の如き一大不祥事をさへ勃發した程である、幸島市長は悉く此の上水道敷設問題に傷き上水道の敷設は遂に絶望視せらるゝに至つたのである、しかも大正十一年一月現高橋市長が就任するや鋭意これが解決に努め、同年三月水源地變更に依り敷設計畫一部變更並に實施設計の認可を受けた、かくて有らゆる機關の充實全く成り、次で諸般の準

爾來工事は一瀉千里に進捗し其間政府の緊縮方針に依る財政計畫上の打撃等困難なる問題が起らないではなかつたが、高橋市長の熱誠と最善の努力活動により克く其の目的は貫徹せられた。かくて清洲玉のごとき八景水谷の清水は、市内の隨所に送り出で市民多年の翹望は全く達せられたのである。

總説

本市の上水道は市外龍託郡清水村字八景水谷附近に二個の鑿井を爲し、此處より湧出する地下水を以て水源とす、湧水は送水唧筒によりこれを立田山中腹の配水池に送り此處から自然流下法にて市内の各所に配水するものである、而して給水區域は熊本全市の外隣接町村にも及んでゐる。

計畫人口及使用水量 我熊本市の人口は大正十年末に於て十三萬三千四百六十七人を算へた、明治四十四年から大正十年に至る十個年の統計表によれば、其人口増加の率は一ヶ年平均一千九百五十七人である、今これと同様の増加率で今後二十年を経た即ち大正三十年の人口を推算せば十七萬二千六百七十七人に達する、而して將來都市の人口増加率は従來に比し大なる上に



上水道給水の場合には兵營、學校、官衙、工場等にも及びずから、これ等各種の給水を含み計畫人口を二十萬人とした使用水量は本市の情況に鑑み水營業用水を合算して一日一人に對する最大給水量を五、六立方尺(八斗八升)とし又一日の使用水量は時々變化するもので、一人一時間の最大給水量を〇、三三立方尺(五斗二

水原井

井一を假定しこれに消火用水等に對する餘融を見込み鐵管の大きさを計算した。方二百四十間を隔て、第二井を掘鑿した、井戸は内徑二十五尺の圓形である、第一井は井側天端より深さ二十五尺三寸、第二井は三十一尺三寸である、井側壁は



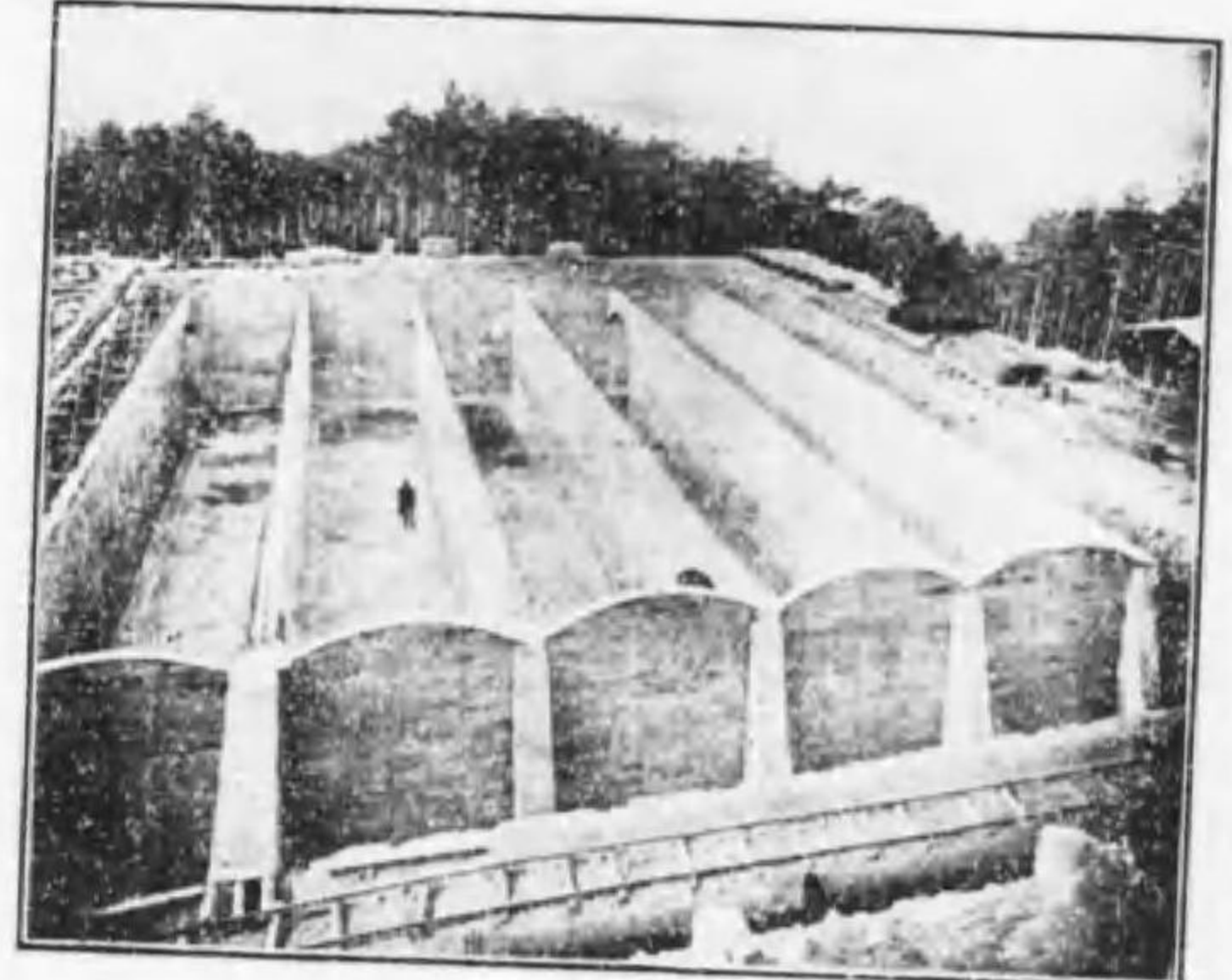
上部二尺、下部二尺五寸の厚さを有する鐵筋混凝土であつて、下部天端にはカーブシューを施し枠下げの方法により井て沈下せしめてゐる、上覆は厚さ四吋の鐵筋混凝土の床板とし其上に盛土工を施し井水に對する寒暑の影響を少からしめてゐる、床板は斷面幅八呎、時深さ十二吋の桁と一体に施工し各桁の距離は其徑間に應じ三尺四寸乃至三尺九寸である、桁と側壁とはアスファル

トにより絶縁してある、井側と不透水層との接觸箇所はコンクリート及粘土を以て固着しこれより上部井側外側には厚さ二尺乃至三尺の粘土を填充し地表水の侵入を防ぐ、中央頂部には通風装置等を設け別に水位表示器を設置すると共に地上周圍には十留の目的で、煉瓦壁を高さ三尺二寸に築き上部の側に出入口を造り井水の觀測に便してゐる。又送水ポンプは水平式二段離心動ポンプにして高さ四尺長さ九尺三寸其正常運轉状態に於て毎分一、七三〇回轉を爲し、水量毎秒三、五立方呎を揚水し吐出口入口に於て水壓二二〇呎を指示するものとす、尙二基以上並列運轉の開始容易にして各原動機の首荷均衡を失せざる性状のものを選定し一井に二基宛を設置してゐる、吸水管及吐水管は内徑十二吋とし吸水管には底辨

を附し吐水管にはノンレターバルブを附してゐる、電動機は唧筒に直結し三相六流三千ボルト六十サイクルにして回轉數は毎分千二百回數とし其容量は二百馬力である。

配水池

配水池は立田山中腹標高二百四十尺の地點を開鑿して築造した、其數は二個であるが二池を合して二十七萬四千一立方尺の容積を有し、人口二十万人に對する一日平均給水量の約八時間分を貯ふる、各池とも長さ四尺幅九十四尺深さ十五尺五寸にして鐵筋コンクリートを以て築造し、池中七條の導流壁を造り水の一隅に停滯することなく、導流壁には厚さ五分のアスファルト工を施し、更に底部全体にルーフキング及アスファルトを交互に重ね合せて張詰め側壁内面には止水モルターを施してある、外面には上部厚さ一尺下部厚さ三尺の粘土を填充して凡て水の漏出を防ぐ様設備した、上部は鐵筋混凝土の天蓋を設け之に措置に於て厚さ二尺の盛土工を施し塵芥汚物の侵入を防ぐと共に日光を遮り、池中植物の發生を防ぎ同時に池中温度の變化を少からしめてゐる、尚ほ内部の觀



測をなす爲め出入口を設け換氣の目的を以て穹窿蓋には空氣抜の装置を施した、配水池の満水面の海拔は二百三十五尺にして低水面は二百一十尺である

市街配水管

鐵管は總て鐵管を用ひ市内に配水する幹線の鐵管は、最大特給水量即ち一日一人につき八立方尺の割合で計算し、且つ火災の場合には多量の水を要するので一分間百二十立方尺を放水

し得る水量、及他日管内附若物の爲め摩滅抵抗増加に對する體積を見積り、尙隣接町村に對する給水をも考慮して、相當の余裕を見込んでゐる、而して有効水壓は最大流量給水の際、市の末端に於て約五十尺を保ち得る様計算し、配水管線は二十七時、(二十四時から二十時、二十時、十八時、十六時となる)支線は十四時であるが、八時管を以て分岐し、更に之を區劃内各方面に分ちて漸次管徑を低下し末端に至るのである、各線の末端は成るべく聯絡して網狀となし水の循環を能くすると共に、水の停滯して腐敗するを防ぎ且つ水の相互融通を便にしてゐる、配水管の一局部に事故ある場合之水が修理の爲、送水を停止する區域を成るべく少くする目的で各所に制水弁を設置し、又配水管線には立田山下にベンチュリ、メーターを取付け以て市街に給水する總水量を計つてゐる、消火の目的で各所に消火栓を配置してある、其位置は各消火栓相互間の距離



を平均一町とし成るべく街路の交又點に設置してある、此數八百個を算へる、尙ほ市街の情況に照らして適當の個所に共用栓を設置し今後も設置する事にしてゐる。

埋設鐵管延長 熊本市の地下を縱横に遠る埋設鐵管は、總てに於て二十八里十三町三十五間による其内譯は左の如くである

- ▲水源 地 用
二十時 四町四十間 十二時 二十 八 間

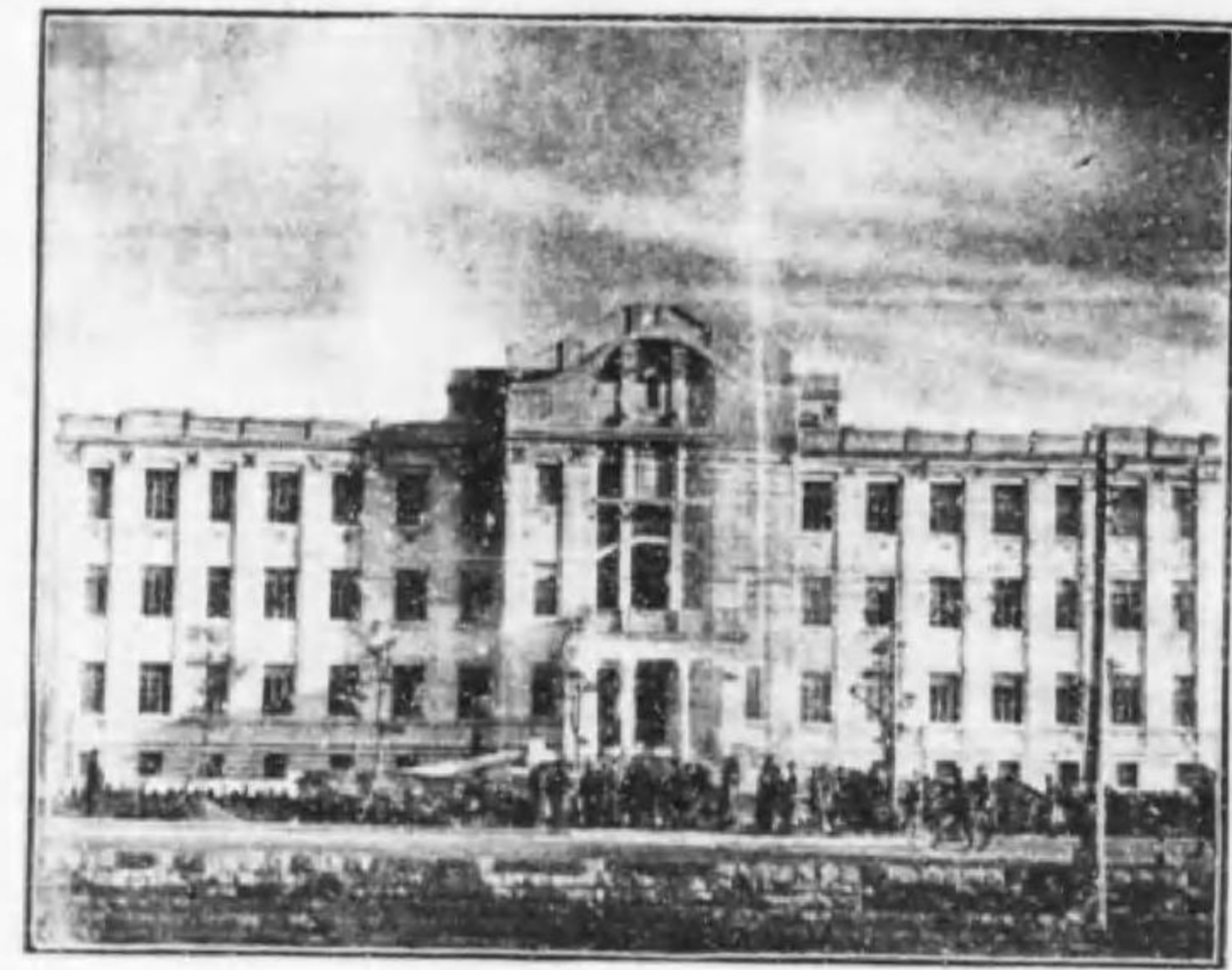
▲送 水 線 用

二十時 二十二町二十間

▲配 水 線 用

二十七時	二十二町十四間	二十四町	八 町 二 十 間
二十二時	七 町	二十時	五 町
十八時	五 町	十六時	六 町 四 十 間
十四時	四町二十間	十二時	三 十 一 町
十 時	一里十九町二十間	八 時	二里三十二町二十間
六 時	六里十四町	四 時	九里九町二十間
三 時	五里三十三間	合 計	二十八里十三町三十五間

總工事費 本市上水道設總工事費は實に二百六十六萬六千六百七圓に上つた而して上水道の普及率は誠に迅速を極めてゐる。



水 噴 前 廳 市



歩兵第二十三聯隊移轉

聯隊營舎と熊本市

抑も歩兵第二十三聯隊營舎跡地總面積約三万坪は、

後熊本市の中央に位し現時商業地域として最も繁華を極めてゐる、古町方面と坪井方面との中間に在るので兩地方聯絡を助け、本市商工業の發展を阻むこと懸念でなかつた、かゝる宏大な營舎を市の中樞地域に存在せしむる事は、都市の形態上より見て整備を缺ぐものなるのみならず、又決して本市の充實發展を利便ならしむる所以ではなかつた、それで該營舎を本市の附近に移轉し其跡地に整然た



移 轉 七 七
歩 兵 第 二 十 三 聯 隊 新 兵 舎

る街區を構成し以て本市商工業の中心地點とし市内交通の要街となし、一方本市の都市的面目を一新し、他面其充實發展を計らんとするは、實に本市の繁榮上死活を制する重大問題とし凡ての方面に於て議せらるゝに至つた。かくて歩兵第二十三聯隊移轉は本市當面の問題となり漸次高調して全く市民輿論の焦點となつた

拂下の經過 市長高橋守雄氏は大に此に見る所あり、公議輿論の趨向を察し、時運の進展に伴ひ本市の都市的形態を整備し、以て内容の充實と市民の福利とを増進すべく、此重大案件の解決へ向つて躍進した。此處に於て本問題は稍や

具体的となり、先づ當時の第六師團長山田虎夫氏に謀り以て陸軍當局の諒解を求むることに努めた、幸ひにして當時第六師團の要路の人々は市當局の意向を容れ殊に山田師團長は熊本市の爲めに積極的にこれが解決を援助したので、高橋市長は大に喜び更に進んで陸軍、大藏兩省當局を動かすべく再三上京して交渉又交渉を重ねたのである。しかるに主務省に於ては其財政上の見地より容易に之に賛するの色彩なく、且つ一個聯隊の移轉には少なくとも百八十五萬圓の巨費を要するので、其跡地を同額以上に市に於て拂下げを受くるものでなければ之が移轉實行は到底困難であると説いた、其後幾多の経緯曲折があつたが、結局移轉工費を百六十五萬圓に低減せらるゝ事となり、市では此移轉工費に相當する金額を以て、跡地以外其附近陸軍用地の一部を加へて拂下げを受くるの計畫を立て、大正十一年六月二十三日急遽市會を招集し左の案件に基き議決を経て拂下の申請を爲すに至つた、

歩兵第二十三聯隊兵營移轉請願及陸軍用地拂下げ申請の件

歩兵第二十三聯隊兵營を熊本市若くは熊本市附近へ移轉せしむることを其筋へ請願し、且つ左に掲ぐる其跡地及附近陸軍用地を市街地に充當する目的を以て拂下げを受け其代償として金百六十五萬圓を提出するものとす

記

一、熊本市花畑町

歩兵第二十三聯隊兵營跡地

土地奉帳面積二萬九千四百六十二坪二合

實測面積二萬七千五百五十二坪

二、同 宮内町地内

歩兵第二十三聯隊附屬地の一部

實測面積 千八百三十坪

三、同 古城町地内

陸軍兵器支廠附屬地の一部

實測面積 五百坪

四、同 同所

熊本衛戍病院附屬地の一部

實測面積 九百九十五坪

五、同 本丸

第六師團司令部附屬地東端の一部

實測面積 千九百三坪

此處に於て本問題は全く具体的となり、右の決議案を議した兵營移轉及跡地拂下げに關する申請書を高橋市長は正式に大藏、陸軍兩大臣宛提出した、それは同年六月二十六日のことである。而して最後の決定を見んとするに際し陸軍省に於て移轉跡地以外の用地を附加し、これを拂下げの條件と爲すやうなことは一方移轉事業を困難ならしむる恐れがあるとの議論が起り、更に大藏省に協議を重ねた結果前記第二より第五に至る附加地は之を除き全く跡地のみを百六十五萬圓で拂下げを受くることとし、之に代ふるに代金の納付は移轉完了の上後納の方法を採る事となつた、けれども右拂下げ申請に對しては現に公用に供せられつゝある陸軍用地にして、移轉後全く不要に歸した場合、雜種財産として大藏省に引繼を了した際に於て、始めて正式に拂下げを協議せらるゝこととなつたので、今後本市と陸軍大藏兩省當局間の諒解のもとに進行せねばならぬ、此趣旨に依り陸軍當局に於ては大藏省に對し、大正十二年度及大正十三年度の繼續事業として豫算を要求し、大藏省は之を容れた、此間に處して高橋市長は、一方に於ては本市在住の陸軍及大藏兩省關係官廳の援助を求むると同時に、他方に於ては細川侯、清浦子爵始め在京諸先輩の間に大に力説する處あり、且其積極的援助を乞ひ、以て大藏陸軍兩大臣の諒解を求むべく最善の努力を盡した、市長の此熱心と深厚なる諸先輩の援助とは、遂に陸軍當局を動かし更に最も困難とせられた大藏省の諒解をも完全に求むることを得た、かくして本問題は全く解決を見移轉豫算百六十五萬圓は大正十二年第四十六議會に提出せられ無事議會の協賛を得た。

營舎跡地と共進會場

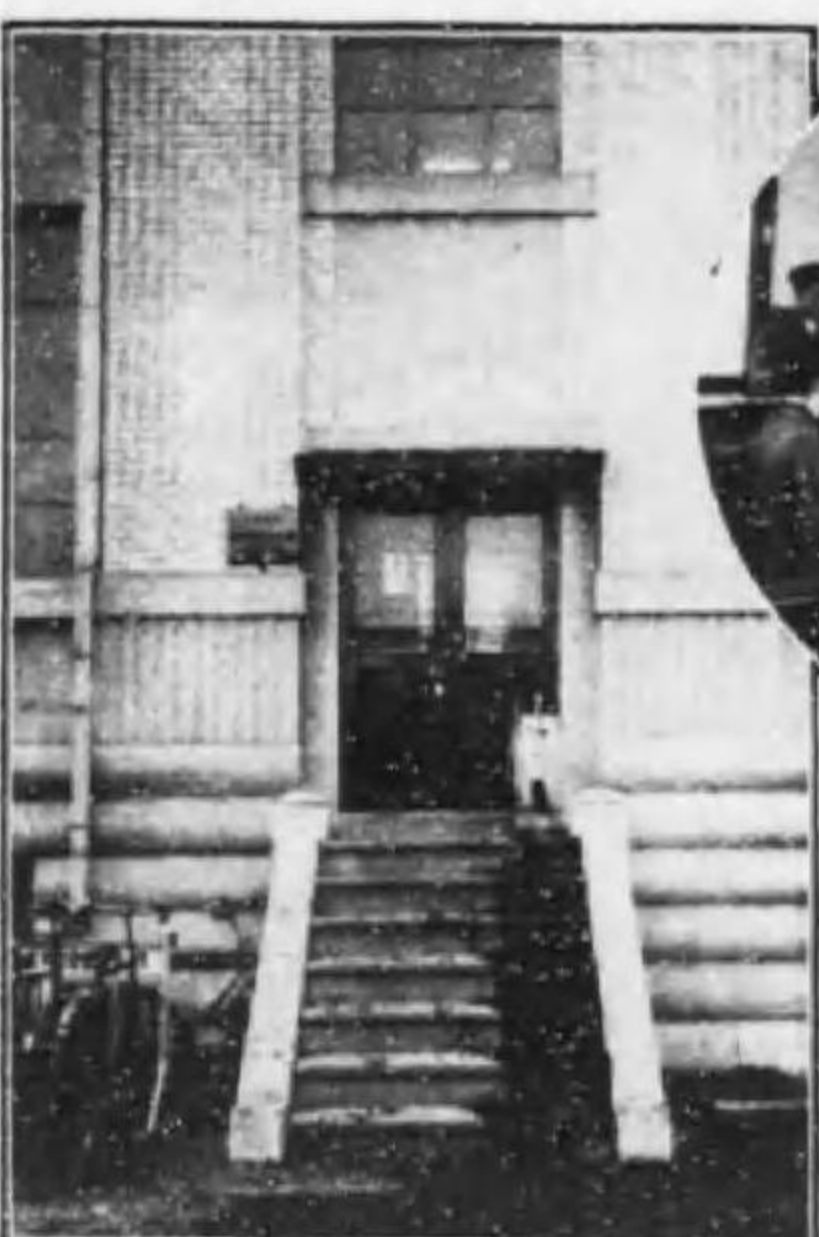
爾來移轉問題は順調に進捗し、陸軍當局に於ても

市民の要望を容れて營舎移轉の準備を進め、大正十二年七月二十日之が移轉の實行に着手し、同十三年七月十六日舊營舎の全部を取拂ひ大江町渡鹿に移轉した、一方陸軍大藏兩省當局間に於ける跡地の引繼授受に關する手續も進み、大正十三年十一月十七日全く陸軍省所管より大藏省の所管に移され雜種財産として管理せらるゝに至つた。此時計畫せられたる電車水道敷設の二大事業完成を告げ、且つ本移轉問題も同時に實現したので、此三大事業の完成を記念し一面本市の一部内容充實を一般に紹介すると共に、目下の財界に鑑み大に木邦産業の振興に貢獻するの目的より、國産共進會を開催する事となり、其敷地としては本市の中央部にかくの如き廣大なる土地を存する事は、再び得難いことであるから此跡地を下して會場となし會期中無償で之を借用するの許可を得幸ひに大正十二年十二月十五日を以て一切の手續を了した而して共進會終了後は本市の財政と社會の趨勢を考察し、適當なる立案に基き直に之が拂下げの手續を了し、先づ以て中央に電気軌道を敷設し道路を開鑿して此處に整然たる市街地を構成し、名實共に本市の中樞地區たらしめ以て都市的形態を一新すると共に商工業の發展を計り市民の福祉増進に努むる止に近きと信ずる。



熊本市信用組合

設立の動機 吾が熊本市が一縣一市且つ九州に於ける中央都市として、早く既に文化的施設を爲すべきの地位にありながら、上水道電車等風に唱導せられ而かもその實行を見ざるに實に十数年の永きに亘り、保健衛生の上に交通便利の上に忍ぶべからざるものがあつたが、時代の要求と市民の自覺とは茲に一大決心を齎し、二大事業を一時に遂行し同時に都市計畫の前提として、市の中央に蟠居する歩兵第二十三聯隊の移轉跡地の買収等總額實に八百萬圓を投ずる積極的の



施設は、市政實施以來空前の大事業であつて吾熊本市の面目を一新するのみならず、又以つて名實共に文明都市の本場に列するの機会に到達したものと云ふべきである、されど八百餘萬圓の事業と之に伴ふ市債に對し、克く元利を償却して市の財政を鞏固にし益々産業の發達を促すは、市當局が經濟の運用に周到の注意を拂ふは勿論、實行動態なる市民の實力に依りて始めて解決すべきである、而して如斯各方面に涉る重大なる對策は、單に激勵的宣傳や空漠なる警鐘を亂打するのみにては克く其目的を達成することは出来な

い、茲に於て自治經濟機關として理想的仕組とも

謂ふべき、信用組合を設立し、最も穩健着實の方法に依りて、市民の實力を培養し依つて以て吾市の積極的施設に策應するのは甚だ良策といはざるべからず、市會協議會に於て全會一致此の設立を可決したのは亦此意に外ならなかつた

組織及計畫

設立の動機既に前述の如くなるが故に、設立者は市會議員及商業會議所議員諸君並に設立當初の關係者を以てし、市長を組合長として寧ろ市の財政政策に立脚した市民銀行の内容形態を具へしめ、六百餘名の町總代各位又其計畫に賛して夫々加入勧誘に努むることとなつたので大正十二年七月十五日より之が實行に着手した。

計畫要領

- 一、出資一口の金額 金五拾圓
- 二、一組合員最高持口 五拾口迄
- 三、出資口數豫定 貳万口
- 四、出資總額豫定 百万圓
- 五、組合員數豫定 三千人
- 六、事業開始 大正十二年二月一日

以上の計畫に基いて定款を作成し、各設立者の署名を以て八月二十七日設立の申請を爲し、同月二十九日付を以て許可の指令に接したので、直に加入勧誘に全力を注ぎ豫定の通り十二月一日より愈々事業を開始したのであつた

- 一、出資口數 貳萬四口
- 二、出資總額 百萬二百圓
- 三、組合員數 二千五百七十三人

斯くして十二月を過ぎ大正十二年一月三十一日を以て一事業年度を終り、茲に僅々二ヶ月の功程を決算するに至つたが尚ほ左記の良成績を収めた

貸借対照表

種目	金額	種目	金額
拂込未済出資金	九三、九二五、七〇	出資金	一、〇四、五〇〇、〇〇
手形貸付金	五、三〇〇、〇〇	定期貯金	七、八四、八〇
債権	一九〇、〇〇〇、〇〇	小口貯金	二四、四二六、〇〇
預金	一六、二二五、〇〇	出世貯金	三、三〇〇、〇〇
中央金庫出資金	四、八〇〇、〇〇	出資貯金	八、五〇〇、〇〇
什器	八、八七〇	奉祝貯金	一、九〇〇、〇〇
未收利息	二、九四三、三〇	中央金庫拂込未済出資金	三、八四〇、〇〇
雑勘定	一、〇〇〇、〇〇	未拂利息	五四〇、九〇
現金	一、六八八、九〇	本年度剰餘金	一七、四四〇、〇〇
合計	一、二五、四九九、三〇	合計	一、二五、四九九、三〇

大正十二年二月一日より第二事業年度組合事務の整理は之を出納、貯金、貸付、計算、總務の五係に分掌し、専務の指揮監督に依りて遺憾なく統営せられ、市民亦日と共に諒解し爾來極めて堅實に且つ順調に進み、小額の低利貸付は組合員の満足を賞ひ、確實有利の貯金は市民の信頼を以て迎へ、一面熊本市の電車公債拾四萬圓同水道公債五拾萬八千圓を引受け、積極的施設に策應したるなど即ち自治經濟の機能を發揮して、直接間接熊本市の爲に貢献すること誠に偉大なるものがあると謂はねばならぬ。今各月末の貯金及貸付の状況を示せば左表の如くである

月	貯金	貸付
大正十二年一月	一六〇、六五二、六三	三、三九〇、〇〇
二月	一九二、二八六、七三	九、二五九、九五
三月	二三九、六四〇、一一	一六、五六四、〇〇
四月	二八三、四二五、六〇	二〇、二〇一、〇〇
五月	三四一、六一七、八六	二四、一六八、〇〇
六月	四〇一、四四七、六七	二五、〇八〇、五〇
七月	四四〇、六七二、五三	三三、七〇五、五〇
八月	四五三、九五六、五七	三三、八四五、五〇
九月	五〇七、八四七、九四	四一、九四二、五〇
十月	四五五、六三八、八四	五〇、七〇八、九三

右表中十一月に於て減少を見たのは出資拂込準備の爲め貯金したる六万四千餘圓を第二回出資拂込に振替へ充當したのに依る。

信用組合の目的及特色

熊本市信用組合の目的と特色は左の通りである

- 一、市民諸君の爲めに極めて有利に且安全なる貯蓄機關としての使命を果す事
- 二、組合員の相互主義に基き自治的融通機關として熊本市の産業及び經濟の發達を回滑ならしむる事
- 三、組合員は一名五十口以上の出資を許さず普ねく多数市民平等の利益組合たること
- 四、組合員は出資金額に依らず組合に對する議決、選舉等平等の權利を有し飽く迄相互主義に立脚する事
- 五、熊本市民の共存共榮を目的とし寧ろ市營貯蓄機關の使命を有する事
- 六、貸付け最高金額は毎年通常總會に於て決議す故に組合の資金は相互信用に基き最も堅實なる方法に依りて運用せらるゝ事
- 七、地方の資金は地方の爲めに相互利用し社會政策的自治經濟機關として存在する事
- 八、加入、脱退極めて容易にして經濟機關の門戸開放を標榜する事
- 九、本組合は公益的事業なるか故營業稅所得稅は勿論登録稅を免除し及低利貸金借入れの特典を有する事

將來の方針

本組合は何處までも市民の勤勉貯蓄を奨め、産業資金化せざる零碎の貯金を最も確實、有利に預り、以て一面組合員の産業又は經濟の發達に必要な資金を出來得る限り、低利に供給し、堅實なる基礎の上に立ちて漸次庶民金融の職責を盡し、營利に超越して市民相互の幸福を増進する市民金庫、民衆相愛の金融機關を以て自ら任じ同時に本市の積極的施設に對し之れが圓滿なる發達に貢献せんとするに在る。

公設運動場

一、公設運動場

皇太子殿下御成婚記念事業として大正十二年度に於て公設運動場を設置すべく大正十三年一月二十一日の市會に於て事件決議を行ひ全二月一日の市會にて豫算五萬圓を計上して土地買収の協賛を經市外出水村に於て、全三月十四日迄に土地八町一段三畝九歩〇四、三九九坪實測二五、七〇九坪を價格四萬八千七百七十八圓にて買収せり。

附記 公設運動場入口に之が設置由來に關し左の標札を掲げて記念せり。

公設運動場設置由來

皇太子殿下御成婚の慶典を舉げさせられ給ふに方り之が奉祝記念事業として我が熊本市は時勢の要求と事業の性質上公設運動場の設置を最も意あるものと認め大正十三年二月一日市會の協賛を經て地を城東の託麻原に下し總面積二萬五千七百九坪の運動場を創設せり。然るに此の計畫を發表するや左記篤志家に在りては進んで之に賛同し用地購入費中に多額の金員を寄附して事業の完成に援助せられ又新開道路沿の地主諸氏は二千二百八十七坪に及ぶ土地を無償にて提供せられ猶又我が熊本工兵第六大隊が個教育演習を好機とし延長約四百間に達する通路を數日に亘り夙夜開墾に従事せられたる厚意と用地購入の當初より道路の開通に至る迄絶えず斡旋せられたる地方有志の多大なる盡力とは本市の深く感謝する所なり。

顧ふに此の地や前にしては菊池武朝勤王の兵を幸いて今川大内の賊軍を破りし所、後にしては丁丑の役官薩兩軍が奮戰激闘雄を争ひし所停蹄一望人をして感慨措く能はざらしむる古戰場たり、今後此の地に來りて運動を試み軀を練り体を鍛ふもの翼くば當年を追想して一層の効果を發揚せんことを。茲に本公設運動場設置の概要を掲げて永久に記念すと云爾。

大正十三年十月

熊本市

○運動場用地購入費中寄附者芳名

- 井上清次郎(一、〇〇〇圓)吉田 順順(一、〇〇〇圓)高橋 長秋(一、〇〇〇圓)
 - 田村 久八(二、五〇〇圓)長野 忠次(一、〇〇〇圓)長野 友博(五、〇〇〇圓)
 - 八木勝次郎(一、五〇〇圓)山内 榮吉(一、五〇〇圓)松岡巳一郎(一、〇〇〇圓)
 - 古庄健次郎(三、〇〇〇圓)紫藤 章(一、〇〇〇圓)鳥田 達(一、五〇〇圓)
- 熊本電氣株式會社(五、〇〇〇圓)

熊本市に於ける都市計畫事業

熊本市に於ける都市計畫は、既に都市計畫法の發布に先んじ前市長佐柳藤太氏時代から着々其歩を進めてゐた、去る大正十年六月一日附近十一ヶ町村を併合し従來〇、三六平方里人口七萬五千七百二十一人の市は、此處に於てか一躍二、〇六五平方里人口一三八、七二一人を抱容する九州第三位の大都市を構成するに至つた、次で現市長高橋守雄氏市長に就任するや、銳意市勢の充實に努力し、大正十二年三月四日市の中央に位置せる、花畑町歩兵第二十三聯隊兵營の移轉方を陸軍省に交渉し、十三年三月二十日に至り其移轉を完了し新に二万八千五百六十餘坪の市街敷地を得るに至る、これ即ち熊本市三大事業完成記念國產共進會の敷地である、而して他の方面に於ても經濟、交通、衛生、道路等近代的都市としての施設に對しても徐々として其改善に力を盡してゐる、十三年八月一日市民多年の懸望であつた電車の開通を見、市内の經濟交通の状態は爲めに一大變遷を來し、加ふるに一大機關と目せられたる上水道も亦同年十一月十三日を以て通水し、熊本市民の衛生保全に貢獻するところ甚大である、次で市交通の要津に當る白川に架橋せる大甲橋、太平橋の如きも、凡て強固なる鐵筋コンクリート構造で、其工事費各十萬前後の巨費を要し、爲めに市の美觀を加へたるや亦頗る大なるものである、近く長六橋の鐵橋、子阿橋の架橋等あり本市に於ける各橋梁の整頓真に期して待つべきだ、大正十三年六月十五日從來の市街調査係を廢し、熊本市廳土木課に都市計畫係を新設し一意都市の革新に努め、大正十一年以來市街調査事業の一

として鉛意製作中であつた熊本市街區九千分の一及三千分の一は、共に三年の日子を要して完成せられ、目下施行中の高低測量完了と共に、引續き下水道の改良に着手し下水道と相待つて衛生施設としての双輪たらんとする、一面交通量の調査を爲し道路系統を正して放射線巡邏線の各幹線より網狀細線の道路に至る迄計畫實施する段取りである都市計畫の施行範圍は種々の見地から幾分の考察を重ねばならぬが現在の市行政範圍に出水、白坪の全村、國津、清水、健軍、日吉各村の一部を加へ現市の約二倍強四、〇四二平方里となすの計畫で現にその手續を進めつつある、此區域が決定すれば更に商工業等の地域を設定し市街を整然たらしむる

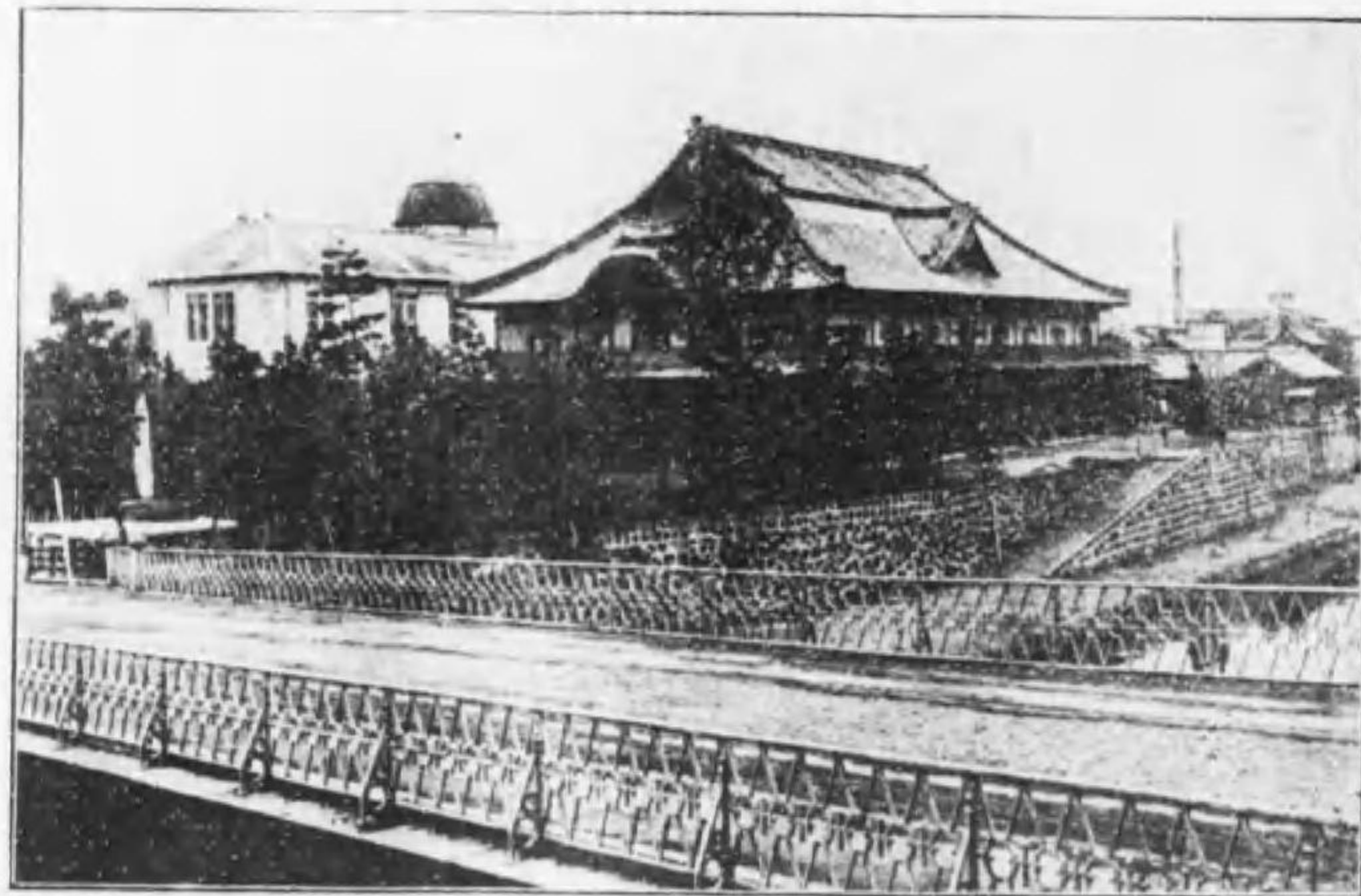


熊本市

のであるが、今や我國の街路にして外國に比し甚しく遜色あるものは實に道路舗装工事である、而して各人の自覺によりて各都市其道路の改良に努力し、漸く面目を一新せんとする傾向あるは洵に喜ぶべき事象であるが、我が熊本市に於ても又道路改良を急ぎ主要街路たる東唐人町道路線及び上通町道路線に木煉瓦、又はアスファルトの舗装工事を実施するに至り、電車第二期線の敷設と共に熊本市の道路美は庶幾くは發揮せらるゝであらう、熊本市に於る都市計畫事業たるや前途遼遠の感はあるが、然し乍ら今日の熊本市はその都市的充實に於て明かに劃期的時代に恵まれてゐると言はねばならぬ。

熊本市政

熊本市役所 市内手取本町に在り、明治二十一年四月市政發布後翌二十二年四月より實施となり同年六月一日開廳、市長、助役、名譽職參事會員、收入役、主事、技師、視學、主事補、掃除監督長、書記、技手、書記補、技手補、掃除監督、同巡視、公設市場、理事、同監督員、公會堂管理員、市醫、雇員、公周取締、修理取締等の職員より成る、而して左の分課制となつてゐる。



熊本市公會堂

- 文書課(文書係、統計係)庶務課(庶務係、戸籍係)學務課(學務係、社寺係)勸業課(勸業係)財務課(會計係、稅務係、賦課係、徵收係)衛生課(衛生係、掃除係、醫備係)社會課(社會係、兵事係)土木課(土木係、建築係)水道部(庶務係、工務係、經理係、檢査係)電車部(總務係、軌道係、電氣係)

開廳以來の市長
杉村大八、松崎

島已、辛島格、山田珠一、依田昌兮、佐柳藤太、高橋守雄(現任)
 現助役、収入役 助役佐々木乙、助役松尾寛二、収入役安田辰二郎
 市會議員 市會議員の法定人員は三十六名であるが大正十年六月十一ヶ町村併
 合編入の関係から本期間に限り特に市條例を設け四十四名となつてゐる正副議長
 は左の如くである

議長迫源次郎、副議長水上誠規

熊本市の財政

大正十三年十二月末現在

歳入 二、〇八九、六七七
 歳出 二、〇八九、六七七

財産より生ずる収入	二、〇八四、四四四	使用料及手数料	七五、〇四四
交付金	五、〇三三	報償金	六、四八八
國庫下渡金	四、二七七	國庫補助金	一、〇〇〇
縣補助金	四、八六八	寄附金	四、〇七〇
繰入金	八〇、八七四	財産賣拂代	一〇四、六三七
繰越金	三、七二五	雑収入	五、四四〇
市債	三〇〇,〇〇〇	市税	九六、三三三
合計	二、〇八九、六七七		

役所費	三三、七四二	會議費	八、七四六
土木費	一〇〇,〇〇〇	教育費	四四、二一一
傳染病豫防費	一八、四三三	傳染病院費	三〇,七四九
傳染性病消毒費	三、三三三	汚物掃除費	四七,七三五
公園費	一、三三七	公設市場費	四、四七二
勸業諸費	一、二五六	社會事業費	一、〇三六
公會堂費	九、九五一	警備費	三、七三三
財産費	四、九六五	諸税及負担	五、一六九
神社費	一、四六五	公金取扱費	八
統計費	二、一六四	表彰費	三、〇〇〇

出(經常部)

雜支出	七、四〇九	備費	一五、〇〇〇
經常部計	九六、七八九		

出(臨時部)

役所費	八、九七七	土木費	一九九、〇三七
都市計畫調査費	一四、九七〇	教育費	三九、九五四
傳染病院費	三、〇三七	衛生諸費	五〇
汚物掃除費	五、九三六	警備費	三、五〇〇
社會事業費	一六、三三四	勸業諸費	四、六九
公債費	四、四四四	選舉費	一、八五
補助費	一八、九六〇	寄附金	四、六九九
土木費本年度支出額	五、七六六	雜支出	一五、七九一
臨時部計	一、〇九三、八八八		
歳出合計	二、〇八九、六七七		

本市の現任人口及戸數

人口 一三八、七二二人
 戸數 二二、八三三戸
 戸數割納稅義務者數 二五、八八一一人

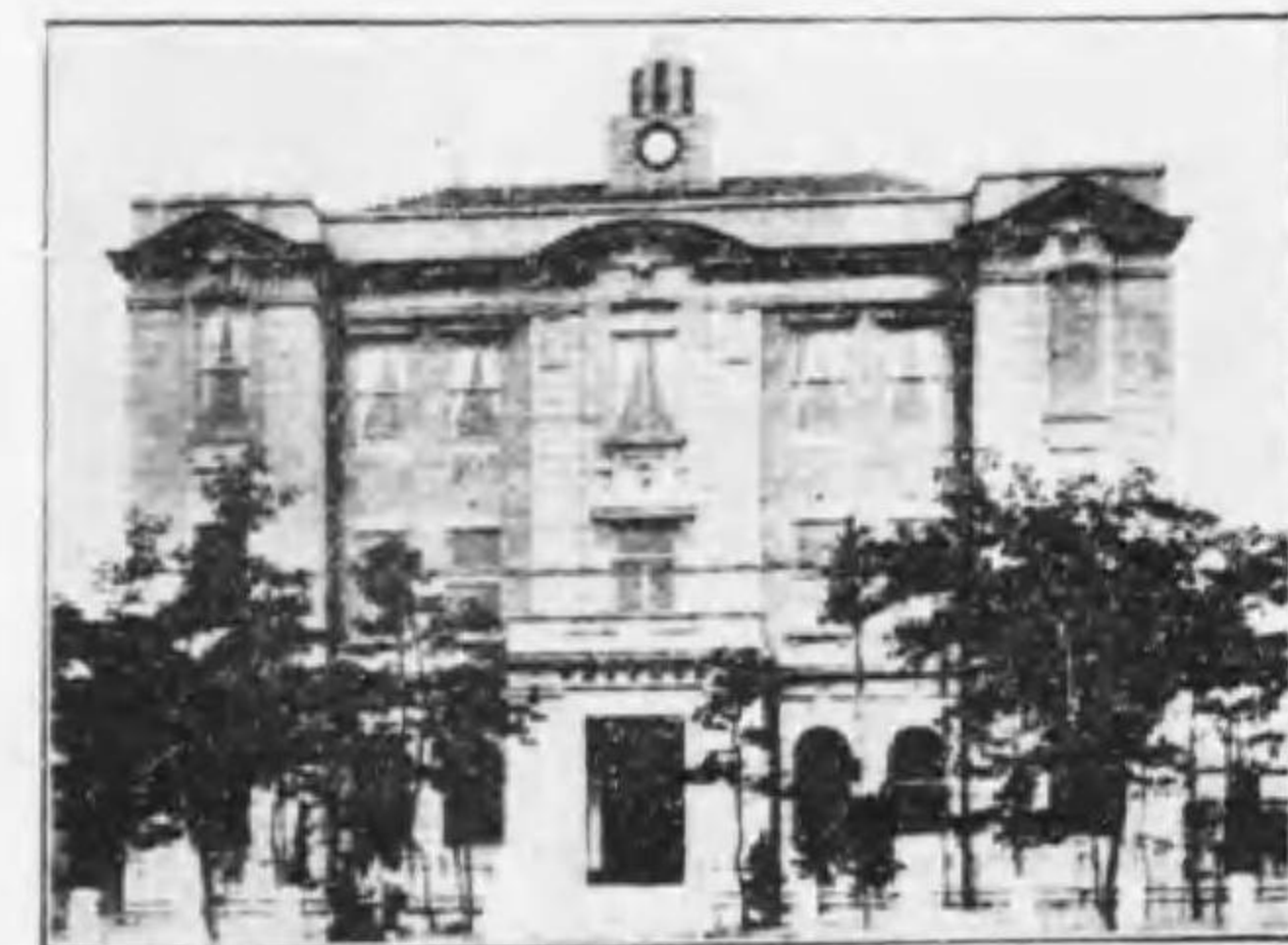
最近の調査に係る熊本市生産額及移出入調べ

一、一ヶ年生産高	二千二十萬三千九百二十八圓
内	
工産	千八百四十二萬九百十六圓
農産	百十六萬八百二十六圓
水産製造物	十九萬四千六百八十圓
林産	二萬五千圓
畜産	三十九萬二千五百六圓
一、一ヶ年移入高	六千八百十八萬圓
一、一ヶ年移出高	五千七百十五萬圓
一、一ヶ年消費高	二千四百四十一萬圓

熊本市主要物産(二十万圓以上)

醬	三三九、七四〇	米	四四、七四〇
蠶絲	一七二、〇二八	家	四四、〇八五
綿絲	一六九、九九〇	味	三四、七六〇
菓	一、四三三、三三〇	麵	三四、七六〇
清涼飲料	九三、二五八	和	三三、三九六
洋	八八、三三四	製	一五七、二〇一
酒	六九、〇六八	賣	二九三、七〇〇
機	五五、〇三〇	油	三〇、六五〇
	四六、六六〇		二六、六〇〇
	六七、九七一		

諸官衙學校及位置



- 熊本市役所 (同手取本町)
- 熊本市刑務所 (同大江町渡鹿)
- 熊本市稅務署 (同山崎町)
- 熊本市專賣支局 (同花畑町)
- 熊本市郵便局 (同壘屋町)
- 熊本市警察署 (同京町本町)
- 熊本市醫務局 (同渡分町)
- 熊本市米穀検査所 (同春日町)
- 熊本市商品陳列所 (同南千反畑町)
- 熊本市圖書館 (同南千反畑町)
- 熊本市試驗所熊本支所 (市外健軍村)
- 熊本市原質種製造所 (同南千反畑町)
- 熊本市蠶業取締事務所 (同南千反畑町)
- 熊本市種馬所 (菊池郡西合志村)
- 農事試驗場九州支場 (市外出水村)
- 熊本市農事試驗場 (市外出水村)
- 九州瘡療所 (菊池郡合志村)
- 第六師團司令部 (市内城内)
- 縣立熊本病院 (同本庄町)
- 第五高等學校 (同立田町)
- 熊本高等工業學校 (同立田町)
- 熊本醫科大學 (同本庄町)

公益團體及位置



- 熊本藥學專門學校 (市内大江町)
- 熊本縣第二師範學校 (市外出水村)
- 中學濟々堂 (市内黒髮町)
- 熊本農業學校 (同出水町)
- 熊本商業學校 (同京町本町)
- 第一高等女學校 (同蔵ノ内町)
- 第二高等女學校 (同内坪井町)
- 九州學院 (市内大江町)
- 實科高等女學校 (市内手取本町)
- 東亞鐵道學校 (市内本庄町)
- 星山女學校 (市内花園町)
- 肥後慈惠團(市内南千反畑町縣廳内)
- 熊本縣第一師範學校 (同京町本丁)
- 熊本縣女子師範學校 (同内坪井町)
- 熊本中學校 (同大江町)
- 熊本工業學校 (同大江町)
- 熊本地方幼年學校 (同城内)
- 鎮西中學校 (市内大江町)
- 市立高等女學校 (同手取本町)
- 尙制高等女學校 (市内大江町)
- 熊本女學校 (市内大江町)
- 玫瑰女學校 (市内上林町)
- 其他學校十數校
- 肥後自活團 (同大江町九品寺)
- 天使團 (同南新坪井町)
- 聖心醫院 (同上林町)
- 島崎育兒院 (同島崎町)
- 紫苑會治療所 (同下通町)
- 熊本盲啞學校 (同京町)
- 熊本回春病院 (同黒髮町)
- 待勞院 (同島崎町)
- 日本赤十字社熊本支部 (同願正寺町)
- 日本赤十字社篤志會 (同願正寺町)
- 識婦人會熊本支部 (同願正寺町)
- 愛國婦人會熊本支部 (同願正寺町)
- 熊本体育獎勵會 (同市役所内)

第六師團

- 第六師團司令部 (市内熊本城内)
- 步兵第十一旅團司令部 (同)
- 步兵第十三聯隊 (同)
- 野砲兵第六聯隊 (同)
- 工兵第六大隊 (同)
- 熊本聯隊司令部 (同千葉城内)
- 熊本憲兵分隊 (同上林町)

兵

- 帝國在籍軍人會熊本支部(市内千葉城内)
- 熊本尙武會 (同市役所内)
- 帝國軍人後援會熊本支部(同縣廳内)
- 大日本武德會熊本支部(同南千反畑町)

新聞

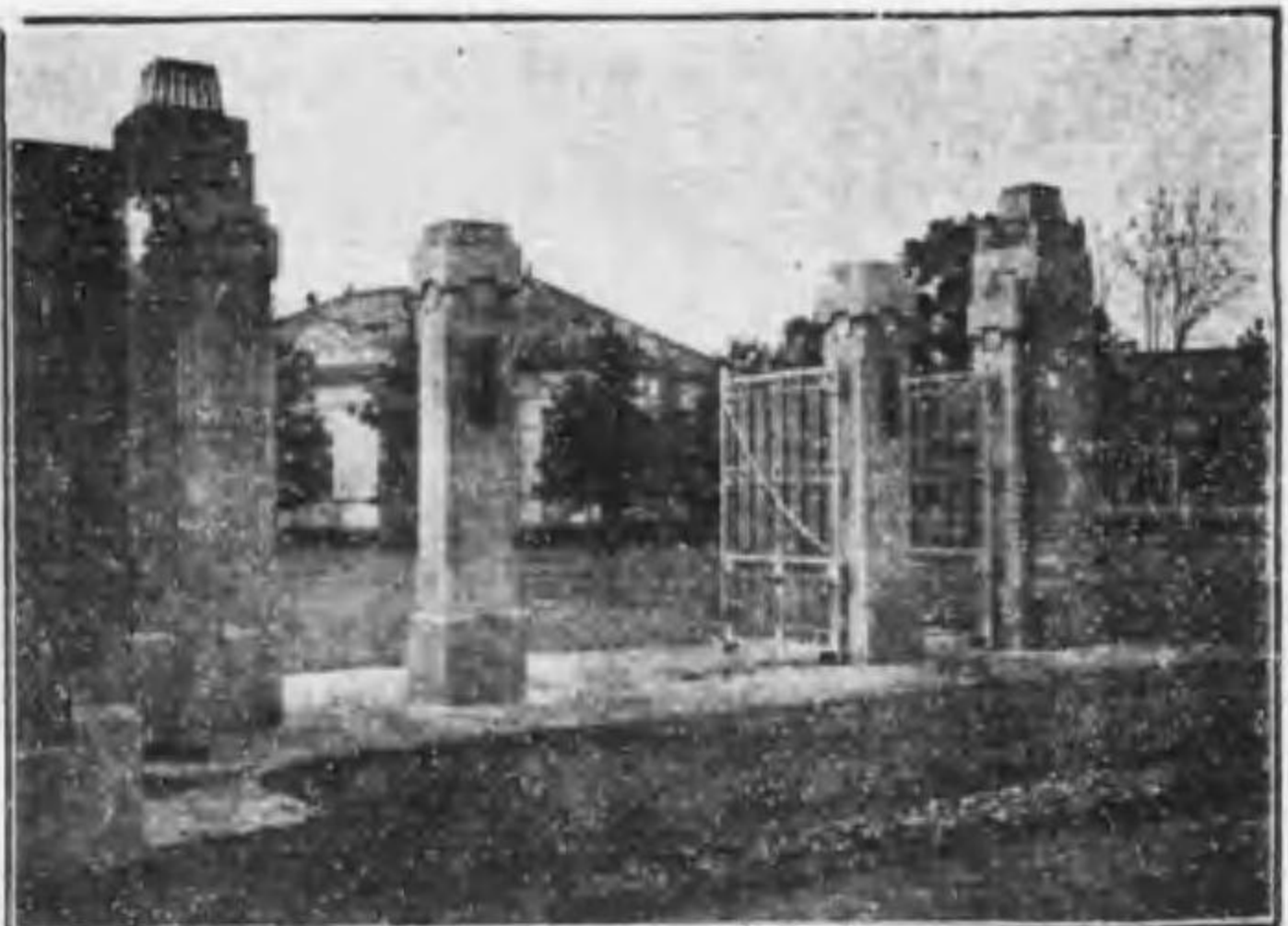
九州日日新聞社(市内大通町) 社長山田珠一、編輯局長宇野政行、主筆村上四次
九州新聞社(市内糠島町) 社長高木第四郎、主筆伴熊太、編輯長池田貞記
熊本日日新聞社(市内幸島町) 社長村上典吾
九州毎日新聞社(市内櫻町) 社長澤井元善
大熊本新聞社(市内新設治屋町) 社長木田真規、編輯長木田池花
熊本日報社(市内西岸寺町) 社長重榮里正助、編輯長深町兼夫
中立新聞社(市内櫻町) 社長窪寺喜之助
熊本雜報社(市内新設治屋町) 社長福田秀藏
熊本毎日新聞社(市内幸島町) 社長村上友人
自由新聞社(市内黒髮町) 社長角田時夫
家庭新聞社(市内光澤寺町) 社長東天山
大阪朝日新聞社熊本通信部(市内木竹町) 主任藤田晋治
大阪毎日新聞社熊本通信部(市内下通町二丁目) 主任木村俊作

銀 行 位 置

株式會社安田銀行熊本支店(市内米屋町) 株式會社安田銀行坪井支店(同上通町)
株式會社熊本銀行(同船屋町一) 株式會社熊本銀行坪井支店(同南新坪井)
株式會社肥後農工銀行(同船屋町一) 株式會社十五銀行熊本支店(同船屋町裏)
日本銀行熊本支店(同船場町五) 株式會社第一銀行熊本支店(同中唐人町)
株式會社十八銀行熊本支店(同米屋町一丁目) 株式會社十八銀行坪井支店(同上林町)
株式會社長崎貯蓄銀行(同米屋町一丁目) 株式會社長崎貯蓄銀行坪井支店(同上林町)
株式會社共榮貯蓄銀行(同設治屋町) 株式會社不動貯蓄銀行(同辛島町)
寶壽貯金株式會社(同山崎町)

會 社 位 置

九州貯金株式會社(市内櫻町) 福榮無盡株式會社(同花畑町)
東洋貯金株式會社(同船屋町) 熊本電氣株式會社(同船屋町)
九州商事株式會社(同北新坪井町) 株式會社熊本米穀取引所(船屋町裏二番)
肥後米券倉庫株式會社(同米屋町) 肥後製絲株式會社(同内坪井町)
熊本海產株式會社(同新町) 株式會社熊本魚市場(同花畑町)
日本カラメル株式會社(同迎町) 株式會社熊本縣酒造研究所(同島崎町)
熊本製絲株式會社(同大江町) 島崎製絲株式會社(同島崎町)



醫學大科醫院

熊本醫學大科醫院

株式會社松岡製絲場(市内春竹町)
株式會社肥後製絲組(同内坪井町)
株式會社熊本製絲場(同春日町)
株式會社熊本織物株式會社(同大江町)
日本製水株式會社二十及四十八熊本工場(同糠島町)
肥後共同製水株式會社(同木山町)
株式會社共益社鐵工場(同大江町)
古莊株式會社(同古川町)
日本國信株式會社(同櫻町)
大和座演劇株式會社(同糠島町)
熊本縣暨種株式會社(同南新坪井町)
九州洋紙株式會社(同魚屋町)
肥後紙合資會社(同魚屋町)
帝國セメント株式會社(同船屋町)
八木合名會社(同橫船屋町)
御船鐵道株式會社(同春竹町)
野田瀧油株式會社(同幸島町)
熊本瀧油株式會社(同春竹町)
東肥瀧工株式會社(同二本木町)
大同印刷株式會社(同昇町)
肥後水產株式會社(同手取本町)
松田工業株式會社(同迎町)
株式會社盛林堂(同西岸寺町)
日本印刷株式會社(同糠島町)
熊本聯合會(同新南干反町町内)
熊本聯合會(同新南干反町町内)
熊本商工會(同新南干反町町内)
熊本商業會(同市內天神町)
熊本愛服及物商組合(同市內)
熊本各種卸商同盟會(同市內)

實業團體及事務所位置

- 五二會熊本縣本部 (同商業會議所内)
- 熊本清涼飲料水製造組合 (同上)
- 熊本商工業組合聯合會 (同商業會議所内)
- 熊本和傘業組合 (同安己橋通町)
- 熊本菓子商組合 (同下城人町)
- 熊本材木商組合 (同行幸町)
- 熊本乾鰯魚商組合 (同津屋町裏二番丁)
- 熊本鍛冶業組合 (市内出町)
- 熊本縣醬油製造同業組合 (同大江町)
- 肥後山林協會 (同縣廳内)
- 熊本縣水産組合 (同縣廳内)
- 紙箱業組合 (同新設治屋町)
- 熊本米穀取引所仲買團 (同米屋町一丁目)
- 熊本彫刻業組合 (同吳服町一丁目)
- 熊本指物業組合 (同新設治屋町)
- 熊本寫眞業組合 (同鹽屋町裏二番丁)
- 熊本白米商組合 (同内坪井町)
- 熊本理髮業組合 (北部) (同北新坪井町)
- 同 (西部) (同春竹町)
- 熊本綿商組合 (同鹽屋町)
- 熊本夜市組合 (同商業會議所内)
- 熊本製靴業組合 (同下通町)
- 熊本染友會 (同西唐人町)
- 熊商會 (同下通町)
- 新町殖産研究會 (同新町)
- 同 (南部) (同新設治屋町)
- 熊本裁縫業組合 (同新設治屋町)
- 熊本湯屋業組合 (同春日町)
- 熊本染業組合 (同鹽屋町)
- 熊本二本木竹製品組合 (同二本木町)
- 熊本鉛業組合 (同井川灣町)
- 熊本製紙業組合 (同寺原町)
- 熊本宿屋業組合 (同西唐人町)
- 熊本酒類商組合 (同商業會議所内)
- 熊本金物、硝子商組合 (同西唐人町)
- 熊本漆器屋組合 (同水道町)
- 熊本砂糖石油商組合 (同吳服町)
- 熊本縣果物協同販賣組合 (同高籠門裏丁)
- 熊本縣木炭同業組合 (市外出水村)
- 熊本専賣支店管内 (市商業會議所内)
- 鹽元賣捌組合 (同南千反畑町)
- 熊本製業組合聯合會議所 (同縣廳内)
- 大日本覽米會熊本支部 (同縣廳内)
- 傘骨業組合 (同北新坪井町)
- 熊本履物小賣商組合 (同西外坪井町)
- 熊本時計商組合 (同設治屋町)
- 熊本古物商組合 (同米屋町)
- 熊本牛肉商組合 (同迎町)
- 熊本製粉商組合 (同新町三丁目)
- 熊本縣織物同業組合 (同新町)
- 同 (南部) (同阿彌陀寺町)
- 熊本洋服業組合 (同上通町)
- 熊本素懸業組合 (同山崎町)
- 熊本實屋業組合 (同上職人町)
- 熊本製筆業組合 (同西唐人町)
- 熊本家念組合 (同水道町)
- 熊本縣畜産聯合組合 (同南千反畑町)
- 熊本和洋雜貨商組合 (北部) (同上通町)
- 熊本縣酒造組合 (同島崎町)
- 熊本印刷業組合 (同鹽屋町)
- 熊本下宿屋業組合 (同大江町大江)
- 熊本靴工業組合 (同大江町)
- 熊本本山竹製品組合 (同本山町)
- 熊本莫大小業組合 (同中坪井町)
- 熊本製紙組合 (同寺原町)

熊本市遊覽地

【熊本城】 熊本城は大阪、名古屋の兩城と共に我が國三名城の一に數へらる。足利氏の末葉菊池氏の一族出田筑後守秀信なる人始めて千葉城を築く。これ即ち熊本城の濫觴で今の熊本憲兵隊本部の在る所である、降つて大永年間豊千木寂心が飽田郡山本郡の内五百六十町歩を采邑として此の地に居住するや、今の熊本郵便局の後方なる古城に改め築いた、慶長五年加藤清正肥後全國五十四萬石を



兵變な免れし宇上櫓

兵變前の熊本城



領するに及び、兩城の間に横はつた茶臼山を屯けて此處に築く、濠深ふして壘高く、層樓碧空を摩し實に天下の偉觀である、寛永九年嗣子忠成に及んで國除かれ細川氏代つて藩主となり、爾來居城二百三十九年以て明治維新に至る、明治四年熊本鎮臺を置く、越へて十年西南の役起る、即ち三萬の薩洲男兒西郷隆盛を擁して來り圍んだが鎮臺司令長官各干城堅く守つて降らず偶々二月十九日火起り櫓樓悉く灰燼に歸し、今は只當時の第三天守閣宇土櫓の一を残すのみとなつた。今は往時の壯麗は見る由もない

が、孤軍堅く堅守して落ちず遂に湖の如き薩の大軍を挫折せしめたる、痛烈の戦史は更に本城の面目を新にした、而して明治三十五年秋肥後平野に於て特別大演習舉行せられ明治天皇御西下の際に城内の第六師團司令部を所在所に當てさせ給ふた、當時御手植の記念松は強豪に繁り、又同三十三年十月時の 皇太子殿下行啓の際の御手植記念樹と共に翠色益々深い、猶司令部前に清正が手植の公孫樹がある。

【行幸坂】

行幸坂はもと南坂と稱したが、明治三十五年秋肥後平野に於て特別大演習舉行せられ、先帝陛下臨幸し給ひ、親しく御統監遊ばさるゝに際し第六師團司令部を以て行在所に當てさせ給ふた、此の時舊來の鞍坂を改修して、現在の道路を修築し行幸坂と命名した而して記念のため當時道路の兩側其他に多数の吉野櫻を栽植したが今はそれら悉く成長して、毎年三四月の候になれば御櫻の客縁るが如く晝夜に亘り雜鬧を極む。



【本妙寺】

發星山本妙寺は我が國日蓮宗の巨刹である、天正十一年加藤公關白豊臣氏に屬して攝津の浪華にあつた時、一寺を建て、本妙寺と名づけ洛の妙傳寺第十二祖日眞上人を屈講して其開山をなした。これが草創の本妙寺である。而して加藤公肥後を領するに及び、天正十九年城野の法華坂にあつた天壽宗の三寶院と云ふ寺跡を修復し上人に請ふて此處に移さしめた、初め法性山本妙寺と稱へたが、上人群星池中に映するの靈夢を見、これに感じて發星山と改めた、慶長十六年六月二十四日清正公薨去せられ、遺骸を城西の中尾山に



本 妙 寺 (淨池廟)

深々たる香煙日々絶ゆる事がなく、堂上題目を唱ふる聲又甚だ喧囂を極め、熱烈なる祈禱の様實に驚歎の外はない、廟側には公に殉じた大木土佐及び朝鮮人金官の墓があり、又文化十四年十一月鹿子木某の建立した治水功績の大碑もあり、年中参拜者を斷たない肥後の本妙寺といへば清正公の名と共に全国に普く熊本に遊ぶ人此處に來り賽せないものはない。

葬り靈廟を立てた、淨池廟これである、元和二年法華坂の本妙寺を其廟下現今の地に三遷した、而して加藤氏國除かれ細川氏に及んでも崇信厚く寺跡三百餘、五峰山の山林、菟表の領百餘を興へられたので、其待遇前代に異らず寺運益々盛んに四民の信仰益々深きを加へた、明治十年西南の役には此の靈城も兵火を免るゝを得ずして堂宇悉く烏有となつたが、其の後再築の工事年と共に進み、今は再び往時の盛大を見るに至つた、明治四十二年清正公三百年祭を營みたり、新築の寶物館には甲冑、槍、劍、七字の題目の旗其の他種々の遺物を藏して居る、而して

【水前寺】

本稱は成徳園、通稱水前寺と云ひ、熊本の勝地を擧ぐる者は先づ必ず此處を指す、寛永九年細川忠利公御入國の時豊後豐前守の女宅隨從し來てこゝに寺を建て水前寺と稱した、忠利公後に此の寺を外に移し其の迹を園面となし給ふた、明治維新に至り此地を開放して衆庶の遊覽に供する事となつた、境内廣闊至る所に清泉湧出し假山青芝の眺め美しく遊歩の徑は橋石を繞り遊息の亭は池畔に並ぶ、鯉は躍り、鶴は鳴き花木の優艶林森の幽邃又塵外の別境となして居る、而して明治三十二年時の 皇太子殿下行啓の際御手づから植へさせ給ふた記念松は、年と共に千代を壽きて榮え、又細川幽齋公が丹後田邊城に於て和歌の秘訣を授けられたと云ふ古今傳授の室の、大坂某商賈に在つたのを移して池畔に建て、一層の雅趣を添へて居る、園の北面には出水神社がある、萬熊本藩主細川氏の中祖藤孝卿其の子忠興卿其の孫忠利卿其の孫孫重賢卿の神靈を祀る、明治十一年十月萬藩臣等其の徳を欽慕崇敬して社殿新設の許可を得、出水神社と稱し同十二年五月縣社に列せられた、光尚朝臣以下九柱並に忠興卿御宇加藤藩共十柱後盛護久朝臣の靈を加へて合祀してある、猶社側には故長岡護全公子の銅像あり



日露の役に於ける殉國の誠忠を如實に語つてゐる、昨年八月電車こゝ迄開通すると共に觀客日々に其の數を増しつゝある。

【番津湖】 成徳園中の水津は田迎の東、出水の西に走り溝へて一大湖をなす、これ即ち番津湖で東西十六町、南北二十町周圍一里十五町深さ三間に達する處もあり、下流は南に流れて加勢川に合する、中間漸く狭く橋梁を架し、上下番津に別

たれる、下番津は廣く中に一小島があり中島といふ、此の湖は實に熊本近郊の一

勝地で、春夏の艇舟を砂取に留して其の絶景を稱するもの甚だ多く、若し此の地に一夕の歡を得んとすれば清楚なる旗亭も數多あつて遊宴の便も備つてゐる、湖中には鯉、鰯、鰻の産ありて湖底の泥土及び水藻は肥料用として採取する者多く又その水苔は水前寺水苔と稱び名物保存として目せらる。

【花岡山】 本市西南に聳ゆる一丘陵で熊本より五六町である、眺望の絶佳なる事熊本近郊第一で常に登臨の客絶ゆる事がない、即ち遠く東を望めば阿蘇の連山雲表に聳へ時に噴烟の爆々たるあり、近く脚下を俯瞰すれば廣賑なる本市の大部瓦鱗層々白雲皓々として展開し、更に西には有明海の渺茫たるがあり



南は豊饒なる肥後平野が打ち續き、北西には金峰山究元として聳え立つれば春夏秋冬可なれども、殊に山腹に林をなす櫻樹が萬葉の瑤路を梢に飾る陽春四月の候は遊覽の客が最も多い。中腹には陸軍墓地がある、柵を繞らし櫻樹を植え、明治九年神風連の亂に斃れた種田少將以下將卒百十三人の墓碑があり、其の際傍に遺つた友岡權令の墓も柵外にある

築いて熊本城を攻撃した、又頂上に近く老松がある鐘懸松と稱び加藤公榮成の時此の山の土石を運ぶの時、人夫を督する合圖とする爲め巨鐘をこの松に懸けて挿かしめたといふ、猶中腹には阿蘇殿松といふがあり文祿二年八月阿蘇惟光が自腹せし伏誅の地である。此の松は、百數十年半ひ榮へたが文化十一年の大風にうつろの老幹が吹き倒されて今は其の後に植えたものとかいふ事である。櫻樹社登拜道路三百九十間、熊本市在郷軍人聯合分會が中心となり、青年團、庶友會、小學校生徒其他各種園林の勞働奉仕によつて、今年一月十八日に起工式をなした。

日十五日までに完成したものである。

【藤崎神社】 白川の畔にあり、市中第一の神社にして官幣小社である神体は應神天皇に在し、任吉明神功皇后を合祀す、祭禮は毎年八月十一日より十五日迄にして神輿の御幸に長柄川百騎武者押あり、又市内各町より飾馬を出して神輿を守る等壯觀奇習他府縣人に新なるものが多い。

【北岡神社】 又祇園社と稱す、花岡山の東南、春日町の丘陵にあり、素戔嗚尊及稻田姫を奉祀す、神事は毎年八月五日を以て執り行す、藤崎八幡宮と同じく市民約半数の氏神にして神事亦藤崎宮と略相同じ。

【加藤神社】 加藤清正の靈を祀る、京町高臺の一角に在り、眺望最も佳



東は阿蘇の噴煙を望み、西は金峰の翠巒を仰ぐ、坪井一圓の藤市街一眸の裡にあり坪井川は脚下を逢ふて流る。祭禮は舊曆六月二十四日を以て行ふ。

【清正母堂の墓】 聖林院殿天室日光大姉の墓は市外高麗門妙永寺にあり、墓は朝鮮石の一臺清正の至孝を物語る。

【成道寺】 市内花園町柿原に在り、清水涇々として湧き、夏時炎熱を知らず郡人士の來り遊ぶ者が多い。

【檜垣の塔】 市の南約二十丁蓮臺寺の淨境にあり遊君檜垣歌人として名があつた。

【二本木遊廓】 夙に關西に名あり、細工町に連り、熊本驛に近接し白川、坪井川の間に入り八十の青樓多くは宏壯の樓屋を構へ一千の阿嬌ありて不夜城の觀がある。

【相撲館】 本市は古來相撲の神吉田追風在佳の地で熊本を忘れて相撲を語る事は出来ぬ、抑も相撲の起源は人の知る如くであるが、現當主吉田善門氏は其二十四代追風である、されば東京及び大阪兩相撲横綱免許は吉來吉田家に於て授けられ、これを受くる力士は何れも必ず熊本に來ねばならぬ、かく司家の在佳地である本市は、古來相撲盛んであつたが近時市民の相撲熱益々烈しく大正二年十月には新市街に相撲館を建築した、斯道の常設館を有する如きは到底他地方に見ざる所である。



座(追廻田畑町)坪井劇場(黒髮町)等ありて何れも宏大なるものがある。

【活動寫眞】 本市軍人學生の数が頗る多いので活動寫眞は驚くべき盛況を呈し常設館として電氣館、世界館、相撲館、朝日館がある、何れも新市街にある、其の附近には飲食店、料亭等も立並び遊樂地として常に雜鬧を極めて居る。

【劇場】 從來演劇に就ての熊本人の趣味は甚だ發達し其鑑賞眼も頗る高い、目下劇場は大和座(練兵町)東宝劇場(東阿彌陀寺町)旭

匏託郡

匏託郡は熊本縣の中央に在つて、一四万里の面積を有してゐる、その東には菊池上益城の二郡があり南には肥後大川の一たる緑川を界して、下益城宇土の二郡に接し、北は玉名鹿本二郡に隣り、西は波靜かな有明海に頓んでゐる、而して中

に森の都熊本市を擁護し、三町三十六村から成る。戸数一七、五九四戸人口一〇八、八三九ある郡役所は縣廳を去る西一里熊本市春日町にある。さうして西北部一帯は即ち金峰山其他の丘陵起伏連互せるも東西は所謂熊本平野で沃野遠く闊け白川井川井川等が貫流し、更に鎌川加勢川が郡の南端を過ぎて、何れも灌漑の便に富んでゐる、又海岸線は延長五里に及べるとも殆ど遠淺で良港なく、僅かに百貫石港があつて帆船の出入する許りである。

産 業 熊本平野の中心を占むる丈ヶ農産量も盛に行はれその重要物産としては米 一〇三、七四八石 麥 八四、九一五石 粟 八四、九一五石 甘藷 七、四〇四石、大豆 二九、七四三石 小豆 一〇、八三三石 菜種 六、七二九石等である、殊に蔬菜類の如きは熊本市に供給し尙縣外に多量移出しつつある状態で、年産額五百萬圓に達する有様である、又果實類も至る處好適地で年に二三萬餘圓の生産を示し、就中河内蜜柑は尤も有名で、産額十二萬圓に及んでゐる、その他養蚕製糸も盛んに年産額八十萬圓乃至九十萬圓内外である、漁獲物の如きも二十二萬餘圓に達し、養殖業の如きも近年著しく進歩の跡を示して来た次で工業方面としては工場十三を有し主として織物酒類醬油等の製造で各種工産物は年額三百六十二萬餘圓の多額に達してゐる。



岩戸觀音五百羅漢

交 通 郡の中央部を鐵道鹿兒島本線が南北に縦走し、熊本驛より分岐する宮地線は、水前寺川原の兩驛を経て東に走り、又熊本驛前から百貫電車がありて百貫石港に通じて居る、上熊本驛か

ら菊池電車が清水村を通過して菊池方面との連絡に非常の便益を與へて居る、道路としては國道南北に走り西には熊本松尾線南には熊本宮崎線、東には熊本木山線熊本大分線熊本限府線等の縣道熊本市を中心に放射狀を爲して四通發達し、熊本市を除いたら眞に縣下隨一である。

名勝古蹟 熊本市の四周に在る丈ヶ名所古蹟に富んでゐる、本妙寺と水前寺は熊本を代表すべきものであるが本妙寺は舊に市に編入され水前寺も亦近く市に編入さるゝ事になつてゐる、水前寺の南半里足らずの處に清麗な水前寺及附近の湧水を湛えた、周圍一里の畫圖湖があり、夏より秋にかけて舟遊するもの多く熊本一の水の名勝である又有明海に滲ふては近津温泉河内温泉等があり殊に河内は蜜柑の名勝として早くから知られて居る、神社佛閣の如きもその數甚だ多い就中川尻町外の大慈禪寺及松尾村の岩戸觀音寺の如きは有名である今この由緒を紹介しやう



大慈禪寺

【大慈禪寺】 同寺は開山以來曹洞宗法皇一派の大本山獨立一本寺の處、元祿九年徳川氏の抑裁に依り越前國水本寺の末寺となつた、開山上人は後鳥羽帝の皇子、空巖禪師で、十三歳にして叡山に参り参上し後衣を更へて永平寺開山道元大和尚に隨ひ、曹洞の宗旨を得心し、尙數らず建長五年年十七にて入宗天皇山如律師に就て講法し、翌年歸朝更に文永元年入宗諸山の知識に參し、宗門の大綱を明め、五年を経て歸朝し、筑前聖福寺に寓し三祀を許して肥後に入る、川尻大渡の津は録川白川合

流の地點にて、九州一の難所と稱せられて居た、依つて慈願を發し化を四方に募り二町餘歩の水面に長橋を架し、諸人を濟度し人民その徳を頌し、遂に禁裡及び關東に聞へ、御倫旨並に教書盛事を褒揚され、龜山帝は禪師の徳業を崇信し、勅額並に御倫旨を下し大慈寺御創草七堂伽藍多寶塔に至る迄、悉く備はるに至つた禪師八十四歳正安二年八月廿一日遷化爾來幾春秋今は唯昔の面影を憶ふのみであるが禪師の墓陵に就ては、宮内省に於て調査中若しこの大慈寺の墓陵が正しきこととなれば、即陵として宮内省より修築され、昔に勝る聖地として天下に知らるゝに至るであらう、同寺は鹿兒島本線川尻驛の東南約半里の處に在る。

【雲岩寺】 俗に岩戸と云ひ、曹洞宗で馬頭觀世菩薩を安置されてある、同寺は文和延文の頃唐の明州天童山雪外禪師の嗣、法東陵永興禪師來錫し巖洞の殊勝微妙の靈場なるに基いて、岩殿山に一字を建立し、法華山雲巖寺と號したが、その後衰頹し後流長院の開祖傳志麟和尚再興して、同院の末寺となつた境内巖石重疊深住を極め、絕壁に五百羅漢の石体を安置してある、又その附近に靈巖洞がある、四面觀世菩薩を安置せるが、傳は天平勝寶の頃唐土より渡來したもので、孝謙帝の勅額所と云ひ傳へて無類絶世の靈場となされてゐる、茲は金峰山中で道路險阻なるを以て多く世に知られないがこの附近には大ヶ庄の奇岩、ケ淵等のローマンスに富んだ勝景の地が多い。

宇土郡

宇土郡は、宇土半島の總稱で、飽託、下盆城の兩郡に接する他は、凡て海に面して、不知火の海、天草嶋と相對し、風光明媚な勝地、殊に不知火海に面した海岸は遠淺さで到る處海水浴に適し、貝類の産又豊富である、實に宇土半島の夏は著さ知らずの海濱地で赤瀬、細田、住吉等の海水浴場は、人を以て埋まる程の盛況を呈するのである、熊本驛から三角驛迄鐵道が縦貫して、交通の便も備はつてゐる。

る。

産 業

全部殆んど海を環らしてゐるので従つて漁業が盛んで、魚類、貝類の産額も相當の額に達してゐるが、多くは半農半漁の状態である、産業として特に秀れたものはないが、果樹栽培も盛んで、宇土梨の如きは、年産額十一萬圓以上を超へて居る、而して本郡には、熊本縣唯一の貿易港たる三角港を有す、港



の貿易状態は年々良好に向ひ、最近では、一萬噸級の汽船も、時々入港して、物資の輸出入が激しくなつて來た、輸入品の重なるものは、豆粕、滿洲大豆、バルブ、製紙丸太材等で、輸出品は、セメント、米、硫安等である。

郡 邑 町は三角町、松合町、宇土町の三箇所である。

【三角町】 熊本驛から

一時間四十分にして汽車は三角町驛崎に着く、宇土半島の尖端に在つて、三角活の翠巒は大矢野島と

相對し、海深く水清き灣を包んで、釣鐘島の激浪、荷島の帆影、鷹の巢の怪岩等自然の絶景を擁した良港である、港は三角本港と際崎港とに分れ、本港は近時衰弱して、船舶の多くは際崎に寄港する事となり、潮時盛衰に向ひつゝあるのも、天然の良港たるも、鐵道が際崎で終點となつてゐる等の關係であるが港の設備はつて不完全である所から、概しては、大正十四年十五年兩年度に亘つて、十五方圓の豫算を以て、際崎港荷揚場等の、護岸工事を起す事となつたので、將來の各種の設備と相俟つて、他に比類なき良港と目されてゐる、今日の貿易は、主として際崎港で取引され近く又朝鮮、滿州との定期航路が開始されよう、益々港

としての発展を期待されて居る。

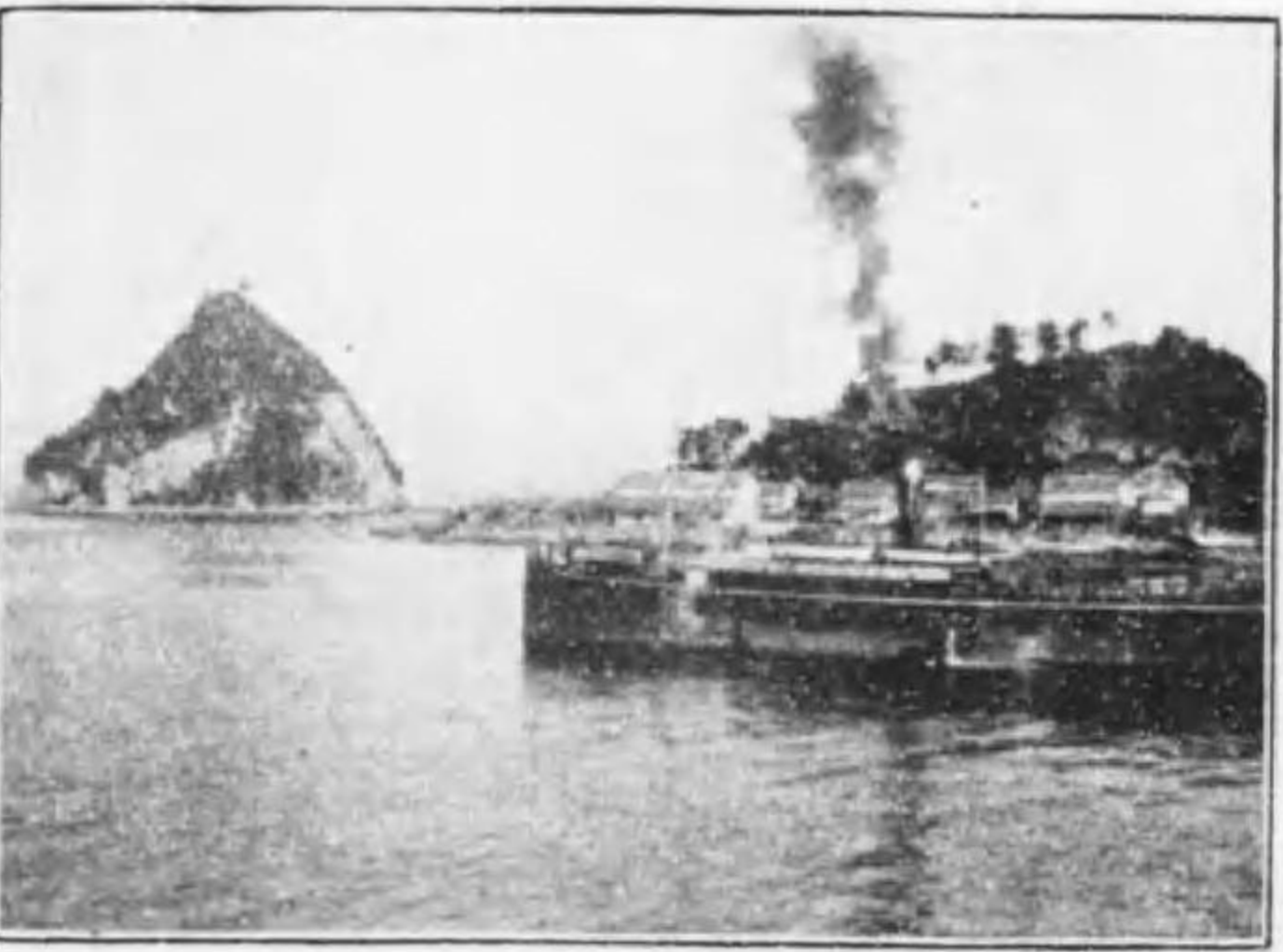
【宇土町】 鹿兒島本線と三角線との分岐點で、鐵道上から見れば、熊本縣では重要な地。昔小西行長が居城せし處で、今尚ほ其城址がある。元郡役所が在つて商業の盛んな町であつたが、現今では昔の面影はない。宇土中學がある。

【宇土城址】 細川氏の居城で鶴の城と稱し、宇土町を去る七八町の箇所に其跡がある。

【赤瀬海水浴場】 三角線赤瀬驛の所在地で、有明海に臨み、背後に山を負ふて、鳥原半島と相對して風光又よく、海は遠淺さなので海水浴に適し、相當の設備があつて夏は避暑客で賑ふ。

【住吉瀨邊】 三角線住吉驛より約五町、海極めて遠淺さで、給等の貝類多く、潮干簀に適す、毎年春秋の好季節には、學童團體の來り遊ぶ者多く、縣社住吉神社此地に在る。

【金析鑛泉】 三角驛より南二里、自動車、馬車の便があつて、幽邃閑雅な、山と山との間に在る、胃腸病に特効ある鑛泉地、四季游客絶ゆる事がない程有名である。



玉名郡

玉名郡は縣の西北部に位し、福岡縣三池山門兩郡に隣接して北九州に對する關門

である。南は有明海に面し東北は鹿本郡に隣接してゐる、九州鐵道

曾根は郡の中央を縱斷して南下し

交通産業共に發達して其の富庶な

ること縣下第一と稱せらる、

立 願 都 邑 【高瀬町】、郡

の首府は高瀬町で、郡役所、警察

署、高瀬縣區司令部、區裁判所

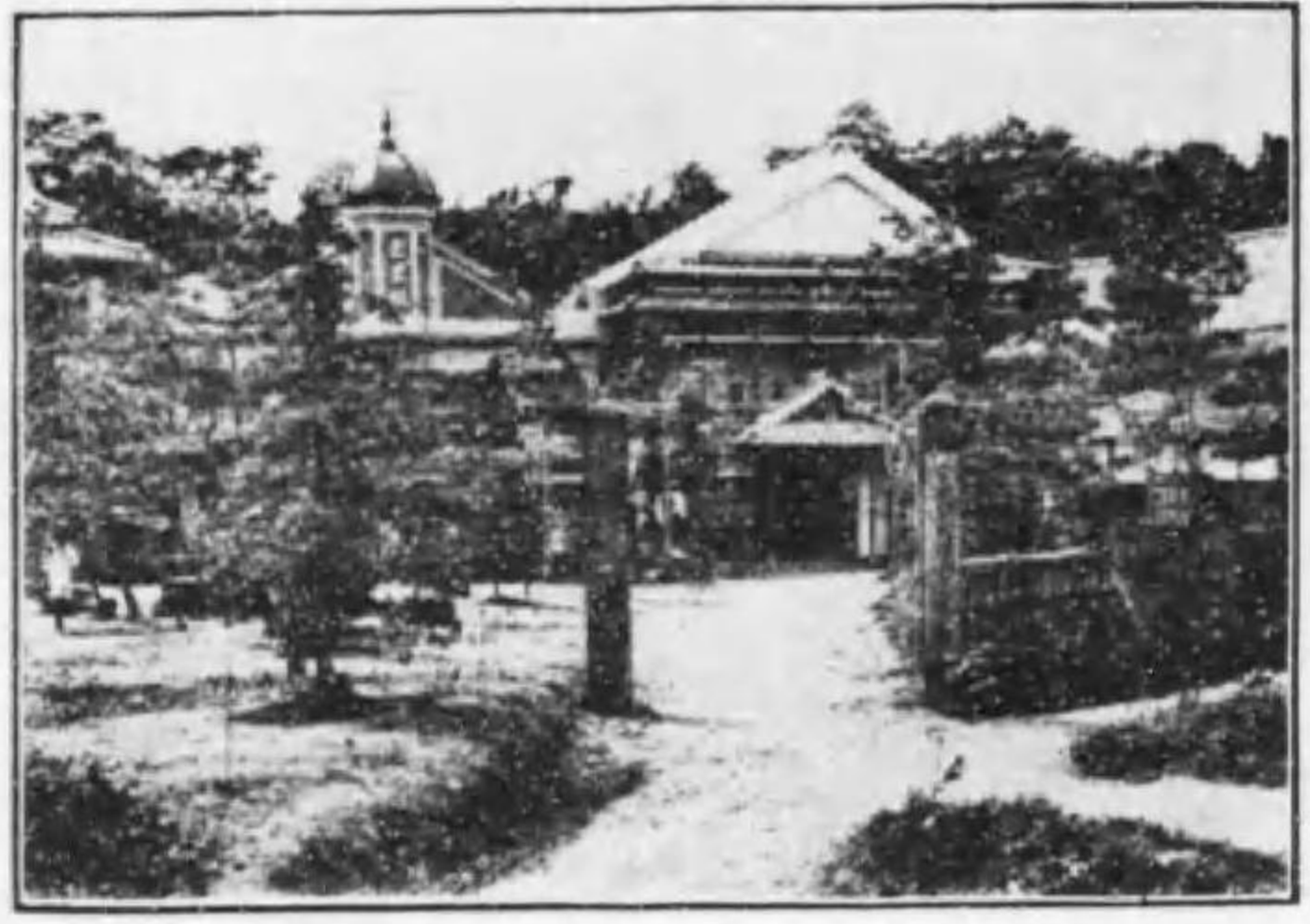
縣立玉名中學校、玉名高等女學校

郡立圖書館等の所在地である、菊

池川は町の東部を流れ、里餘にし

て有明海に入り、船泊の便あり、高

瀬町は郡中に於ける米穀物産の集



散地である、

【長洲町】 長洲町は高瀬町の西方鐵道沿線約四哩の地點にある、有明海に面し漁業の盛んなる土地である、海上七海哩を隔て肥前島原と相對し、同所と西方福岡縣大牟田港(四ツ山港)とに定期汽船の便がある。

【荒尾町】 荒尾町は縣下唯一の大炭坑たる高田坑の所在地で近年町制を布くに至つた土地である。町勢は漸時西方に延び福岡縣三池郡三川町、四ツ山港等と接續せんとする勢を示してゐる、高田炭坑は三井の經營に係るもので其の規模の大なる點に於て採炭額が多い點に於て三池各炭坑中第一の稱がある、四ツ山港はこれが運輸の便を圖る爲め三井が當時四百萬圓を投じて開墾したものである。

【南關町】 南關町は同郡の北部にあり、九州鐵道開通後交通不便の爲め一時町勢頓に衰へ、商業産業共に不振に陥りたるも、最近東肥鐵道が矢部川より延長し來たり漸く町勢を挽回せんとし將に新生の觀がある。

【木葉町】木葉町は高瀬川の東南、里の地帯にある、西南役の戦場として名あり、石灰、製糸の業盛んである。



【立願寺温泉】高瀬川より

八町、正野、錦、雨温泉がある、津安釜温度高く、山野の眺望に富む、近時大牟田熊本方面より浴客多く漸く盛衰を極めつゝあり

【伊倉八幡】伊倉町にあ

り南北兩宮あり景勝の地である

【伊倉八幡】伊倉町にあ

り南北兩宮あり景勝の地である

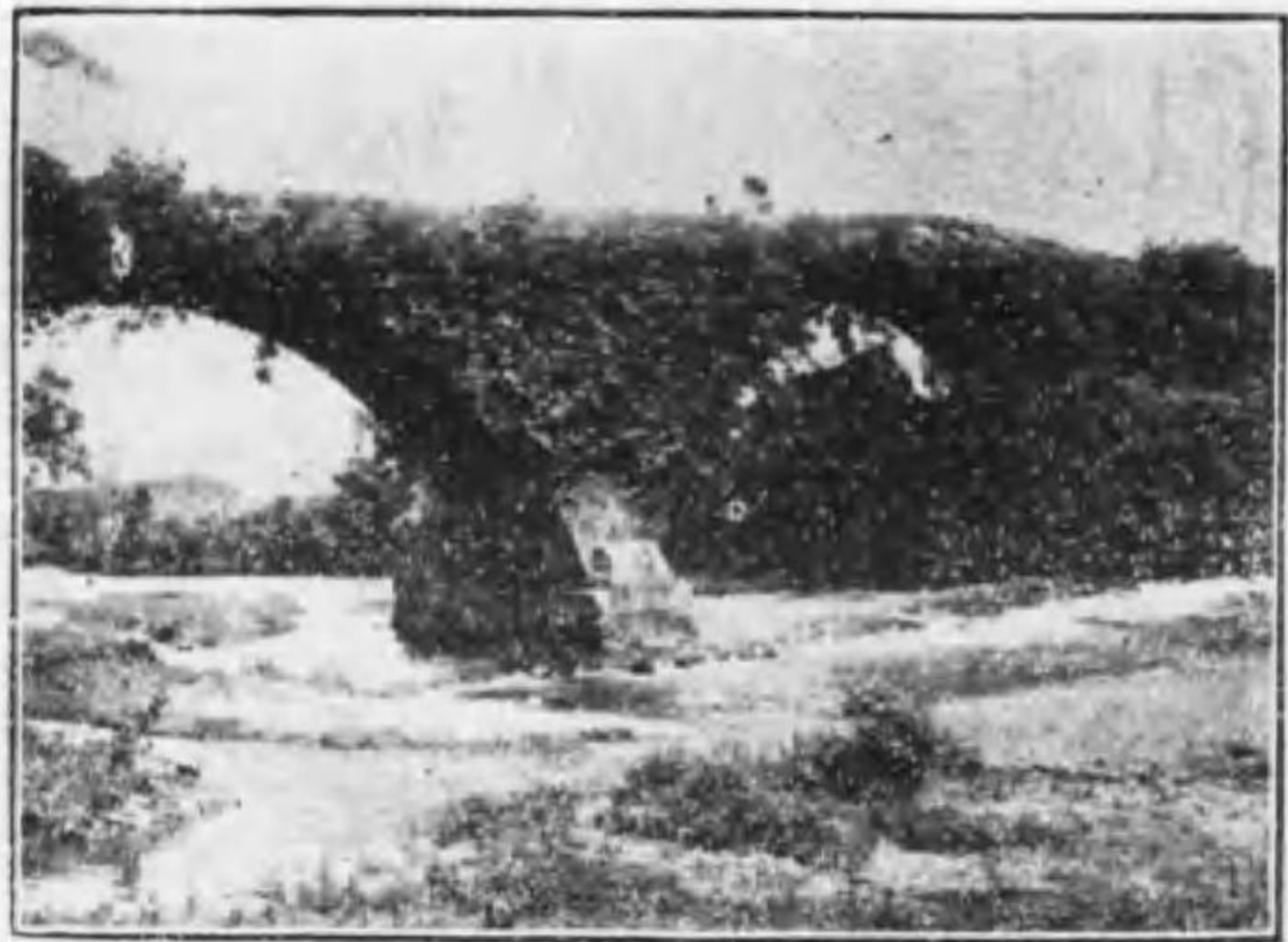
産 業 郡内の重なる産

物は、米穀、石灰、石灰、生絲、石材、酒、酢、農具、素麵、殊に柑橘類は有明なる小天に蜜柑の名産地がある、又石灰の如きは、東洋一の稱ある三井三浦萬田炭礦があつて、年々多額の石灰を出して居る。

鹿南郡

鹿本郡は縣の北部に位し、西は玉名、東は菊池、南は鹿本郡の三郡に隣接し北は福岡縣八女郡及大分縣日田郡に隣接してゐる

【山鹿町】郡の首府は山鹿町で、郡役所、警察署、稅務署、區裁判所、山鹿高等女學校等の所在地である、山鹿温泉は町の中央にあり浴客多



橋れがめの田鍋場戦古の役南西

し、九州本線植木驛を起點として來民町を經由し同町に至る鹿本鐵道が大正十三年に完成し交通の便頗みに開け、又同町より各地に向けて定期自動車の便がある、刺場八千代座、山鹿茶番等があつて縣下北部の繁榮地である、菊池川は川の南方を流れ山紫水明附近は景勝の地多し

【來民町】來民町は山

鹿町の東方一里餘の處にある、鹿本菊池の兩郡の中間に介在する商業地として近時著しく發展し米穀の集散地としては縣下第一の稱がある、團扇製業又盛んで九州各地を初め朝鮮臺灣等に移出してゐる縣立鹿本中學校、郡立農業學校、製絲場、城北劇場等があり、鹿本鐵道來民驛より各地に定期的自動車がある

【植木町】植木町は九

州の本線植木驛の北東數町の地點にあり、菊池鹿本兩郡の南部に於ける農産物は多く此所に集る、附置の農村は養蚕業盛んで製絲場蠶種場等がある



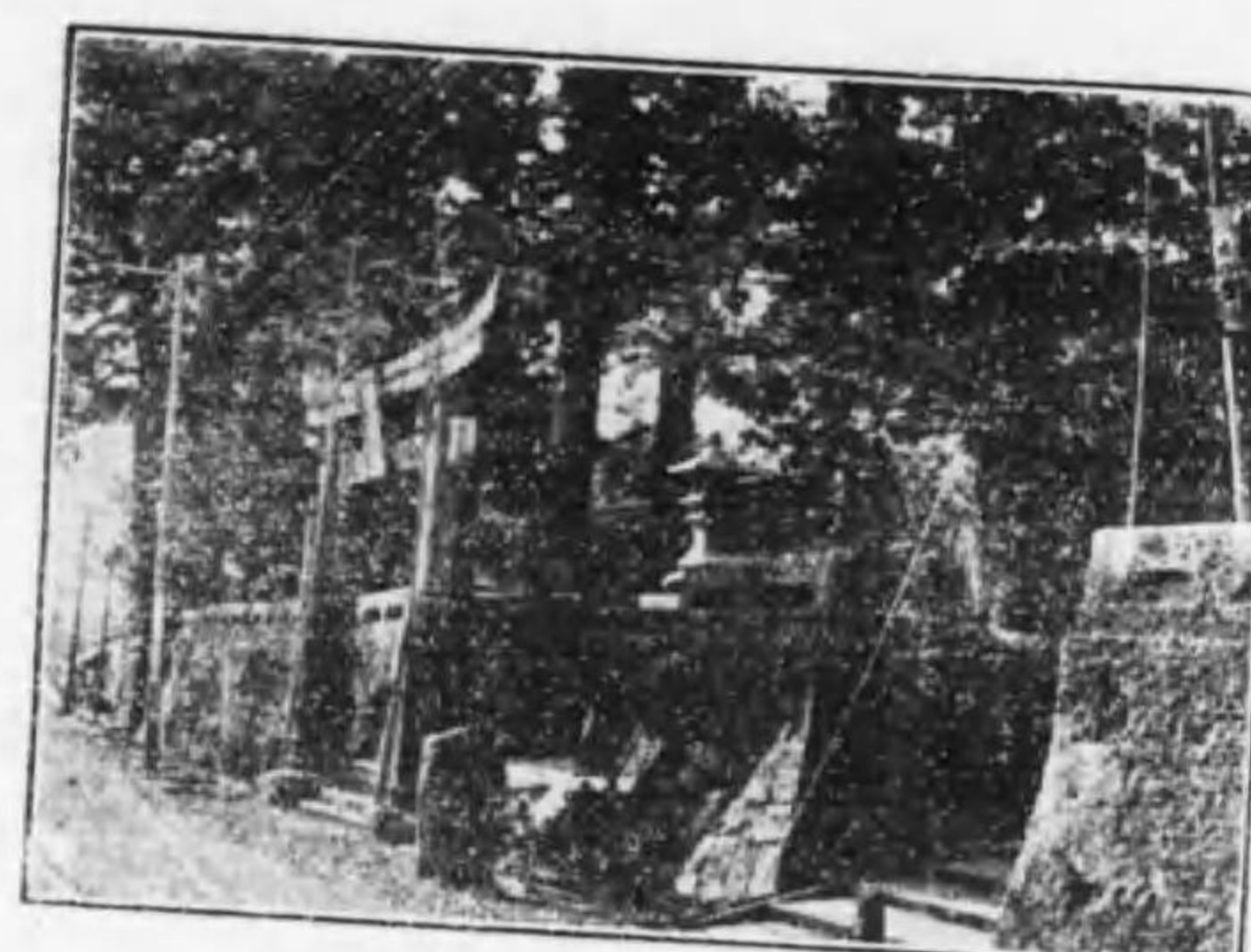
疾澤庫倉頭坂原田役南西年十治明



【田原坂】、同郡田原村にあり、古名郡木堂町と鹿本郡木堂町の中間で、明治十年の西南役の戦場として名あり、薩軍の峻攻に據りて官軍を支ふること十七日、其夜砲聲劍撃の絶ゆることなかりしと言ふ、爲めに今尙附近の山林中老樹の幹に彈痕蜂巣の如きものがある、坂上忠魂記念碑がある、故有楠田鐵仁親王の御撰に係るもの。

【山鹿温泉】 山鹿温泉は建築浴場共に宏壯、一浴場僅に數百人は入るゝに足る、湧泉透明湯量極めて豊富、松の湯、紅葉湯、櫻湯、梅の湯、木廣湯等あり殊に貴賓を迎ふる爲め御前の湯がある平常は何人の入浴をも許さぬ、泉質は亞兒加里性炭酸泉でラヂウムエナマチオンを含む、胃腸病等に特效ありと傳へられてゐる、尙この外郡内には、熊入、平山、平島、石村等の温泉がある。

【不動岩】 來民町より約一里、三玉村瀧生山の山上にあり、巨岩怪石天柱の如く屹立する



もの、巨獸の如く蟠居するもの眞に天工の妙を極む、肥後妙義の稱がある、尙山鹿に金比羅神社、生目八幡宮、一ツ目神社等があり、不動岩は後不動、前不動に別れ各所に不動尊像を祀る。

【大宮大神宮】 山鹿町にあり、殿堂高壯、毎年八月十六日大祭を行ひ有名な山鹿燈籠を献納す、山鹿燈籠は町民の製作に係る紙製のもので其の技術の巧妙なる古代美術の面影を止めてゐる、金燈籠、屋敷燈籠等があつて祭日の當夜は徹夜してこの祭禮を行ふ、縣下北部の名物の一つである。

【相良観音】 相良寺観音は、同郡内田村にあり、大同年間傳教大師の開基に係る古刹である。

産 業 米穀、繭、生絲、茶、團扇、傘、木炭、木燐、殊に米穀は良質として知られてゐる。

菊池郡



菊池神社の道

菊池郡は鹿本郡の東部に連り、南方は鹿本上益城の兩郡、東方は鞍ヶ岳、阿蘇外輪山を境界として阿蘇郡に接し、北は大分縣日田郡に隣接する熊本縣北部の一雄郡である。

郡 邑 **【隈府町】**、隈府町は、往時菊池氏の據城であり、此の地に於て勤王の義兵を起し、南朝の忠臣として義旗を西國に翻した處である、今は其の城跡に菊池神社あり、菊池家累代の忠魂を祀る、有名なる櫻の名所である、

菊池電氣軌道は同町を起點として熊本市内の北部を横斷し九州本線上熊本停車場に達す、同町は附近に河川多く山紫水明、遊覽の地多し。

【大津町】

大津町は九州鐵道宮地線に沿ふて同郡の東部にある、米穀

の集散地、蠶業林業等盛んである
大津中學校あり、製菓用の落雁粉
は同地の特産でありこれを原料と
する銅錢糖は同町の名物の一つで
ある。

百所眞蹟【菊池神社】前記

の如く菊池武時以下武重武光武朝
其他二十餘代の英魂を祀る官幣社
である、近年其の東方に公園を設
け數千株の櫻樹を移植したる爲め
從來櫻の名所として知られる上、
更に吉野櫻を加へ九州に於ける吉
野山と稱せらる。



【菊池家の墓地】 隈府町正觀寺にあり、境内に武光、武政、能連の墓碑がある。

産 業 米穀、繭、牛絲、木炭、炭、木材、酒、醬油等殊に米は肥後米の中で
も菊池米と言へば優秀なものである、又養蠶の盛んなる第二の群馬の稱さへある

阿蘇郡

縣下の最高地にして、東南は大分宮崎の兩縣に接し、南西は菊池上益城の二郡に
接す、面積八十二方里、球磨郡と共に縣下の二大郡である、

産 業

産物は、米穀、木
材、木炭、炭、硫黄、明礬、繭生
糸、牛馬等である、

郡 邑

郡役所、區裁判所
等は宮地町にある、其他郡内
に坂梨町、内牧町、高森町
馬見原町、小國村等があり、

何れも相當の繁榮を呈してゐる、

百所古蹟【阿蘇山】、世界

第一の活火山にして郡の中部に起
起し、海拔五千三百尺、霧生山、
赤崎山の名がある熊本の東約十里
にして、中岳、高岳、杵島岳、鳥



帽子岳、根子岳の五岳を總稱して阿蘇山と呼ぶ、噴煙四時絶へず、火口實に凄壯
を極め、東風烈しき時其の轟遠く熊本に及び、一大忽ち晦となる事がある、延暦
十五年爆發以降千八十餘年、其の間五十九回の噴製を重ね、新火口は實に南北七
里、東西四里に亘つてゐる、近く明治四十一年又一新火口を生じ凄絶筆紙の能
く盡す所でない、

【阿蘇神社】

官幣大社阿蘇
神社は宮地町
にある神武天
皇の皇子、神
八井耳命の第
五の御子、健



數鹿流の滝

磐龍の命を奉祀する所にして、殿堂の壯麗はん方なく、阿蘇津姫、速瓶の命を併せ祀つて三社大明神と云ふ、實に二千年前以前の創立である、

【數鹿流瀑】 縣下第一の瀑布にして菊池郡立野と阿蘇に接する處、黒川の白川に合する地點より約半里の上流に當り、絶壁より直下する事二十丈、噴霧濺々、乾坤震動、見るものをして覺へず毛髮を悚たしむ、



木 橋
又近年内牧町に鑿井に依る幾多温泉の湧出を見るに至つた、而して各温泉とも概して、健康室

【阿蘇の温泉 湯の谷、垂玉、朽木、戸下、杖立】 等殆んど牧場

に暇ない程の温泉である、

又近年内牧町

に鑿井に依る幾多温泉の湧出を見るに至つた、而して各温泉とも概して、健康室

【遠見ヶ鼻】 内牧驛より自動車を驅り約廿分位にて達する事を得、試みに此に立つて下瞰すれば、阿蘇外輪山は一時の下に集まり、絶景云はん方なく、先年徳富蘇峯の來遊するや、驚喜して大觀峯と名づく

交 通

熊木と大分とを連結する豊肥線は、兩方面より工事進行中にして、大正十八年には竣工の豫定であるが、目下は宮地町迄である、又菊池郡立野より高森町に通ずる、南嶺鐵道は是れ又工事進行中にある、又黒川の水を利用する熊本電氣會社及水力電氣會社の水力電氣は、其の設備殆んど他に匹敵を見ざる處にして、其の發電所は立野にある。

と 益 城 郡

上益城郡は略ぼ熊本縣の中央部を占め、東南部に蟠居せる國見山を経て宮崎縣に接する外は、悉く縣内の各郡と隣接せり、地形東西に稍や延び南北に狭し面積四十四方里餘、四ヶ町十七ヶ村を包轄せり、地味頗ね肥沃にして米穀、烟草、繭、酒、醬油、木材、林産物其他、礦物等も多く産す。

都 邑 【御船町】 矢部郷の富源を控へ郡中第一の都會をなし、町内には清酒の醸造盛んに行はれ、郡役所、警察署、稅務署、郡立實業學校等あり、



御船鐵道は宮地嶺等驛を起點とし開通したるを以て交通至便となり、彌々繁榮を加へて居る熊木元標へ四里二十二町

【木 山 町】 木山町は御船に次ぐの都邑であり熊本より東三里、白鶴中、馬車、腕車の便あり米穀の集散地として知らる、人口三千餘、日軌木山線開通の上は一層の賑盛を見るべし、木山城址、赤井城址は附近にある、

【甲 佐 町】 御船町より南二里餘川の沿岸にありて御船鐵道の開通に依り俄かに面目を革め市況隆盛を極め、人口四千五百餘當時の最盛は町の東にありて結及び酒にて名あり。

【濱 町】 舊矢部郷の中延岡街道の樞要地に當り山間の名邑である人口四千五百餘分署、登記所、小村區署、郵便局、農事學校等あり、岩尾の城跡、稻荷山通潤橋、千瀬、万老説書者勝見るべきものが多い最宜内大臣の御出陣

を加増し再興頼みに勝る、熊本元標へ十二里八町、

厄所古蹟

【内大臣山】

白糸村にありて附近高嶺多く、東南は日向國に



境し眞に萬山
重疊の狀あり
山中巨樹鬱蒼
とし内大臣の
大森林として
其だ有名であ
る、山の最高
點は千四百九
十餘米に及び

天主山といふ、此の山名を内大臣とせるは、小松内大臣平重盛が營居した跡だとの傳説から生れたもので、山中に小松神社ありて重盛を祭る、目下此の山より良質の木材を盛んに搬出して居る。

【飯田山】

飯野村の南部にあり木倉高木の二村に接す山頂四百三十米にして肥後平野を一時に集むるを得、路傍には櫻樹多く、往昔飯田山常樂寺の精舎ありしを以て名あり、山頂には堂宇や山門があつて青苔を乗せたる羅漢像、石燈籠等は、其の榮えし昔を物語つてゐる。

【七瀧】

七瀧村にあつて瀑布七層をなすので此名がある、高さ十丈餘幅員八間巖上に佇立し俯瞰すれば白雪の飛泉は霧々の響をなして壯觀である。

【通潤橋】

濱町附近にありて嘉永五年に工を起し、安政元年七月落成したものである、當時の惣庄屋布田保之助の義心に依り成つた通水橋で下流の瀧渡反別は百町餘歩、此の工事が成つてからは干魃を見た事はないと傳へられる、橋中より水を引く時は、其の中央の兩吼より二條の瀑が白布の如く懸つて美觀を呈するのである。

【横井小楠の墓】

秋津村沼山津に在る、幕末維新の勤王家實學派の頭目と



六嘉浮鳴神社の首腦者宮部鼎藏の碑は、七瀧村の景の七瀧にある、縣民有志の醵金にて成つたもので、位階正四位は明治二十四年四月八日朝廷より追贈せられた。

【築場】

甲佐町東南十餘町有名なる甲佐船の捕獲場たると共に、甲佐唯一の勝地である、慶長十二年清正築場井手筋碓所井樋等を遊視し田上監物の力量、技研なるを賞し鬼丸の名を與へ風光を賞せし場所として名高い。

下益城郡

下益城郡は熊本縣の中央に位し、熊本縣を距る南五里の地點にある、東西凡そ七里、南北五里を算し面積約十九方里、包擁する町村十八を數へ、米、麥、木材を産し順を養蠶の業も又盛んなり、九州本線は郡の西端を南北に走り交通至便。

郡

【松橋町】、松橋町は郡の最西端にあつて、松橋驛に隣接し、郡役所、警察署等がある、郡中有数の物資集散地、人口三千餘にして市街茂盛を極む

【小川町】

郡の西端に位して東は海東村西は河江村に隣し、南は砂川

を以て八代郡吉野に境す、省線小川驛は町の西方約二十町、郡中樞要の郡邑である、元寇來朝に殊勳があつた竹崎季長の墓は東一里十町(驛より)の海東村にある

【隈庄町】 隈庄町は郡の北方にあり熊本縣元標を去る事南四里、松橋町に次ぐ繁華な郡邑である、町内製糸業昌んで、人口五千五百甲斐宗彦の攻圍を以て名ある隈庄城址は町外れに在る

【松橋神社】 人皇第七十代後冷泉天皇の永承四年、宇治關白大臣藤原頼通勅を奉じて建立したりしと云ふ、後菊池氏伯耆氏宇土城主となり世々社領を寄附し、慶長四年小西行长宮殿を燒失せし時、三神體を山中に隠し、後加藤清正肥後を鎮するに及び松橋神社を現在の個所へ遷した

【木原山城趾】 宇土郡と本郡との境にある、一名雁回山とも稱す、之八住普鑑西八郎爲朝が在城の折過雁を射落した古事による、山中には爲朝が碑に取つたと云ふ大石がある、此の木原城趾は普矢橋庄司宗親の居城にして、仁平年間に爲朝下向し九州を從へこゝに城を築きたりといふ

【竹崎季長の墓】 下益城郡海東村大字平原にあり、正應の昔を距る事茲に六百有餘年香として其の墳墓の所在を知るものがなかつたが、明治二十八年十一月七日之れを荒野の中に發見し、爾來樹木を植えて記念とし年々例祭を執り來つたが、今上御即位の大典に際し季長公に從三位の御贈位あり、之れを機とし下益城郡教育會に於ては墓所の修理を行ひ記念碑を建立した

八代郡



八代郡は縣の南部にありて球磨、葦北、下益城の三郡に連り西方一帯は不知火海に面し、面積約四十一方里、人口約十萬縣下の大部である、地勢は概して山地多く平坦部は極めて少部分であるが、大体に於て地味肥沃氣候順調で農産物に適し球磨川一帯及び不知火海より獲得する水産物も相當に豊富である、地勢の關係上沿海地方の平坦部は人口密で八代町、宮原町、鏡町等の小郡邑や可成繁華な村落が點在してゐるが、山間部は道路峻險にして深山幽谷相踰ぎ、交通頗る困難な爲めに従つて人口稀薄で全部百三十二個町村中大部分は聯合自治制をとつて役場は僅かに二十四個に過ぎない、郡民の生活状態は縣下他郡に比して貧富の懸隔甚だしく本縣の多額納稅者十五人中五人を本郡で占めてゐるに反し農民の窮狀言語に絶するが如きもの尠からず、郡榮問題の如き我國に於ける小作爭議の記録に特筆すべき社會問題を惹起した位である。

【産 業】 郡民の大部分は農業に従事し約一刻五分弱が商業を營み他の小部分は漁業や工場労働に従つてゐる、大企業としては鏡面に窒素肥料會社工場あり阪本に九州製紙會社の製紙工場あり、最近八代町に九州製紙の分工場設立されて盛んに農村の子弟を吸収し理想的能率をあげて縣下の工場地帯の觀がある、金融機關は五個の銀行の本支店があるが、いづれも五等大企業や大地主の利用するに止

り中流以下は少数の信用組合、稲母子講に依るの外ない状態である

郡 邑 **【八代町】**、縣下に於て熊本市に次ぐ郡邑で人口一万五千を有し細川氏の元老松井氏の舊城下である、日本三急流の一と稱せらるる、球磨川の海に瀕ぐところ三千戸の繁井然として立ち並び、何處となくまだ舊城下の匂ひが漂つてゐる、大正十二年肥薩海岸線第一期八代日奈久間の開通に依り俄かに活氣付いて來たが日奈久線の開通が却つて旅客の足止りを惹くした感がないでもないの

で町では發展策について苦心してゐる、郡役所を始め縣區司令部、中學校、女學校等あり紺屋町の遊廓、不知火祭番等また縣下梓界に知られてゐる。

【鏡 町】 郡の北端にあり、有佐驛より約十町、米穀の集散多く鏡米券倉庫がある、日本窒素肥料會社が此處に工場を設立してから附近一帯は頓に活氣を呈し雜貨、呉服商、飲食店、料理屋等相當に繁昌してゐる。

【宮 原 町】 砂川に沿ふた感じのよい小郡邑でこゝも同じく有佐驛で降り縣道を一直線に數丁にして達する、仙境五個の庄に至る咽喉に當る、地主大商



八代宮御詣及古石城

人も二三居る、

【八代城跡】、八代驛より伸で約十五分、一名白石城と稱す、白色の巖石を以つて築いてあるのでこの名がある、元和元年加藤忠廣の一族加藤正方をして築かしたと傳へられてゐる、明治四年廢藩置縣と共に八代縣廳を置いたが後白川縣に合併するに及んで之を廢し跡に八代宮を建て征西將軍懷良親王及び後征西將軍良成親王を奉祀す。官幣中社である。

【八代神社】 八代神社は通稱妙見社と呼び八代町より一里餘宮地村に在る、同地方では俗に一妙見二なし三放生會と云はれるほどで其祭禮の股賑を呈すること縣下種に見るところである。

【悟 眞 寺】 同じく宮地村にあり征西將軍宮の靈牌を奉安する由緒ある佛閣である、境内に將軍宮の御墓あり老樹鬱蒼として之を環り轉た遠き昔の御幸艱を憶はしむる。

【五 箇 庄】 郡の最奥地、宮崎縣と境する九州南部山脈の連山重疊なる間に點在する村落で、仁田尾、椎原、樅木、葉木、久連木の五箇村を併せ稱する人口約千餘戸數二百餘世に家族を擁し稗を常食としてゐる、平氏隠棲の地として日向の椎葉と共に知られてゐる。



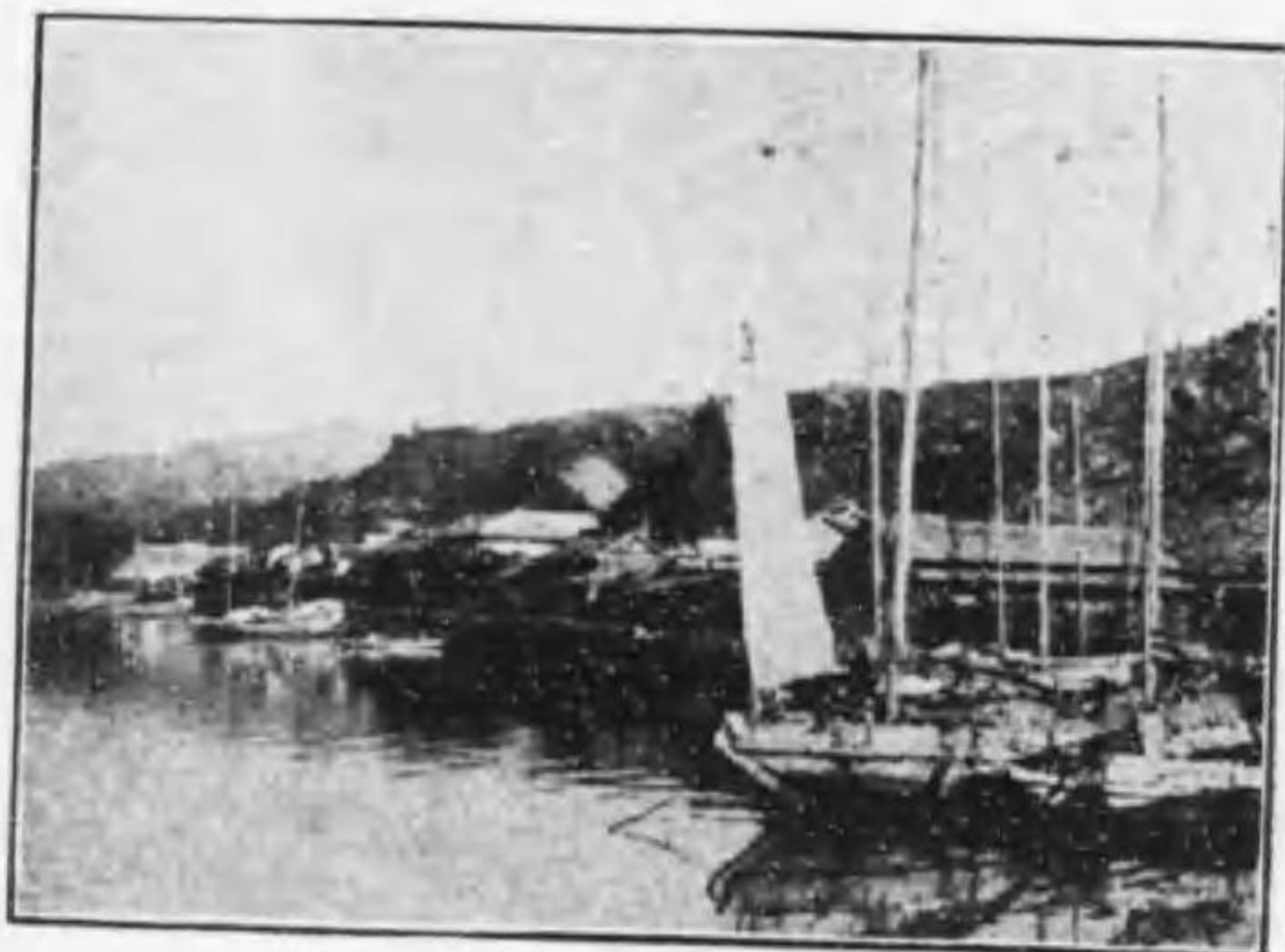
球磨川原堤八代古蹟城址望

【萩 原 堤】 八代町のほとり、球磨川の洪水を防ぐために築かれたもので延長二里餘、蟻々として球磨の清流に沿ふて横る、堤の上には老松が龍のやうに蟠り岩に激する飛沫を浴びて物凄しい、球磨川八景中の名勝である。

【郡 築 新 地】 所謂郡築開闢の發生地郡築新地は、郡の經營に係る小作地で明治廿九年郡制實施の當時郡有財産造成の目的を以て郡會の議決を經明治三十一年郡債四十四万五千二百圓を起し(後追加して約八十三万圓となる)八代町松高村八千把村地先の海面埋築に着手し幾多の波瀾を経て明治三十七年竣工したが如何せん灌漑水不足のため所期の結果を舉ぐるに至らないので更に要水路施設として翌三十八年郡債七万三千圓を起し球

磨川より分水する郡専用の要水路を開鑿し明治四十年六月に至り通水を見、越えて四十二年四月新に一村として指定せられ郡築村と稱するに至つたのである、現在戸数四百二十戸、人口二千百五十あり、小作米約一万六千を算し之がために大正三年以降郡は郡費の分賦を爲してゐなかつた程に有力な財源である、

肥前北郡



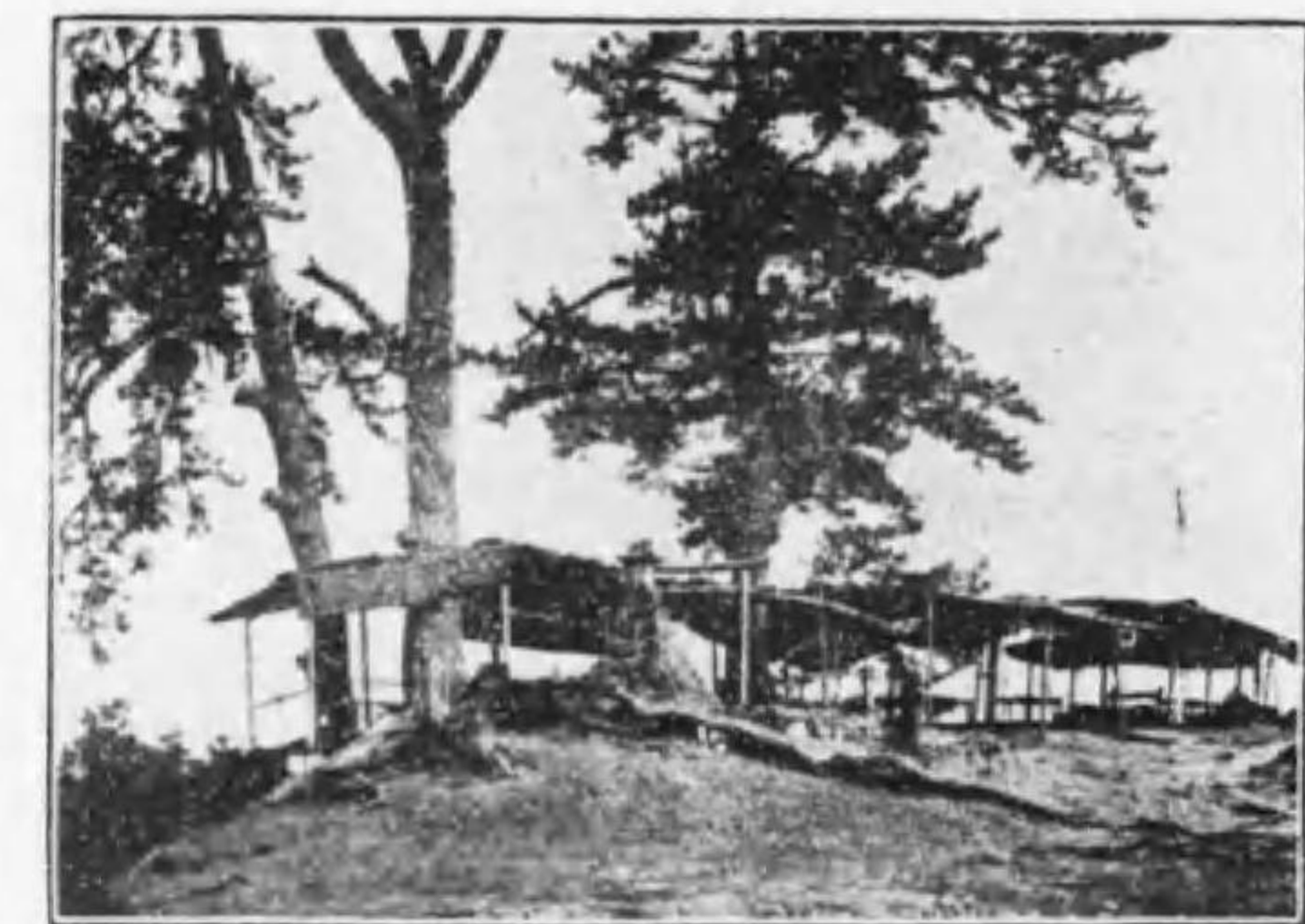
北郡は、熊本縣の南端に在つて、八代球磨の兩郡に接する外は、全部海を以つて環らされて居る、沿岸は風景に富み、水俣、佐敷の良港灣を有する、本郡は大關、國見、笠山、鬼岳等の山嶺相連つて、面積の五分の四は、山野に屬し、平地は僅かに五分の一に過ぎない、有名な三太郎峠がある、郡内の交通は、海岸線が長いので汽船の運航の外、陸路は自動車の定期運轉、馬車の開通を見て、相當運輸の途は開けて居るが、近く肥前海岸鐵道の開通を見る運びとなつてゐるので、日奈久から佐敷方面の交通は、非常に短縮される譯である、

産 業 多くの海岸線を有するが故に、漁業は相當發達し、年産額二十五萬圓、水産加工品十八萬圓に達する、又郡内の五分の四は山であるから、林産物に富み杉材のみでも二十七萬圓の産額で、其他のものを合すれば、實に二百萬圓に上るのである。

郡 邑 町制を施行してゐるところは、日奈久、佐敷、水俣の三町である。

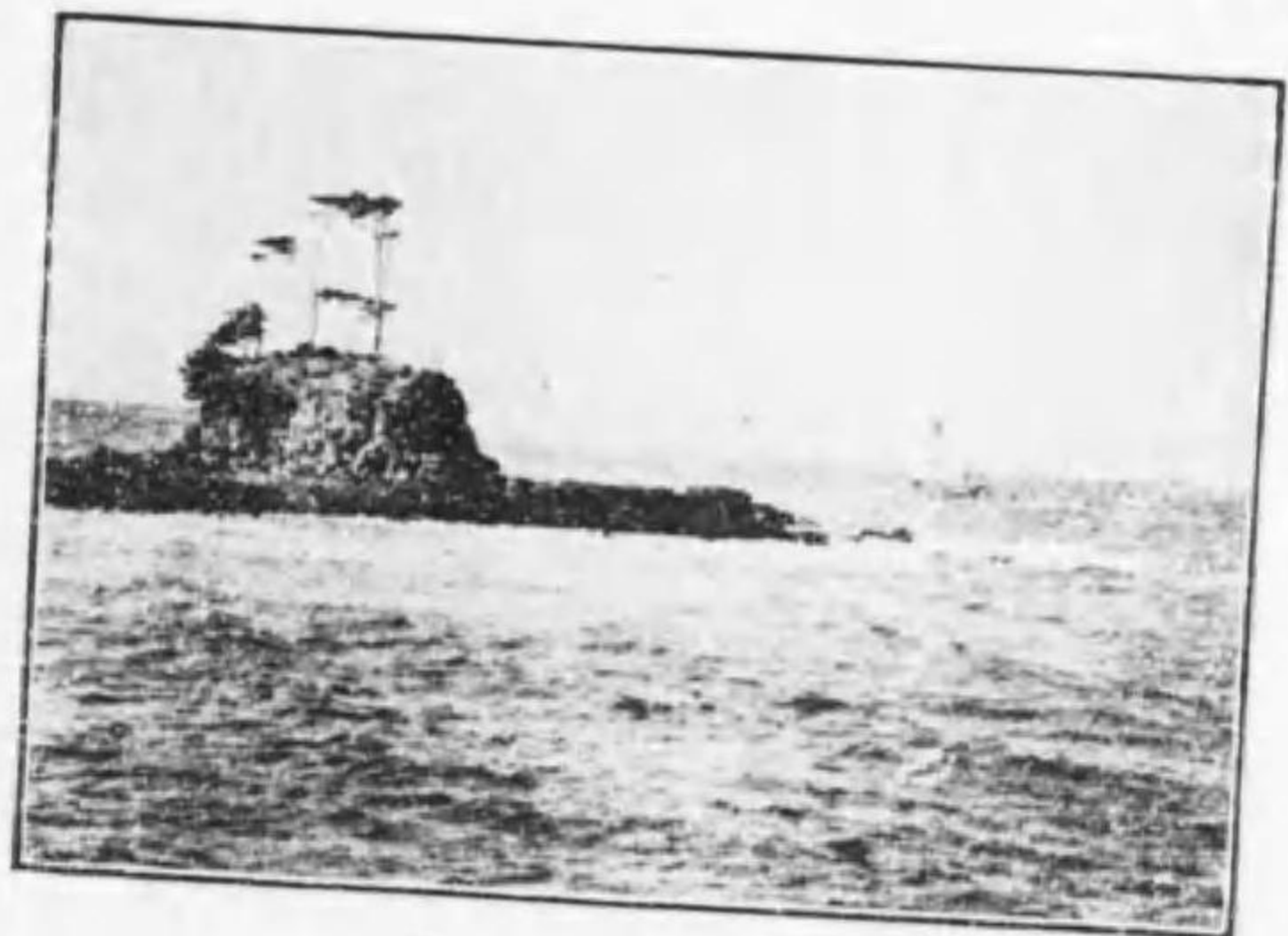
【日奈久町】 肥前海岸線は目下日奈久町迄開通してゐるが、温泉街として全國に聞えてゐる、浴客は四時餘を絶たぬ盛況、殊に夏季の如きは、各旅館職員で客室不足を告ぐるの有様で、街の發賑なる事は温泉地として縣下第一である、海岸を控へ、山を負ふて居るので、風光明媚、名勝蹟も又缺くはない、君が淵の傳説、鳩山の風景、温泉神社の歴史等、何れも来り探すに興盡きぬものがある

【佐敷町】 郡中第一の都會で、郡役所々在り、佐敷太郎山の南麓佐敷川の岸に沿ふてゐる、近く鐵道の開通によつて、八代、熊本方面の交通が便利となる、物資の集散地として、益々將來の發展を期待されてゐる、又附近には風景絶佳な勝地が多く、鐵道開通に伴ふて、附近の勝景は世人に知らるゝであらう。



工場地として發達する、港に將來、縣から相當の施設をなし、又漁港候補地としても有力で、縣下有数の良港として囑目されて居る、附近には又月の浦等の景勝がある。

【佐敷城跡】 花岡城とも云ふ、建武二年村上伯耆守顯興入道紹覺當國に下り、八代古城に在り、一族土御用守重光をして、城を守らしめた應永七年弟重光後守重光此城に據りて六十二歳を卒してより、佐敷太郎重家、球磨の相良、加藤大和守重次等相次いで據城した蹟である。



【水俣城跡】 陣内城とも云ふ、鎌倉實記、壽水の頃水俣四郎等菊池肥後守降直に属して、筑前國原田種直と戦ひ大いに戦勝した跡である。

【久多良城跡】 【田崎城跡】、【二見城跡】、【田浦城跡】、【津奈木城跡】其他数多の城跡が、郡内に散在してゐる。

【君が淵】 二見川の流に在つて、岩泉絶勝の地、清冽水の如き水を湛え、夏は暑さを知らぬ風趣に富む、此湖にはこうした

傳説がある、昔播磨の君と稱する智者女を慕ひ、琵琶を負ふて此處に來り遂に女に逢はずして身を此淵に投じた涙の物語りがある、當地の俗諺に
あはれしれ君が淵瀬の世々經ても
仇名はそとにしづむともなき
くつの葉の今はた同じ君が淵

なれも昔のあとを思へば

【月の浦】 水俣町南約一里、古戦場の跡で風光に富む、鳩山、温泉神社何れも日奈久温泉場の附近で、鳩山は温泉神社境内と俱に、遊客の公園遊歩地である、

【日奈久温泉】 日奈久町にあつて、有名な温泉、夏は海水浴場の設備もあり、避暑、避寒の好適地、肥薩海岸線日奈久まで開通後は異常の發展を來した

【湯浦温泉、湯鶴温泉】 湯浦温泉は佐敷町の西、海岸に沿ふて風光明媚な處、含有薬物及温度又高く、肥薩海岸線の開通後は、日奈久温泉と相對して段

盛を見るに至るであらう、湯の鶴温泉は、水俣町から二里山の麓に在つて、古い温泉である。

球磨郡

球磨川を以て名高い球磨郡は、本縣最南の大部で、東は宮崎、南は鹿児島の一縣西は葦北、八代の兩郡に接し四六山岳を以つて圍繞せられ、球磨川が東より西に貫流し、六方里の人吉盆地の外は、殆ど山地に属し、人吉町を始め、一町二十四箇村、人口十萬四千二百四十二人を擁する大部である。

産 業 郡内産物多く、米、木材、畜産、木炭、樟腦、果物、茶、麻苧等は其の顯著なるもので、殊に最近に於いて林業著しく進み、人吉、湯前線の開通に依つて地方の文化漸次啓發され、産業も又盛んになりつゝある。

郡 邑 【人吉町】、省線

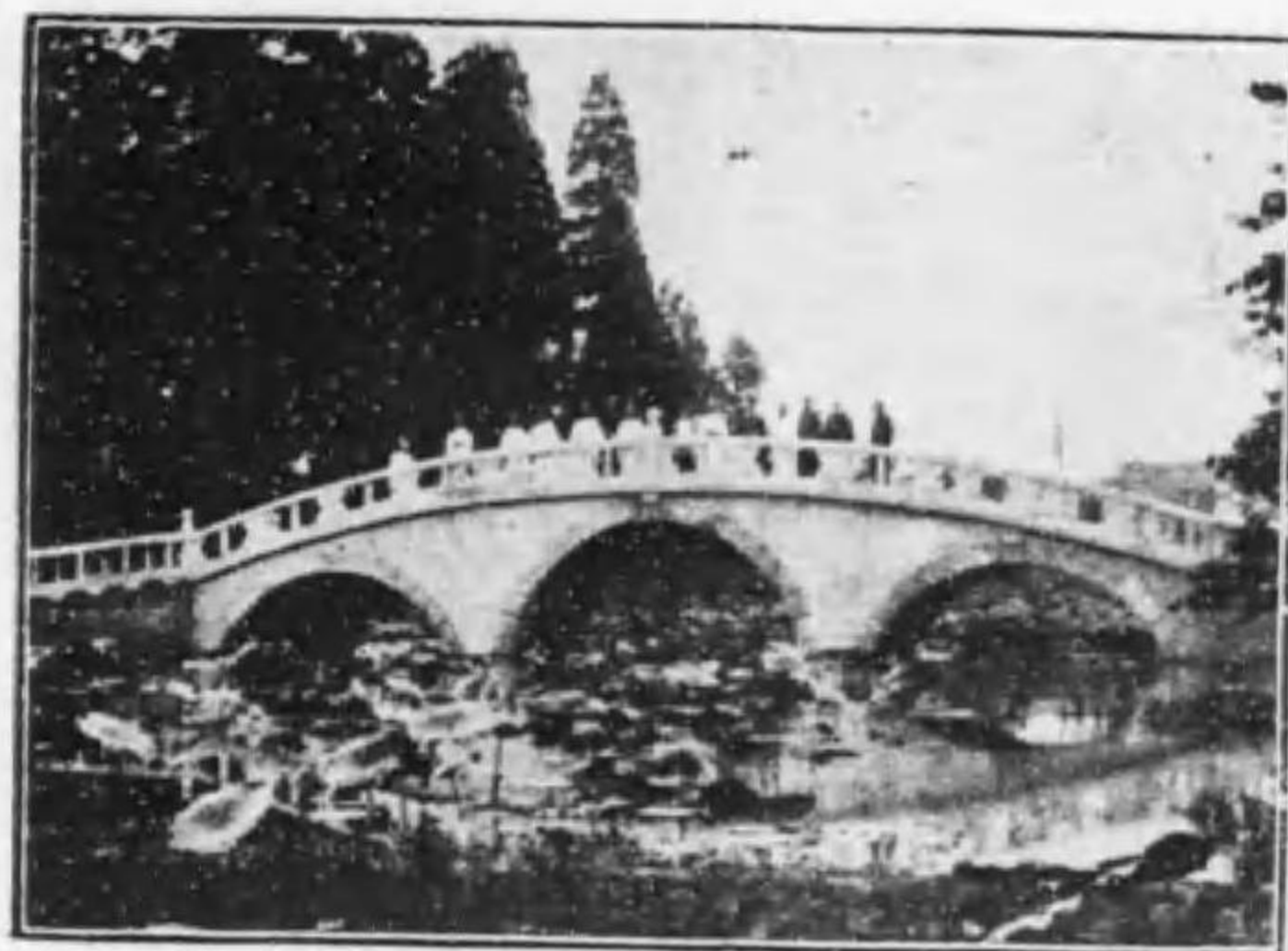
本縣の重要驛で郡役所を始め、人吉區裁判所、警察署、郵便局、人吉中學校、高等女學校等の所在地である、相良家の舊城下にして、有名な球磨川の急流に跨りて町街兩岸に展らげ、人吉大橋、橋を中央に架設し風望頗る好く、郡内物資の集散地である。

【多良木村】 郡内人吉町

に次ぐ郡邑で、人吉區裁判所出張所を始め、郵便局、警察署等の所在地で、町内料亭多く遊樂の地と



あはれしれ君が淵



して縣下に名高い、近時人吉湯前線開通と共に、交通の便大いに開け、物資の集散も繁くなり漸次發展しつつある。

球摩川 氣候風土 郡内山岳多く水量豊富にして、二三町村を除く外は、凡て山水を以つて用水としてゐる、水氣多い爲め秋季の霧は非常なもので、本縣内に於ても一体に寒い方である、民情極めて純朴で、未だ文化の光に浴する事の極めて薄い爲め山間の地方にあつては、殆んど燈火はランプを使用し従つて其の生活は、原始的な處があり、一体に人情厚いのである。

邑所古蹟【球磨川】、名に

し負ふ日本三急流の一つにして、其の源を江代、市房の兩嶺に發し、水量極めて多く、川邊、小澤川、万江川、鳩胸川、免田川、山田川等の支流を合し、郡内を貫流して滔々延長二十五里八代海に注いでゐる、流域には峰槽万機、奇岩疊重、所謂四十八灘の勝景を成し、白沫飛揚、奔流矢を射る如く、急湍、奇灘四十有餘まさに天下の偉

青井神社の眼鏡橋

觀である、一勝地、白石の邊に槍倒しの險あり、船落しと呼ぶ二大怪石對立してゐる、其他清正岩、神瀬の岩戸、船返りの瀬、猿飛びの淵、鐘乳岩等の奇勝があり、人吉より白石までの舟下りは又頗る名高く、船は此の川の名産として賞味せられてゐる。

【人吉城趾】

相良家の舊城、一名織月城と云ひ、人吉町と相對して球磨



川の奔流に臨み、城中には相良家累代の靈を祀る神社を始め七箇所の名勝古蹟がある、明治維新の變革に際して、城址は今其の形体を存しないが、人吉町民四季の遊園地とされてゐる。

【林温泉】

人吉町より約二十町、中原村球磨川の畔にある、縣下有数の温泉地として、四時の風光又愛すべきものがある。

【青井神社】

人吉町を去る三四丁餘の處にあつて、郡内の神社で、青井神社大祭と云へば近

國は勿論縣下にも聞へた祭典であつて、神社前に陣池、櫻馬場、社内に青井と云ふ名水が湧出してゐる。

其の他九州本線大畑驛にルーツ式鐵路があつて有名なる險路にして、日本全国中比類のないルーツ式を以つてし、山岳を廻りて進行する様は實に奇觀である、尚ほ郡内各所に、球磨川の急流に添ふて到る處に名勝の地多く、殊に上述五本地方の勝景は得も言はれぬものがある

天草郡

天草郡は熊本縣の西南部に在つて、大矢野島、上嶋、下嶋の三大嶋及び幾多の郡島より成り、面積五十七方里餘で、四面環海の景勝地、名高い箱山陽の詩、天草灘の賦も、宗教亂として歴史を賑やかした、寛永十四年の吉利支丹一掃も、俱に天草を知る上に見逃す事のできないものである。

産 業 本郡の産業としては水産業を其隨一となさねばならぬ、四面海



なるが故に、刊る處に漁業町村が横はりて、漁業の天草の觀がある其内牛深町、富岡町、富津村、八江村等が盛んな漁業地である、其他西海岸の高濱村一帯に産出する陶土の如きは、實に於ても量に於ても日本一の稱がある全国の陶磁器製造所に、天草の陶土が移出されぬ所なき迄に普及されてゐる。

部 邑 町制を布いて居るのは本渡、牛深、富岡の三町である。

【本渡町】 郡の中央にあり、人口六千餘、郡役所の所在地で第一の都である、熊本縣三角港、長崎縣茂木港、島原港への定期航路があつて、三四時間にして、何れへも渡航し得られる又郡内の交通の中心となつて、富岡町へも、牛深町へも、海には汽船の定期があり、陸路又自動車、馬車の便がある、殊に下嶋と上嶋との交通連絡をとるためには、有名な瀬戸橋が架けられてゐる、官公衙としては、郡役所、警察署、天草區裁判所、天草稅務署、熊本地方裁判所天草支部、本渡郵便局、學校は天草中學校

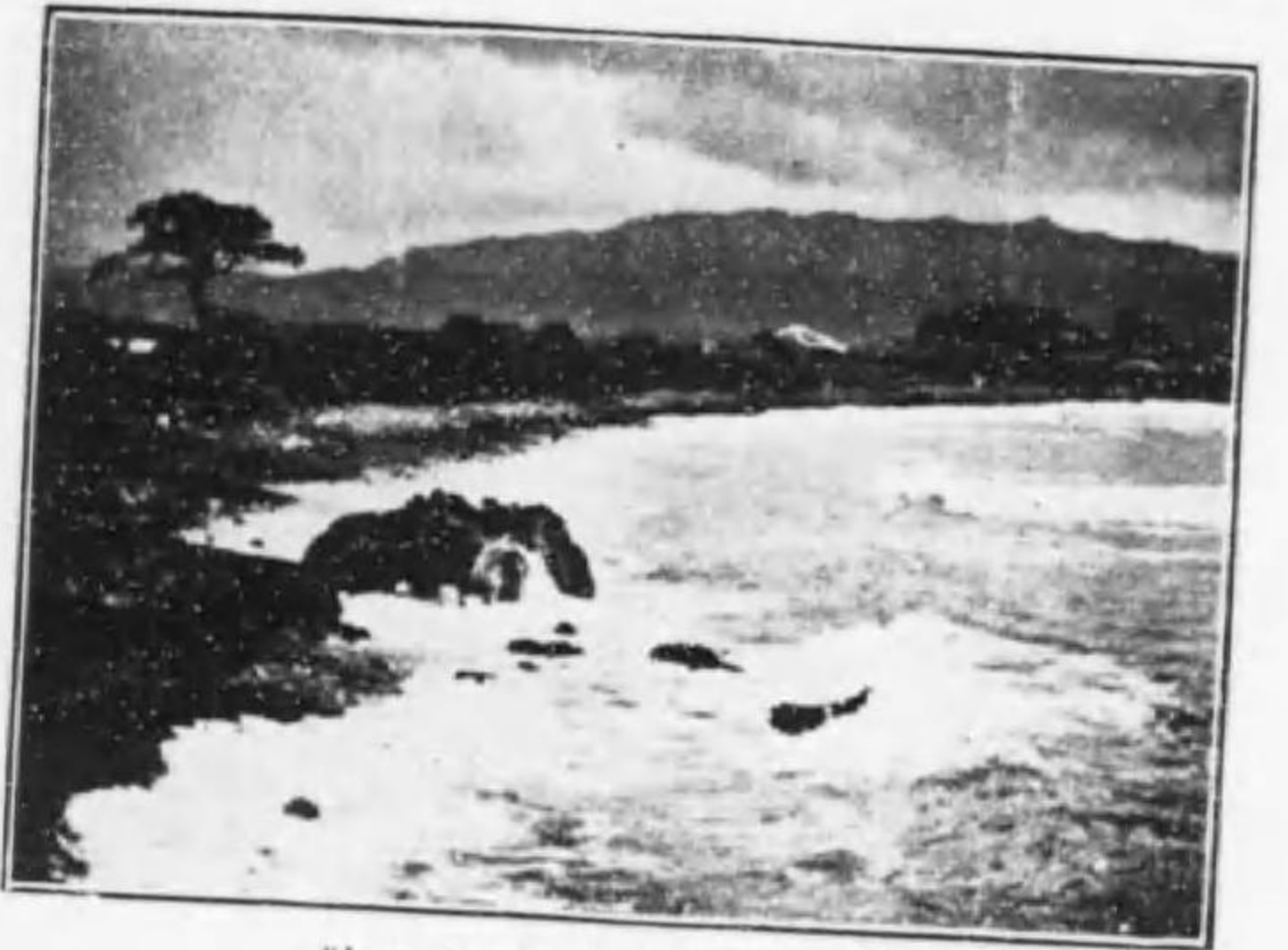


本渡高等女學校がある、金融機關としては、天草銀行、中西銀行、峇州銀行、安田銀行支店等がある。

【富岡町】 天草西海岸と北海岸との兩面を控へた、風景絶佳、漁港、彼の箱山陽が賦した天草灘の雄大な風景は實に富岡町西海岸を誇つたもので、以て其全般を窺ひ知るを得、又北に面した内海は常に波靜かで、且つ遠淺のため、夏は海水浴に適し、曲崎の松原亦麗麗な風光を添へ絶好な遊園地である、富岡町は歴史に豐な處で、天草亂の如きも最も密接な關係を有ち、當時の様を憶ふに足る、千人塚は此町はづれに在る。

【牛深町】 熊本縣第一の漁業地水産物の豊富なるは、以つて今日漁港としての賑盛を呈して居る所以、此附近又風光に富み、漁りする船の出入賑はしさと相對し、天草南端の美しい都邑である、徳川時代では、常に漁港としての牛深のみでなく立天草第一の商業港として、肥前船、薩摩船肥後船、若くは大阪船等が出船千隻、入船千隻の稱さへあつて、潮に響く鼓歌の聲は夜となく晝となく、絶へなかつたと云ふ賑盛を極めたと云ふのである。

【本戸城】 昔加藤清正と組み打ちしたと云ふ本戸城が城番として武勇を轟かした事は有名な話である、現在



富岡名勝山原跡の吟詩

其城址は、本渡町を眼下に見下す、山の上にあつて、木山彈正の墓が殘されてゐる。

【千人塚】 寛永年間島

原亂の當時、一擧の首級を餉つた三千三百三十三人分を祀つた首塚で、富岡町の町はずれにあつて、老松と共に其首の共徳を物語つてゐる。

【島原の乱】

寛永十四年

極端に壓制された、當時の吉利支丹宗徒が天草四郎を大將に擁立して、時の城主唐澤氏に反旗を翻へ

した宗教一燈で、血と屍とで、天草の海や山河を埋めたといふ、血腥い歴史は今尚ほ天草を觀、天草の歴史を顧みる者の、必ず想ひ及び可き慘話である。

編纂を終へて

熊本市三大事業記念國産共進會は未嘗有の大計三府三十七縣の参加を以て、其規模の大なる内容の充實せるは關西以西かつて其比を見ぬのなり之を熊本市政記者團に依りて協賛會では熊本市政記者團を編纂發行する事と務の傍に發行準備にか、引致し上梓するを得たのであります、其間顧問三上熊本市文書課長、同田邊勸業課長が内外俱に多大なる盡力を賜つた事に深く感謝する處であります、更に一言したきは我等は忙がしい業務の余暇を僉んで此大事業に従事した事として内容の杜撰は素より免がれざる處其足らざる責めはあまんじて負ひます幸ひに諒せられん事を

- | | | | |
|---------|-------|---------|-------|
| 大熊本新聞社 | 本田 康喜 | 九州毎日新聞社 | 渡邊 利忠 |
| 九州新聞社 | 高田 次郎 | 九州日日新聞社 | 高田 惠統 |
| 熊本日日新聞社 | 山口 周藏 | 熊本雜報社 | 福田 秀武 |
| 熊本日報社 | 深町 糸夫 | 大阪毎日新聞社 | 木村 俊作 |
| 大阪朝日新聞社 | 鹽田 晋治 | 熊本通信部 | |
| 熊本通信部 | | 熊本中立新聞社 | 日高 茂 |

— 景 全 —



部一ノ場賣内店

各種絨物卸商
株式会社八木商店

本店 熊本市細屋町貳丁目

電話 九〇〇番
九七七番

出張所 大崎市東區北久寶寺町貳丁目
電話 船場七三二番

取扱品目

- 一、洋反物類
- 一、尾州絨物
- 一、京安服染物類
- 一、足利絨物
- 一、遠州絨物
- 一、毛織物類
- 一、秩父、伊勢崎絨物
- 一、越後絨物
- 一、リヨス及雜貨
- 一、八王子、米澤絨物
- 一、播州絨物
- 一、其他雜絨布

臺灣

烏龍茶



- (一) 烏龍茶は香気芳烈にして、飲ぶに久しく英、米、人間に常用せらる。
- (二) 烏龍茶は緑茶の如く興奮性を失ふ事なく、飲用するに最も適する。
- (三) 烏龍茶は紅茶の如く、過量に飲ぶと、胃腸の如く、消化を妨げ、睡眠を妨ぐるが如きことなき。
- (四) 烏龍茶は、飲用の色味、最も適する。

法用使の茶ンローウ

- (一) 出し方は先づ緑茶より幾分少量を急須に入れて熱湯を注ぎ、程よく飲用に供すべし。此時水色は淡褐色なる可とす。
- (二) 牛乳は絶対に加味せざる可とす。
- (三) 烏龍茶は砂糖を加ふるも差支なけれど、飲用者は慣るゝに従ひ其量を減じ終には全く甘味なくして純粋なる香氣を賞美するに至る可とす。
- (四) 牛乳砂糖を用ゐざるにより紅茶、コーヒー等に比し使用上極めて簡便易なり。
- (五) 烏龍茶は煎茶と同様に使用すべきものなるに、世人は往々之を紅茶の如く考へ大なる茶瓶に入れて煎じ出すものあるは全く其用法を誤れるものなり。

臺灣バナナ

常夏の臺灣には、野にも山にも四季を通じて、房々としたバナナが見渡す限り實つてゐます。南國の香高いバナナは、美味しいばかりか、滋養分も多く、一本の營養價は鶏卵一箇半に當ります。

數ある食品の中で、こんなに營養價に富んだものは尠く、發育盛りの子供さんなどには一番適した果物です。

バナナはまた食後の果物として、理想的で宴會や御家庭の食卓にも無くてならぬ文化的デザートで、近頃はフライにしたり牛乳やサラダ油などで調味する新材料法も試みられてゐます。

おいしく、滋養に富んだ臺灣のバナナを御奨め致します。

表	較	比	價	養	營
林	仲	蜜	牛	鶏	炭水
廣	柑	バナナ	乳	卵	化物
〇五	二	一箇	〇五	二七	百五ノ
〇五	〇五	〇四	〇八	二七	七
二二	二六	二六	〇九	一八	七
〇	〇	〇六	〇七	二七	〇

肥後茶商

ふら茶いり

たけのこ

鳴末た

ふら茶いり

あま

茶商 (いろは順)

- 熊本市九品寺町 中橋 莊吉
- 熊本市琴平町三 那須 秀雄
- 熊本市上通町五 工藤 三友堂
- 熊本市細工町五 松本 徳太郎
- 熊本市吳服町三 眞邊 竹八
- 熊本市坪井廣町 菊池 先春堂
- 熊本市安巳橋通町 森本 弘吉
- 熊本市新町三丁目 森本 利三吉

肥後の

名物

山茶が御座る

(いろは順)

- 下益城郡小川町 花岡 光次郎
- 球磨郡人吉町 豊原 親次
- 飽託郡清水村 龍田山 製茶所
- 球磨郡人吉町 高山 卯太郎
- 球磨郡人吉町 植田 金作
- 下益城郡小川町 熊谷 太七郎
- 球磨郡人吉町 山本 末彦
- 球磨郡人吉町 藤木 登次郎
- 球磨郡人吉町 藤木 兵吉
- 球磨郡人吉町 森田 虎太



(天然生山茶)

香氣芳烈

味もよい

祝熊本市三大事業紀念國產共進會

關 東 廳

吾社ノ使命

人類ノ福祉ヲ増進スルノ大綱ニ據リ日華共存
 共營ノ主義ニ則リテ其ノ施設ハ頗ル實着ニ其
 ノ營業ハ極メテ公正ニ資本ヲ分チ收益ヲ割キ
 テ之ヲ滿蒙文化ノ發達ニ資シ期スルトコロハ
 東洋ニ於ケル模範的平和郷極樂土ヲ出現セシ
 ムルニ存セリ



南滿洲鐵道株式會社

資本金	四億四千萬圓
社債現在高	二億二千萬圓
諸積立金	約八千五百萬圓
興業費	五億三千六百萬圓
事業	鐵道、港灣、埠頭、倉庫、工場、 旅館、採炭、製鐵、電氣、瓦斯、 產業施設、地方經營
大正十二年 度營業成績	收入 約一億八千五百萬圓 支出 約一億五千萬圓 利益 約三千五百萬圓
從事員	三萬八千二百三人 (內華人一萬五千八百七十五人)

本社 滿洲大連市東公園町
 支社 東京市丸の内ビルヂング内
 鮮滿案内所 東京支社内、大阪市東區瓦町、下關驛前

九州製紙株式會社

熊本縣八代郡上松求麻村



當會社ハ明治三十六年資本金八拾貳萬圓ヲ以テ創立シ當時ノ設備ハ抄紙機貳臺、破布、稿ノ原料製造機ナリシヲ明治四拾年資本金壹百萬圓トシ抄紙機貳臺ヲ増設シ更ニ同四拾貳年自家用電氣事業ヲ起工シ以テ動力ノ統一ヲ計レリ大正元年木質原料工場ヲ

一、資本金

金壹千萬圓也

一、製造高

年額壹億萬封度

一、販路

内地、滿韓、其他殖民地、支那、南洋各地

一、製品

模造紙、上中質印刷紙、葉書用紙、荷札用紙、新聞用紙、各種ロール紙、各種包紙、有光紙、

一、工場

坂本工場

熊本縣八代郡八代驛前

八代工場

熊本縣八代郡八代驛前

新設シテ原料ノ自給ヲ完成シ同五年支那向輸出有光紙抄紙機貳臺ヲ増設シ資本金貳百五十萬圓トセリ大正拾貳年資本金壹千萬圓ニ増額シ八代工場新設ノ工ヲ起シ同拾參年之レガ運轉ヲ爲セリ



如上創業當時ハ貳臺ノ抄紙機ト之レニ對應スル原料設備ニ過ギザリシニ爾來銳意事業ノ進展ヲ計リ目下坂本工場ニ於テハ抄紙機六臺ト之レニ應スル木質原料工場破布、稿原料工場、自家用發電所ヲ完備シ八代工場ニハ世界最新式抄紙機ヲ運轉セリ

尙ホ當社ハ時運ノ進展ニ鑑ミ坂本工場ノ改修ト八代工場第二増設計畫ヲ期シ一面將來原料自給ノ目的ニテ樺太、沿海洲、滿洲ニ幾多ノ計畫ヲ爲シ現ニ樺太工業株式會社、鴨綠紅製紙株式會社、當社ノ姊妹會社ナリ而シテ當社ノ役員ヲ舉クレバ

社長 大川平三郎

專務取締役 長谷川太郎吉

取締役 田中榮八郎

取締役 林 千 八

取締役 大川 鐵 雄

監査役 藤田好三郎

理事 相良 周吉

取締役 玉城直太郎

取締役 山内 榮 吉

監査役 田村 久 八

監査役 熊澤 一 衛

ツ先ハ用御ノ車動自

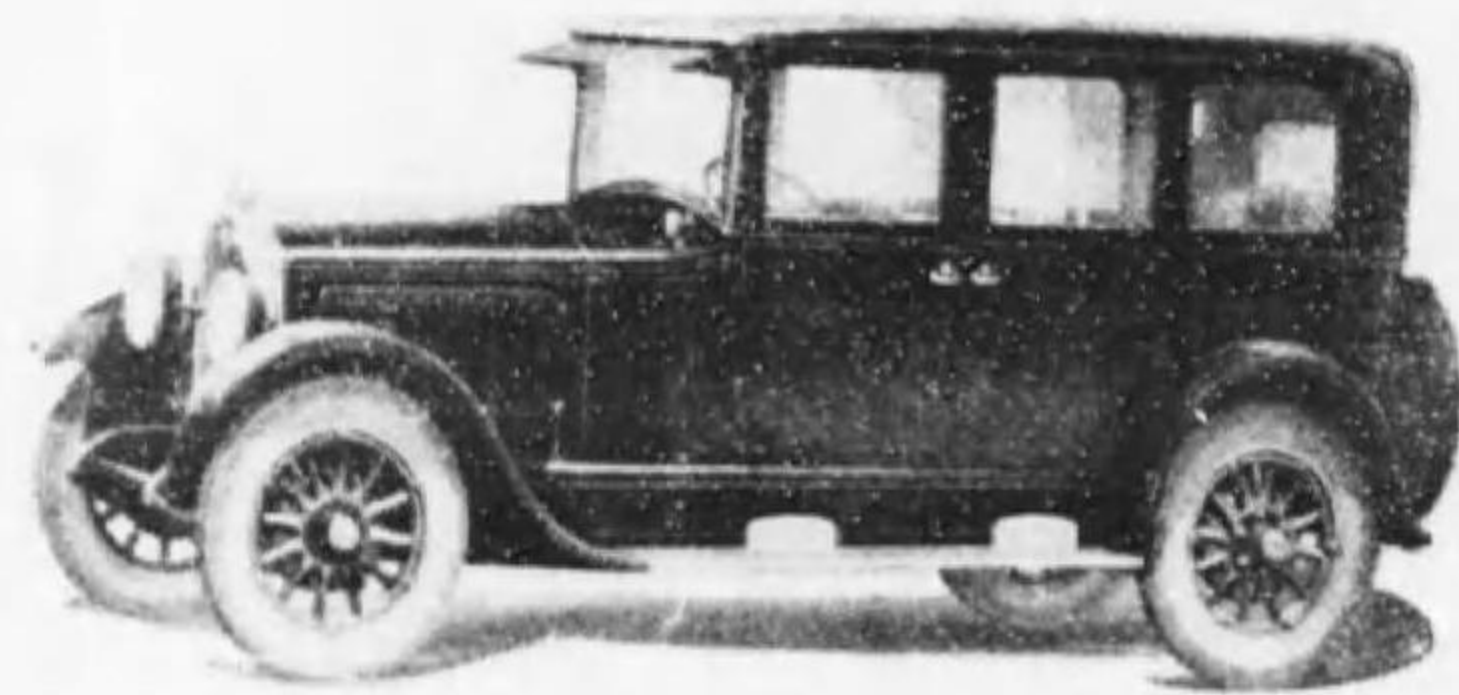
店支多博 會社 車動自瀨梁 町服吳上市岡福

店理代本熊 會社 車動自瀨梁 町端川市本熊

車動自

ジ
ー
エ
ム
、
シ
ー
號

シ
ボ
レ
ー
號



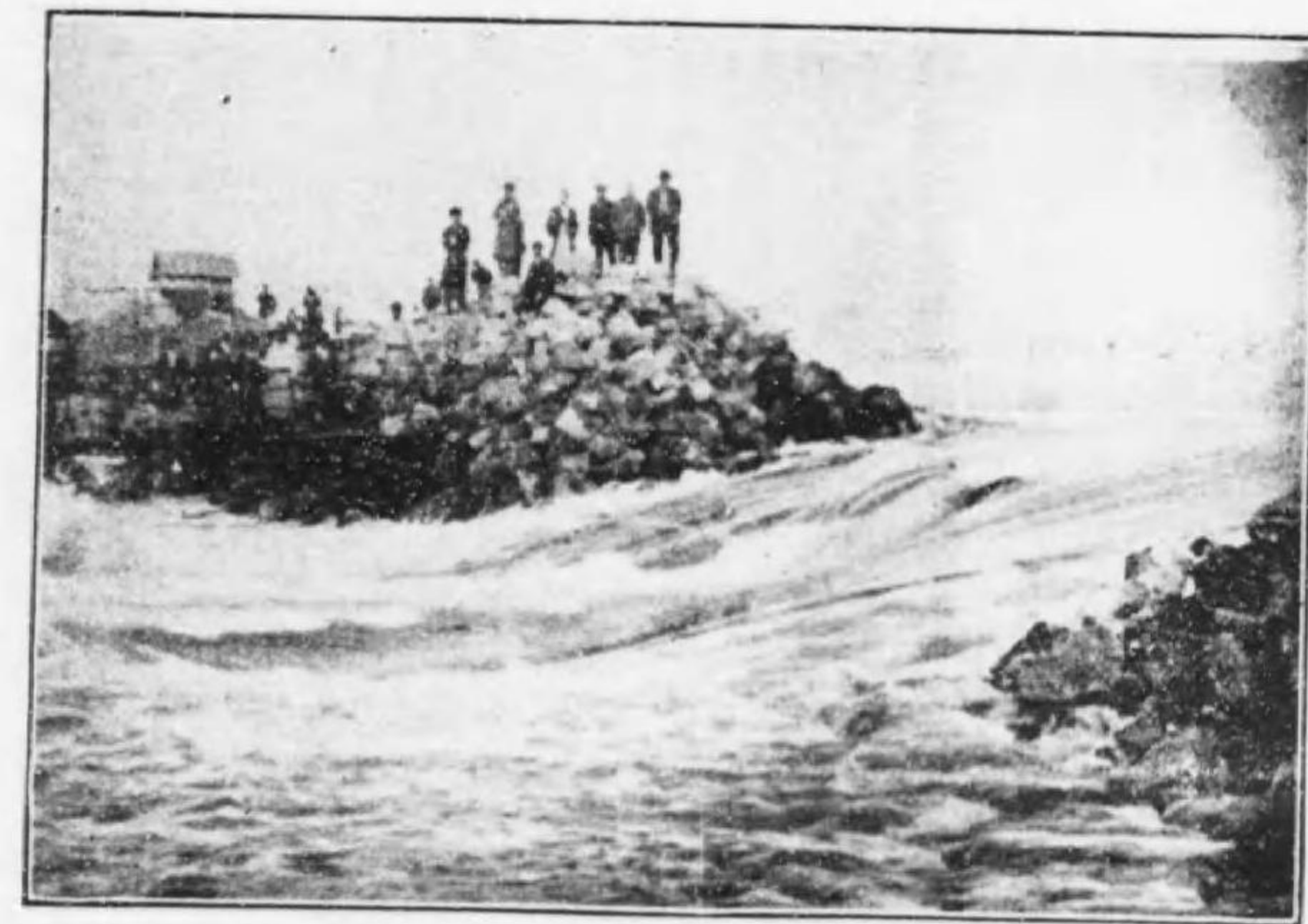
内ノ丸京東

ノ判評

カ
デ
ラ
ツ
ク
號

ビ
ウ
イ
ツ
ク
號

社 會 式 株 車 動 自 瀨 梁



(八代)縣營新地四號湖止工事

町 寶 市 倉 小
組 林 小
郎 一 德 林 小

熊本市九品寺六〇五

熊本製絲株式會社

電話五二番

株式會社 共益社鐵工所

熊本市大江町ニ在リ明治四十五年七月ノ創業ニシテ漸次發展シテ今日ノ盛況ヲ見ルニ至レリ現在資本金五拾萬圓全額拂込済ニシテ從業者ハ二百三十人一ケ年製作高ハ金六拾萬圓ナリ製品ノ主ナルモノハ洗炭機、撰炭機其他ノ鑛山用機械、タービンポンプ、灌溉用渦卷ポンプ其他ポンプ類、電氣捲揚機、蒸汽捲揚機及コンベヤー類、特許川合式羽口、汽機汽罐其他原動機類等ナリ殊ニ特許共益社式洗炭機ハ米國式獨逸式、白耳



義式其他ニ比シ最優良ナルコトヲ認メラレ九州各炭坑始メ北海道、常磐地方、滿州地方、支那方面ニモ供給シツ、アリ社長ハ中津親義氏ニシテ自ラ勞働服ヲ着シ技工ト共ニ勞働シ人格ト勞働ノ一致ヲ唱ヘ氏ガ所謂人格主義ノ實現ヲ期シツ、アリ

創立 明治三十九年一月十二日
 資本金 貳千貳百萬圓
 財產銷却高 壹千貳百貳拾四萬圓
 積立金 參百參拾五萬圓
 使用電力 五萬八千馬力
 製造品目
 カーバイト、石灰窒素、硫酸アンモニア、アンモニア水、修酸アンモニア、酸素、セメント、



日本窒素肥料株式會社

本社工場 大阪市北區玉江町二丁目四番地ノ一
 鏡工場 熊本縣八代郡鏡町
 水俣工場 熊本縣葦北郡水俣町
 延岡工場 宮崎縣東臼杵郡恒富村
 白川發電所 熊本縣菊池郡瀬田村
 川内川發電所 鹿兒島縣薩摩郡鶴田村
 內大臣川發電所 熊本縣上益城郡白糸村
 綠川發電所 熊本縣下益城郡東砥用村
 曾木發電所 鹿兒島縣伊佐郡羽月村
 栗野發電所 鹿兒島縣始良郡栗野村

共進會博覽會
 電氣裝飾普通裝飾
 假設建築貸天幕
 各種看板各種意匠圖案
 各種裝飾品販賣
 設計工事請負

本社 福岡市住吉三丁目二三七
 會社 高橋商會
 支社 熊本市櫻町一番地

本社 電話福岡三〇九六番
 支社 電話熊本一〇四一番

營業項目

建築請負
 商品陳列
 裝飾ニ關スル設計施工
 廣告塔設計施工
 市道路裝飾設計施工
 電氣裝飾ニ關スル設計施工
 廣告裝飾ニ關スル設計
 及設計施工一般計



日東裝飾社

社主 大江臺輔

本店 福岡市春吉百七十五番地

出張所 熊本市辛島町十一番地

電話 一、八二六番

陳列硝子戸棚

高等裝飾品

牧畜蕃殖



金澤市高岡町三番地

金田商會

八日市組熊本出張所

熊本市手取本町四五

熊本 田代屋(美)吳服店 上通



弊温泉は今より卅有餘年前に發見し以來光輝ある歴史を有し開業後慢性の神經痛リウマチス關節炎其他種々の重病患者を全治せし者幾万なるか枚舉に遑あらず有効顯著なる靈鑛泉に有之候就ては永年各位の御厚情に報ゆる爲め從來の宿泊料を三割引として勉強致候間御近隣御誘合何卒御來遊被下度伏而奉待上候 敬具

此度弊館の前に會社組織の湯屋建築有之候に付御出遊の節は舊温泉或は有働温泉と御指名被下度亦列車毎に御出迎可申上候

肥後鹿本郡田底村 鹿本鐵道宮原 驛ヨリ二丁

元祖 宮原温泉 主 有働大藏

神明湯總本家主



神明湯は信用を基礎とし効能を本位とせる靈藥にて大典紀念國產共進會に於て熊本縣國產品として天下に推賞されたる名譽の良藥なり

藥湯營業及特約希望の方は照會あれ、委細回答

熊本縣鹿本郡米田村坂田

本舖 柿山神明堂

振替口座福岡四七四二番



湯藥神明湯

藥湯 神明湯 總本家 柿山峻熙謹製

電零(カキ)又ハ(カオキ)

主治効能

リウマチス 神經痛 骨節痛 胃腸病
子宮病 痲痺 梅毒 火傷
脚氣 齒痛 皮膚病及血の道一切
其他四季の攝養的湯治に頗る神効あり



西海 下田本店

美酒「西海」

熊本縣隈庄町 下田理平太吟釀

熊本縣下益城郡隈庄町の資産家下田理平太氏の醸造に係る銘酒「西海」は、遠く寶曆年間の醸造に係るものにして、九代に亘つて事業連續繼承し、酒質の卓越優秀なる事を以つて知られ、其の醸造物は、常に最新の學理と最

善の設計を施せるもので、事業の基礎又確實であり、販路は縣下は勿論鹿兒島、宮崎方面に向ひ、其の盛價益々昂りつゝ、ある

陶然

調昭代

銘酒 西海

●意匠の新と抜擢の技士 !! 望まれる御方は !! 早く良く安く竣工の期正!!

- ▲館内出品陳列裝飾
- ▲背景揮毫
- ▲式場宴會場諸設備
- ▲アーチ及特設館建設
- ▲廣告塔及街路裝飾
- ▲電燈點滅及動的裝置
- ▲各種意匠圖案
- 電車内の廣告揭示

建築部 熊本建材社

熊本市船場町二丁目
電話 五二〇番

裝飾部 共進社

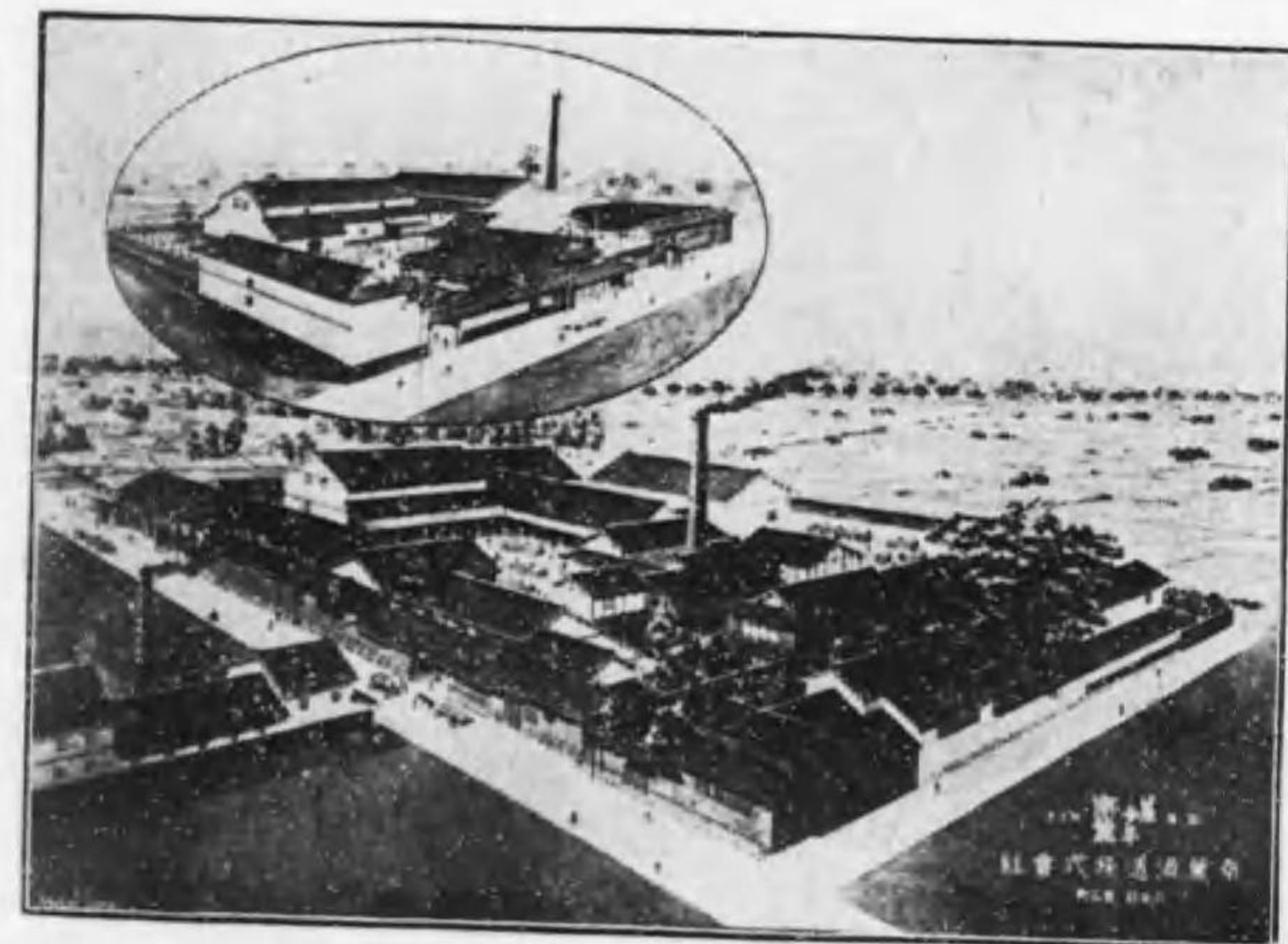
熊本市新町貳丁目五
電話 四二五番

會場内西門入口左側
共進社事務所
主社
三牧萬吉



銘酒『美少年』

熊本縣隈庄町 南薰酒造株式會社釀造



熊本縣下益城郡隈庄町緒方求太郎氏の吟醸に係る銘酒『南薰美少年』は遠く寶曆年間の創業當初肥後赤酒なりしも、明治十二年現改良酒の醸造を創め、先代求太郎氏歿後、大正二年現主求太郎事業を繼承し、大正二年株式會社に組織を變更、同時に第二酒造場を設置し年々二千石を醸造しつゝあり。銘酒美少年の聲價は歳々共に昂り、販路は縣下は勿論、鹿兒島福岡宮崎神戸の各市、及び遠く南洋、パラオ、サイパン方面に向ひつつある、最近更に瓶詰工場を新設して、大々的に瓶詰酒の宣傳販賣に努め、肥後精酒界に獨歩の境地を示しつゝあり。

靈鷹入門

優清良酒

瑞鷹

ウヨ井ズ

肥後國川尻町

吉村合名會社釀造

銘酒『瑞鷹』は肥後の誇りである。熊本縣川尻町吉村合名會社の醸造に係る優良清酒にして巔然一頭角を現し、斯界に異彩を放つて居る。明治廿五年、帝國憲



法發布の日、露鷹飛翔し來たりて醸造庫内に舞込み、之れより銘酒『瑞鷹』の名現はるゝ、共に、聲價、ともに高まり、事業年々共に盛大を加へ、大正十二年川尻附近に五百坪の第二醸造場を新設し造石高を増し肥後の銘酒として縣下は勿論、九州各縣、及び朝鮮滿洲方面に販路擴大しつゝある

第一銀行熊本支店

(イロハ順)

熊本市中唐人町

電話 特長七七番
長一三七番
長四五七番

安田銀行熊本支店

熊本市米屋町一丁目

電話 特長九
長一〇八番
長七八九番
一六六七番

十五銀行熊本支店

熊本市鹽屋裏町二番丁

電話 長五九九
五九五

十八銀行熊本支店

熊本市米屋町一丁目

電話 長一六番
長六三七番
一七五九番

肥後農工銀行

熊本市紺屋一丁目

電話 一四番
二二番
一六六番

土木建築請負

並設計監督

大阪佐伯工務所

所長 佐伯與之吉

本店 大阪市西區市岡町

電話特長西一〇九〇番

出張所 東京市京橋區木挽町

同 大分市南新町

電話長三七〇番

同 福岡市外馬出上町

電話特長二七七七番

同 熊本市相撲町

電話長三九四番

同 宮崎旭通り

電話四〇六番

土木建築

廣島

藤田組

本店 廣島市針屋町三〇番地

電話 特四 五七番
一九五五番

支店 東京市丸ノ内仲通九號ノ七

電話特長牛込一三九五番

請負

出張所

大分市 稻利町

電話長五三一番

小倉市 外砂津町

電話長一〇八番

久留米市 花畑町

電話長五七四番

熊本市新屋敷町傘二番丁

電話九七七番

於全酒類品評會一等賞受領

銘酒

肥 後 櫻

肥後川尻町

熊本酒造株式會社

社長 大塚勇太郎

銘酒 九曜正宗

熊本市米屋町 西岡壽一郎釀造
門鐵局指定瓶詰販賣
熊本縣一手引受銘酒



嘉永年間下益城郡隈庄町に於て創始明治廿六年七月火災の爲全焼せしを期として熊本に移轉し現在の場所に新築し明治三十年十月開業し先代壽一郎氏銘酒釀造に専心意を注ぎ傍ら其の宣傳に努め全九州は素より朝鮮滿洲上海臺灣方面に販路を擴張し爲めに名聲頓に擧り斯業に従事せる者皆九曜正宗を知らざるなきに至る其間宣傳費用に巨萬の資を投じたる結果愈々九曜正宗の順境に赴かんとするの時偶々大正五年七月病魔の犯す所となり長逝し當代幼少業を繼ぐ能はず末亡人先代の意志を繼ぎ拮据經營銘釀の名を落さず販路の維持擴張に専心餘念なく今日に及び益々發展しつゝある。

熊本海外協會

- 一、本會ハ海外各地ニ在ル本縣人ト連絡シ對外事業ノ發展ヲ圖ル唯一ノ機關ナリ
- 一、本會ハ其目的ヲ達スルタメニ●會報ノ發刊●海外派遣生ヲ滿蒙南洋及南米ニ滞在セシム●在外會員ノ子女ヲ教育スル學園ノ設置●渡航ノ手續
- 一、海外興業株式會社トノ連絡
- 一、貿易品ノ紹介其他
- 一、本會ハ國庫ノ補助ニ依リ海外發展獎勵ノ爲其實行上中央ニ海外協會中央會ヲ有ス

祝國產共進會

熊本電氣軌道株式會社

電車沿線名所案内

- 上高橋 ■高橋稻荷大明神
- 松尾 ■岩戸觀音 ■小嶋町
- 先帝陛下行在所跡 ■盜人島 ■汐干狩
- 河内溫泉、有明溫泉へハ百貫ヨリ自動車ノ便アリ

朝鮮産業ト貿易ノ今昔

韓國時代ハ庶政弛緩シ産業亦萎微不振ヲ呈シ其生産額ノ如キ明治四十四年總督府設置ノ翌年ニ於テハ僅ニ四億二千萬圓輸移出入額七千三百萬圓ニ過キサリシモ爾來銳意産業ノ振興ヲ講シ農業ノ發達ヲ圖リテ食糧ノ充實母國ヘノ供給ニ努メ荒廢セル林業ヲ興シテ植林ヲ勵行シ林産物ノ増産ヲ圖リ幼稚ナリシ水産業ヲ改メテ漁獲及水産製品ノ改善増進ヲ獎勵シ鑛床ヲ調査シテ鑛物ノ分布及存量ヲ明ニシ鑛業ノ勃興ヲ促シ豊富ナル工業原料ヲ利用シ全ク形骸ヲ留メサリシ工業ヲ新興シテ工産品ノ自給ニ進ム等利源ノ開發産業ノ發達ニ主力ヲ傾注シタル結果最近ニ於ケル生産額十六億圓ニ達シ輸移出入額六億三千九百萬圓ヲ算シ之ヲ明治四十四年ニ比

スルトキハ生産額ニ於テ約四倍輸移出入額ニ於テ約九倍ヲ示スニ至レリ

生産額

明治四十四年 大正十二年

農産物 三億五千五百萬圓 七億六千六百萬圓
 林産物 二千 萬圓 七千四百萬圓
 水産物 九 百 萬圓 八千三百萬圓
 鑛産物 六 百 萬圓 千七百萬圓
 工産物 三千 百 萬圓 二億六千萬圓
 合計 四億二千 百 萬圓 十六億 萬圓

貿易額

明治四十四年 大正十三年

輸 出 六 百 萬圓 二千二百萬圓
 移 出 千三百萬圓 三億七百萬圓
 輸 入 二 千 萬圓 九千八百萬圓
 移 入 三千四百萬圓 二億二千三百萬圓
 合計 七千三百萬圓 六億三千九百萬圓

土木建築請負業

飯田組

飯田壽一

徳永組

徳永惣作

營業項目

裝飾電飾ニ關
 スル設計施工
 共進會計畫及
 設計施工
 娛樂場ノ計畫
 及設計施工

ウキタ電氣營業所

大阪南區堺筋八幡筋停留場前
 電話 總南五二〇番
 東京京橋區尾張町交叉點前
 電話 持長銀座四二〇番

合同熊本出張所

熊本市練兵町
 早野ビルディング二階
 電話 九〇四番

長谷裝飾工務所

本店 福岡市渡邊通三丁目
 電話 一長一三三二番
 出張所 東京、大阪

圖案裝飾建築請負

博多裝飾社

本社 福岡市博多橋口町

電話六八七番

人形部 福岡市博多上濱口町

電話五四九番

圖案部 福岡市博多下瀬町

電話三二七六番

裝飾部 福岡市春吉三番丁

電話二六五九番

臨時出張事務所 熊本市櫻町四八

共進會場内

電話四四二番

裝飾材料
特設館
出品裝飾
造花裝飾
廣告塔
美術看板

成實家裝飾店

アサヒ工舎看板店

熊本海産株式會社

當魚市場ノ開始ハ年代明カナラザルモ遠ク清正公時代ニ創設セラレタリト傳ヘラル、明治初年ノ頃細工町ヨリ現在ノ新町三丁目ニ移轉セリ明治三十一年三月三日個人同業者ハ時勢ニ鑑ミ一團トナリテ合資會社ヲ組織シ熊本海産合資會社ト稱セリ、次テ大正二年十二月株式會社ニ組織ヲ變更シ現今ニ至ル。

現在役員

取締役社長	森	木	茂	平	次
全	橋	田	仁	太	郎
全	津	下	伊	平	
全	渡	邊	熊	次	郎
全	福	島	權	四	郎



資本金 二千六百萬圓
創業 明治廿四年
熊本電氣株式會社

熊本市紺屋今町四十六番地

電力 電燈個數 401,200 燈
電力契約高 40,000 キロワット

水力	{ 常用 35,940 キロワット
	{ 豫備 6,130 "
火力	{ 常用 4,000 "
	{ 豫備 4,000 "

取締役社長

紫 藤 章

營業種目

陳列及裝飾 各種圖案
 特設館建設 町内裝飾
 一般廣告 美術看板

本社 長崎市出来大工町七

電話 一二〇六番

支社 熊本市櫻町八番地

電話 一四二六番ノ乙

出張所 共進會々場内

長崎圖案社
 手島均



醬油「ミツヨシ」醸造元
 ショヅミ油醬
 元造釀



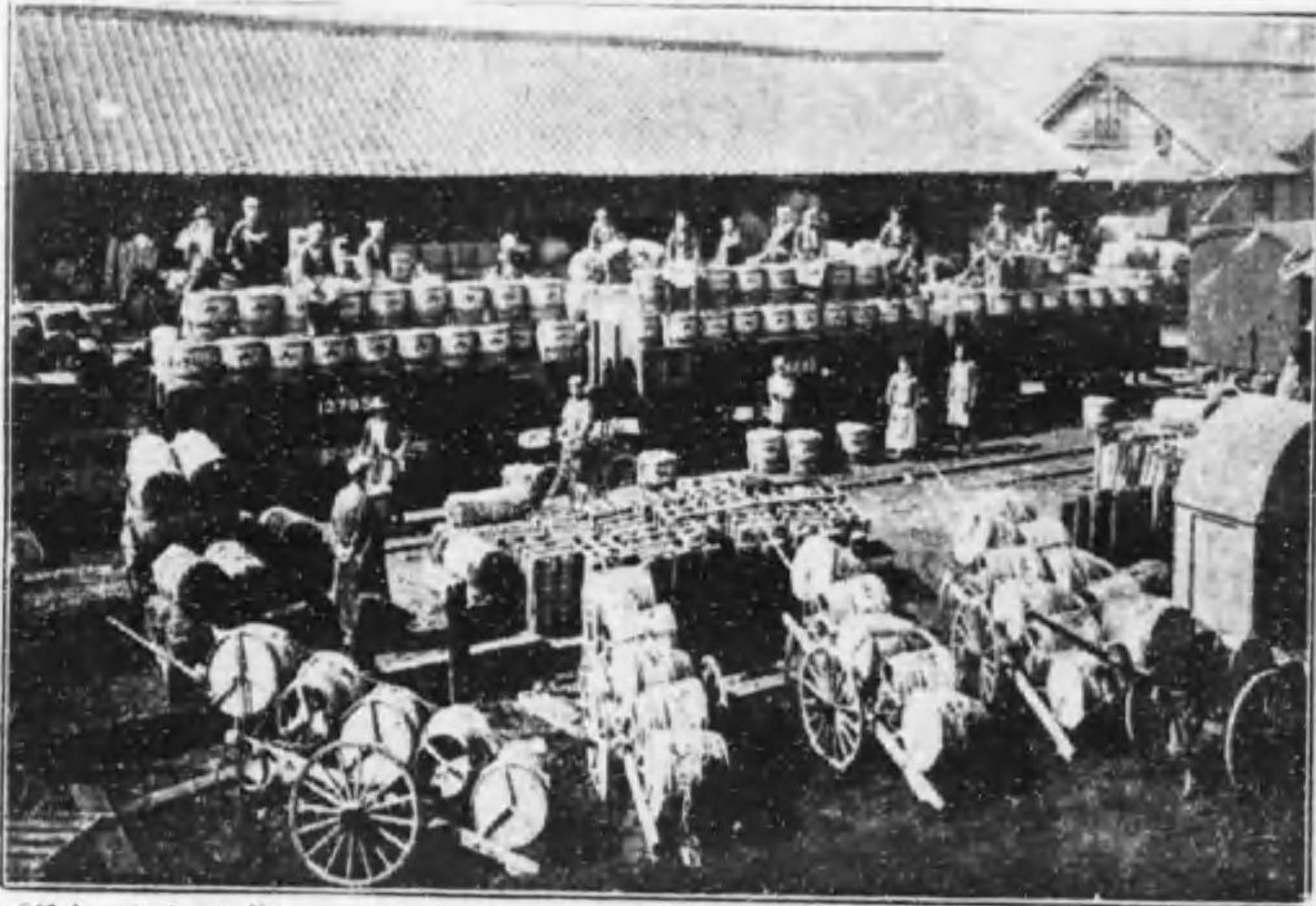
醬油「ミツヨシ」醸造元上田彦次郎商店は明治二十五年の創業で先代上田彦次郎氏が本家油屋より分家して醬油醸造業を始め、拮据經營幾多の苦辛を経て遂に理想的の醬油を創造し肥后醬油の聲價を高むるに至つたが大正十年當代源吾氏が業を繼ぐや氏は二十三才の弱年でよく先代の志を承け家業は益々盛大に趣き大正十年大分に於ける九州沖繩八縣聯合共進會及び各種の共進會品評會に出品して優等賞を受け兩回に亘り宮内省献上の御沙汰を蒙り縣下は素より九州一圓から遠く臺灣朝鮮にまで販路を有してゐる、醸造場には明治四十年同業者に卒先して蒸氣氣罐を据付け其他新式の機械を設備して年醸造石高四千五百石に達してゐる（熊本市南千反畑町）



長崎書店



熊本の長崎書店と云へば誰知らぬものはない界限切つての老舗である。店主長崎茂平氏は先代長崎次郎氏の養子で熊本商業学校を出で次で英學校に學び更に上京して専修學校を出で明治二十二年三月現在の場合に書店を開いたが忽ち大繁昌を來し門前常に市を爲すの盛況を見たので明治三十二年理科學器械部を設け翌三十三年店內を西洋式に改造し明治四十四年組織を合名會社と爲し大正三年安岡工學士の設計に係る理想的書籍店に改築し今日に至つてゐる。長崎氏は曾つて商業會議所議員、市會議員の公職に擧げられたこともある、公私共に熊本市の文化に貢献するところ尠くない。



(景光ノ出積驛本熊)

元造釀油醬

(番九六話電)地番四二町迎市本熊

店商八常城玉

約百年前の創業に係る全店は最新釀造學理と新式機械とを基礎として加ふるに永年の實験を以て盛に優良品の製出に務め其の釀造場に於ける設備の如きは關西稀に見る所にして人力を省き清潔を本とし凡ゆる特長を有し製産費の低廉なる等實に間然する處なき營業振である産額等は九州に於て常に一頭地を抜き其業績の穩健着實なる同業者内既に定評ある處である其の品質優秀なるは各地博覽會品評會等に於て受賞せしは枚舉に遑なく如何に其の品質の卓越せるかを如實に物語るものである、其の主なる受賞は「大正博覽會金牌受領」「桑港萬國大博覽會金牌受領」「平和記念東京博覽會金牌受領」等の如き日本的或は對外國的に其の榮譽赫々たるを認むる所以に之に加ふるに宮内省御買上又は献上御嘉納等屢々光榮に浴したるに見るも明かである其販路は九州一圓は素より中國廣島方面及び遠く臺灣朝鮮方面等は多量販賣車臺積にて移出をなし商勢駁々として停止する所を知らざる概がある。

熊本米穀取引所



株式會社熊本米穀取引所
設立の趣意
熊本米穀取引所の設立は、熊本県の米穀産出地として、米穀の取引を促進し、米穀の流通を円滑にすることを目的とする。本取引所は、昭和二十二年八月に設立され、現在に至るまで、米穀の取引を積極的に推進している。本取引所は、米穀の取引を促進し、米穀の流通を円滑にすることを目的とする。本取引所は、昭和二十二年八月に設立され、現在に至るまで、米穀の取引を積極的に推進している。

山隈康ノ諸氏ナリ
理事ハ全魚住八、監査役又
五郎、生田軍太、理事古、常務
山隈康ノ諸氏ナリ
理事ハ全魚住八、監査役又

油 醬 良 最



醸造元 球磨郡人吉町
多田喜三郎

油 醬 良 最



醸造元 熊本市出町
大久保彦四郎

油 醬 良 最



醸造元 熊本市大江町九品寺
大久保彌熊

電話一五九〇番

油 醬 良 最



熊本市木莊町
釀造元 **西尾清太郎**
電話 長六〇三番
六九三番

油 醬 良 最



熊本市蔚山町
釀造元 **渡邊十兵衛**
電話 二八〇番

油 醬 良 最



熊本市淨行寺町
釀造元 **豊前屋西店**
阿部醸造部
電話 二二五番
振替福岡一二三九番

油 醬 良 最



熊本市北千反畑町
釀造元 **古庄政吉**
電話 一〇四番

省線上熊本驛上熊本との連絡



起 點 省線上熊本驛
終 點 菊池郡隈府町
哩 數 十六哩二步
列車運轉 室園上熊本間十
分每室園隈府一
時間每

社長 松野鶴平

菊池電氣軌道株式會社

創立 明治四十二年八月十五日
資本金 貳百萬圓

加藤社前二重橋



284
315

大正十四年三月十七日印刷
大正十四年三月廿日發行

熊本市下通町二丁目百六番地

發行兼編輯者 木村俊作

熊本市昇町三番地

印刷者 木村禎藏

熊本市昇町三番地

印刷所 大同印刷株式會社

熊本市手取本町熊本市役所内

發行所

熊本市三大事業記念國
產共進會熊本縣協賛會

終

熊本市三大事業記念國産共進會

協賛會

大正十四年 自三月二十日
至五月三日